

CMES ANNUAL REPORT 2010

Vol.
011

愛媛大学 沿岸環境科学研究中心 年報

愛媛大学沿岸環境科学研究中心
年 報

(第 11 号)

2010年

まえがき

平成21年4月に CMES は設立10周年を迎える、 平成20年度に学内に設置された「沿岸環境科学研究中心あり方検討委員会」による過去10年間の活動評価と今後のあり方についての検討結果を踏まえて改組を行い、新組織により再出発しました。このため、毎年の活動を掲載してきたこの「年報」も、本号から表紙を一新することとしました。ただし、内容についてはこれまでどおりCMESの活動のほぼ全容を網羅することとし、大きな変更はしていません。

さて、本号への掲載対象である平成21年度の活動としてまずあげておきたいのは、10周年記念行事です。この行事は愛媛大学の開学60周年記念行事の一環として、8月21日に松山市内のホテルで行われました。記念行事は、記念シンポジウム、記念式典、祝賀会の3部構成で、学内外から200名を越える参加者を得て盛大に開催され、CMES の再出発を内外にアピールすることができました。(記念行事の詳細は本号の5.3やCMESニュース21号をご参照ください)

CMESの現在の活動を中心となっているのはグローバルCOEプログラムですが、平成21年度には中間評価が行われ、CMESを中心とする「化学物質の環境科学教育研究拠点」がA評価を受けるとともに、「特に優れた拠点」にも選ばれました。この中間評価では、平成19年度に発足した5分野63拠点のうち、ほぼ3分の2がA評価を受けましたが、「特に優れた拠点」は5つの分野ごとに2拠点ずつ選ばれたものです。本拠点は発足時にも重点支援11拠点に選ばれましたが、この中間評価ではそれ相応しい成果をあげたと認められたといえるでしょう。関係各位のご支援に深く感謝いたします。平成21年度のGCOEの具体的活動としては、国内外の著名研究者を招聘してのGCOE特別セミナーを11回、若手が主催する GCOE 若手の会特別セミナーを7回開催し、昨年度から開始したキャリアパス講座を1回開催しました。また9月には、ポルトガルのアベイロ大学において、同大学のCESAM (Center for Environmental and Marine Studies) と共に、国際シンポジウム「Biological Responses to Chemical Contaminants : from Molecular to Community Level」を開催しました。CESAMとはこれまででも鈴木教授を中心に活発な交流実績があり、平成22年度中にCMESとCESAMの間で国際交流協定を締結する予定となっています。さらに12月には、「International Symposium on Environmental Specimen Bank (ESB Symp. 2009) —Exploring Possibility of Setting-up ESBs in Developing Countries—」を開催しました。これらのほか、この年度からの新しい企画として、本拠点の若手と国立環境研究所の若手が共同で「Joint Symposium of Young Scientists in Ehime University and National」を開催し、CMESの所有する最先端機器を用いた分析技術を習得するための「GCOE分析機器ワークショップ」を初めて開催しました。以上のように、3年目となる GCOE では、教育を中心とする各種の活動を活発に行いました。

平成21年度には、GCOE以外の外部資金の受け入れも飛躍的に増加しました。中心となる科研費に関しては、岩田教授の基盤研究 (S)、磯辺教授の基盤研究 (A)、高橋准教授基盤研究 (B)、郭准教授の基盤研究 (B) のほか、若手研究 (B) が6件、挑戦的萌芽研究が1件、特別研究員奨励費が1件、いずれも新規に採択されました。継続分の課題とあわせると、基盤 (S) 2件、基盤 (A) 1

件、基盤（B）4件、若手（B）7件、挑戦的萌芽1件、特別研究員奨励費3件となります（いずれも研究代表者）。これらのほか、磯辺教授を代表とする環境省の地球環境研究総合推進費によるプロジェクト「市民と研究者が協働する東シナ海沿岸における海岸漂着ゴミ予報実験」は平成21年度で最終年度となります。その成果は高い評価を受け、平成22年度からいくつかの新機軸を加えた新たな課題として発足しています。

以上のように、再出発したCMESの初年度は順調であったといえるでしょう。しかしながら、これから10年はCMESにとって決して生易しいものではありません。大学を巡る諸般の情勢は一層厳しさを増しつつあり、平成23年度で終了するGCOEも、後継プログラムがあるのかどうかさえ全く見えない状況です。CMESは、こうした情勢の中でも、アジアにおける環境科学の拠点として持続的に発展していく責務を負っています。関係各位には、これからも引き続き御指導、御支援を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

平成22年7月

愛媛大学沿岸環境科学研究センター

センター長 武岡 英隆

目 次

まえがき	1
1. 総 説	4
1. 1 組織 (平成22年4月現在)	4
1. 2 各部門の概要	6
2. 研究者要覧 (平成22年4月現在)	8
3. 研究プロジェクト (平成21年度)	20
3. 1 グローバル COE プログラム	20
3. 2 科学研究費等	20
3. 3 共同研究	22
3. 4 受託研究	23
3. 5 各種研究助成金 (民間・財団等), 奨学寄付金等	24
4. 研究成果 (暦年で平成21年に出版, 掲載されたもの)	25
4. 1 著 書	25
4. 2 学協会誌等	27
4. 3 学内, 所内誌等	33
4. 4 一般誌等	33
4. 5 報告書等	34
4. 6 学会発表等	35
5. 学会及び社会における活動 (平成21年度)	52
5. 1 併任・委員会委員等	52
5. 2 学協会委員等	54
5. 3 学会, 講演会などの開催 (センター主催または共催)	55
5. 4 学会, 講演会などの開催 (個人)	69
5. 5 学会賞等	69
6. 國際的活動 (平成21年度)	71
6. 1 國際研究プロジェクト	71
6. 2 在外研究等	72
6. 3 海外調査・國際学会等	72
6. 4 外国人客員研究員等	76
6. 5 海外からの訪問者	77
6. 6 招聘研究員	77
6. 7 留学生	78
7. 教育活動	80
7. 1 卒業論文・修士論文・博士論文題目 (平成21年度)	80
7. 2 講義・集中講義 (平成21年度)	81
8. 設 備 (平成21年度導入)	86
9. 広 報 (平成21年度)	88
9. 1 CMES ニュース・グローバル COE ニュース	88
9. 2 報道関係	89
9. 3 講座, 講演会等	90
10. 調査実習船「いさな」運航状況 (平成21年度)	92
11. 研究員名簿 (平成21年度)	94
12. 客員研究員名簿 (平成21年度)	96
13. 運営委員会 (平成21年度)	99
14. センター規則および運営委員会規程	100

1. 総 説



1. 1 組織（平成22年4月現在）

センター長 : 武岡 英隆

環境動態解析部門

教授	: 武岡 英隆
教授	: 磯辺 篤彦
准教授	: 郭 新宇
助教	: 半藤 逸樹
グローバル COE 助教	: 吉江 直樹
特任助教	: 加古真一郎 (平成22年3月まで研究員)
*グローバル COE 研究員	: 河合 徹 (平成22年4月より独立行政法人国立環境研究所 環境リスク研究センター NIES ポスドクフェロー)
グローバル COE 研究員	: 小野 純
*グローバル COE 研究員	: 木村 詹明 (平成21年10月より東京大学大学院新領域 創成科学研究科助教)
研究員	: 加 玲美 (平成21年6月～)
研究員	: 藤井 直紀
研究員	: 斎藤 光代
*研究員	: 小森田智大 (平成22年4月より熊本県立大学環境共生学部 助教)
上級研究員センター上級研究員	: 加 三千宣
上級研究員センター研究員	: 佐川 拓也
事務補佐員	: 高橋 陽子
*事務補佐員	: 川瀬 尋子 (平成22年3月まで)
事務補佐員	: 大塚あかり (平成22年4月～)
事務補佐員	: 上城戸香奈 (平成22年4月～)
*技術補佐員	: 大和 由佳 (平成22年3月まで)

化学汚染・毒性解析部門

教授	: 田辺 信介
教授	: 岩田 久人
准教授	: 高橋 真
講師	: 仲山 慶
助教	: 野見山 桂
助教	: 板井 啓明
グローバル COE 准教授	: Ramaswamy Babu Rajendran (平成21年11月～)
グローバル COE 准教授	: 張 光弦
グローバル COE 准教授	: 石橋 弘志
グローバル COE 助教	: 平田佐和子
グローバル COE 助教	: 鈴木 賢一 (平成21年7月～)
*日本学術振興会特別研究員 SPD	: 鈴木 剛 (平成22年4月より独立行政法人国立環境研究所 循環型社会・廃棄物研究センター NIES 特別研究員)

1. 総 説

*グローバル COE 研究員	: Karri Ramu (平成21年10より International Crops Research institute For the Semi-Aid Tropics, Scientist (Post Doctoral Fellow))
グローバル COE 研究員	: 金 俊佑 (平成21年5月~)
*グローバル COE 研究員	: 李 鎮善 (平成21年8月より Hanyang University, ポスドク)
グローバル COE 研究員	: 平野 将司
上級研究員センター上級研究員	: 磯部 友彦
上級研究員センター研究員	: Agus Sudaryanto
グローバル COE 研究補助員	: 館森 恵子
グローバル COE 研究補助員	: 小川 次郎
*グローバル COE 研究補助員	: 篠永 知子 (平成21年9月まで)
グローバル COE 研究補助員	: 山本亜希子 (平成21年8月~)
グローバル COE 研究補助員	: 本川 祥吾 (平成22年4月~)
*科研研究支援者	: 檜垣 圭子 (平成22年3月まで)
科研研究支援者	: 河江 嘉子
事務補佐員	: 松田 昌子
事務補佐員	: 山田 道子
事務補佐員	: 小倉 美子
事務補佐員	: 中原 淳子 (平成21年9月まで技術補佐員)

生態系解析部門

教授	: 鈴木 聰
准教授	: 大森 浩二
准教授	: 北村 真一
助教	: 金本自由生
*助教	: 堀 弘道 (平成22年5月より Department of Microbiology Young Loo Lin School of Medicine, National University of Singapore)
*グローバル COE 准教授	: 大林由美子 (平成21年5月より横浜国立大学大学院工学研究院研究教員)
グローバル COE 准教授	: 濱村奈津子
グローバル COE 准教授	: Todd William Miller
*グローバル COE 研究員	: 和田 茂樹 (平成22年4月より筑波大学下田臨海実験センター助教)
*グローバル COE 研究員	: 簡 梅芳 (平成22年4月より東北学院大学 バイオテクノロジー・リサーチ・コモン 特別研究員)
グローバル COE 研究員	: 吉田 光宏 (平成22年4月~)
グローバル COE 研究員	: 嶋原 佳子 (平成21年9月~)
グローバル COE 研究員	: 柴田 淳也
グローバル COE 研究補助員	: 濱岡 秀樹
研究員	: 國弘 忠生
事務補佐員	: 金谷 由美
*事務補佐員	: 川瀬 尋子 (平成22年3月まで)
事務補佐員	: 上城戸香奈 (平成22年4月~)

国際・社会連携部門

特命教授	: Annamalai Subramanian
客員教授	: 高菅 卓三 (株式会社島津テクノリサーチ取締役)
客員教授	: Kurunthachalam Kannan (State University of New York at Albany 教授)
客員教授	: 吳 明柱 (韓国国立全南大学校水産生命医学科 教授)
客員教授	: 大久保規子 (大阪大学大学院法学研究科 教授)
客員教授	: 村田 健史 (情報通信研究機構 グループリーダー)
客員准教授	: 金 恩英 (韓国慶熙大学 助教授)

センター所属研究員等

グローバル COE 研究員	: 伊藤 克敏<南予水産研究センター>
グローバル COE 研究員	: Fritzie Tuble Celino (平成21年10月~)
グローバル COE 研究員	: 西本 壮吾<農学部>
グローバル COE 研究員	: 岡部 正明<農学部>
グローバル COE 研究員	: 川口 将史<理学部>
グローバル COE 研究補助員	: 重川 庸介<医学部>

共 通

技術員	: 大西秀次郎
-----	---------

研究支援部研究拠点事務室

研究支援部長: 松本 正	
*研究支援部研究拠点事務室長	: 篠川 満俊 (平成22年3月まで)
研究支援部研究拠点事務課長	: 中川 庄八 (平成22年4月1日~)
研究拠点第一チームチームリーダー	: 西川 勇
事務補佐員	: 家久 恒美
事務補佐員	: 中山 真理
事務補佐員	: 星加恵理子
事務補佐員	: 内藤亜矢子
*事務補佐員	: 中島 悅子 (平成21年9月まで)
*事務補佐員	: 宮本 智美 (平成22年3月まで)
事務補佐員	: 松本安希子
事務補佐員	: 藤井 夏子 (平成22年4月~)

※ *は転任または退職した職員を示す。

1. 2 各部門の概要 (新組織)**環境動態解析部門**

研究内容: 沿岸海域の環境は、様々な人間活動や気候変動などの影響によって変動する。これらの変動の実態やメカニズムを解明し、将来の沿岸環境の変動を予測することが本部門の目標である。調査船や各種モニタリングシステムによる現地調査、数値シミュレーションなどの手法を用い、他部門とも連携しながらこの目標に向けた各種の課題に取り組んでいる。また、現在の様々な沿岸環境問題のメカニズムを物理学的側面から解明していくことも当部門の研究課題である。

主な研究テーマ:瀬戸内海の栄養塩環境の長期モニタリングと将来予測、高解像度数値生態系モデルによる瀬戸内海の環境変動機構の解明、豊後水道の急潮および底入り潮の発生機構とそれらの環境への影響の解明、宇和海水温情報システムの開発、瀬戸内海の物質循環と生物生産機構の解明、赤潮や貧酸素水塊の物理機構の解明、養殖漁場の物質循環と環境保全、クラゲ類の大量発生と集群メカニズム、黄海・東シナ海の海洋循環、長江河川水プリュームの挙動、海岸漂着ゴミの予報実験、瀬戸内海の貧酸素水塊、北太平洋の混合層発達過程、大気海洋結合相互作用、宇和海の環境変遷史解明、熱帶域の大気・海洋相互作用環、力学現象に対する生物学的応答の非線形性、海洋堆積物変質過程の数理構造、地球システムの気候フィードバック、分野横断的な数理モデリング

化学汚染・毒性解析部門

研究内容:生物蓄積性有害化学物質の汚染モニタリングとリスク評価を通して生態系を守る方途を提言する。具体的には、内分泌かく乱物質(環境ホルモン)など生物やヒトの健康に悪影響を及ぼす化学物質に注目して、環境や生態系汚染の現状と推移、分布・挙動・ゆくえ、生物蓄積の特徴を地域的・地球的視点で解明するこ

1. 総 説

とを目的としている。また、無脊椎動物・魚類・両生類・爬虫類・鳥類・哺乳類などの野生生物や実験動物を対象に、異物代謝酵素や脂溶性リガンドレセプターの機能特性を分子レベルで解析し、毒性発現の種多様性や感受性の種差を解明する研究（敏感・鈍感のサイエンス）にも取り組んでいる。

主な研究テーマ：地球規模での大気、水質、堆積物（土壌）、生態系汚染の実態解明と動態解析、途上国（とくにアジア）の陸域および沿岸海洋汚染の実態解明と動態解析、廃棄物投棄場の化学汚染と影響の解明、野生生物（プランクトン、両生類、爬虫類、魚類、鳥類・哺乳類）の汚染実態の解明と生物濃縮機構の解析およびリスク評価、ヒトの汚染実態解明と健康影響評価、海洋汚染および陸域汚染の過去復元と将来予測、化学物質汚染による野生生物個体群の異物代謝酵素系への影響、核内レセプターの比較機能学的研究、シトクロムP450およびメタロチオネインの比較機能学的研究、野生生物のマイクロアレイを利用した遺伝子ネットワーク搅乱のモニタリング、化学物質暴露による胚発生への毒性影響とその発現メカニズムの解明、毒性影響の感受性を支配する分子機構の解明、野生生物による化学物質の代謝能を評価する研究

生態系解析部門

研究内容：海洋および陸水を含めた水圏における生物過程の研究を行っている。海洋での物質循環と遺伝子伝播過程における微生物機能に関する研究、海洋微生物・魚病ウイルスの分子生態学的研究、魚類感染症の発症と環境汚染の関連性の研究、および魚類と藻場の生態学的研究などに取り組んでいる。

主な研究テーマ：環境微生物の化学物質耐性に関する研究、微生物間での遺伝子伝播の研究、魚介類の日和見・再興感染症ウイルスの生態、重油汚染の魚類生体防御系への影響、ナメクジウオの生態学的研究、魚類の生態学、日本産海草の生物地理学的研究、藻場の経時的変化

国際・社会連携部門

研究および活動の概要：CMESはこれまでも活発な国際的活動を展開してきたが、環境科学の世界的拠点の一つとして発展しつつある現在、その必要性はさらに増してきている。一方、設立時の目標の一つであった社会貢献についても、環境問題の深刻化の中でCMESに対する期待は一層高まっている。特命教授や外部からお迎えした客員教員により構成される本部門では、各種の連携研究に加え、若手研究者の国際性獲得に向けた教育や社会科学的視点導入のための教育、国際共同研究、研究者交流や社会連携活動などの橋渡し、環境情報公開活動などの多様な活動を行っている。

主な研究テーマと活動内容：残留性有機汚染物質・臭素系難燃剤等による途上国の化学汚染の実態解明、微量環境汚染物質の分析技術開発と未知成分の検索、有機フッ素化合物による環境汚染の実態解明、化学物質に対する感受性の種差を規定する分子機序の解明と野生生物のリスク評価、魚病制御と水産食品の安全性に関する研究、生物・化学環境データを含む統合型地球環境データベースの研究、環境科学と社会の連携による環境リスク低減のための仕組み作りとリスクコミュニケーションのあり方についての教育研究、国際学会におけるプレゼンテーション能力および学術論文作成能力育成のための若手研究者教育、インターンシップや講座等によるキャリアパス支援、途上国出身留学生の支援と留学生教育の高度化推進

2. 研究者要覧



(平成22年4月現在)

環境動態解析部門



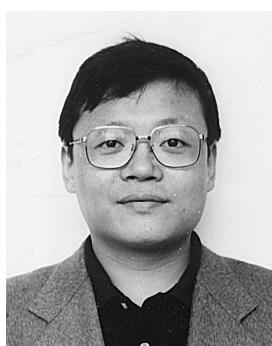
武岡 英隆 TAKEOKA Hidetaka

【職名】教授 沿岸環境科学研究センター長 工学部環境建設工学科・スーパーサイエンス特別コース環境科学コース・理工学研究科生産環境工学専攻及びアジア環境学特別コース兼担 スーパーサイエンス特別コース長 同環境科学コース長 上級研究員センター副センター長 スーパーサイエンス特別コース長 同環境科学コース長 **【電話】**089-927-9833 **【FAX】**089-927-9846 **【E-mail】**takeoka@dpc.ehime-u.ac.jp **【学歴】**昭和49年3月 京都大学理学部卒業, 昭和51年3月 京都大学大学院理学研究科修士課程地球物理学専攻修了 **【学位】**昭和59年3月 京都大学理学博士 **【所属学会】**1. 日本海洋学会, 2. 日本海洋学会沿岸海洋研究部会, 3. 土木学会, 4. 海洋気象学会, 5. 水産海洋学会, 6. 日本沿岸域学会 **【専門分野】**1. 沿岸海洋学, 2. 海洋物理学 **【主な研究テーマ】**1. 沿岸海域の流動と物質輸送, 2. 豊後水道の急潮と底入り潮, 3. 濑戸内海の物質循環と生物生産機構, 4. 養殖場の物質循環と環境保全, 5. 地球環境変動の沿岸域への影響, 6. クラゲ類の大量発生機構と移動集積機構 **【受賞歴】**1999年 日本海洋学会日高論文賞, 2003年 愛媛県政発足記念日知事表彰, 2003年 濑戸内法30周年記念環境大臣表彰, 2009年 原子力安全功労者表彰(経済産業大臣)



磯辺 篤彦 ISOBE Atsuhiko

【職名】教授 理学部地球学科・スーパーサイエンス特別コース地球惑星科学コース・理工学研究科数理物質科学専攻兼任 **【電話】**089-927-9674 **【FAX】**089-927-8182 **【E-mail】**aisobe@sci.ehime-u.ac.jp **【学歴】**昭和61年3月 愛媛大学工学部卒業, 昭和63年3月 愛媛大学大学院工学研究科修士課程海洋工学専攻修了 **【学位】**平成6年2月 東京大学博士(理学) **【所属学会】**1. 日本海洋学会, 2. 日本海洋学会沿岸海洋研究部会, 3. American Geophysical Union, 4. American Meteorological Society **【専門分野】**1. 海洋物理学, 2. 沿岸海洋学 **【主な研究テーマ】**1. 黄海・東シナ海の海洋循環と物質輸送, 2. 海岸漂着ゴミ, 3. 河川プレュームの力学過程, 4. 濑戸内海の潮汐フロント, 5. 高潮, 6. 縁辺海の大気海洋相互作用, 7. 濑戸内海の急潮



郭 新宇 GUO Xinyu

【職名】准教授 理学部地球学科・スーパーサイエンス特別コース地球惑星科学コース・理工学研究科数理物質科学専攻及びアジア環境学特別コース兼任 **【電話】**089-927-9824 **【FAX】**089-927-9846 **【E-mail】**guoxinyu@sci.ehime-u.ac.jp **【学歴】**昭和63年7月 中国天津大学海洋船舶工学科卒業, 平成3年1月 中国ハルビン船舶工程学院修士課程海洋流体力学専攻修了, 平成9年3月 愛媛大学理工学研究科博士後期課程生産工学専攻修了 **【学位】**平成9年3月 博士(工学)愛媛大学 **【所属学会】**1. 日本海洋学会, 2. 日本海洋学会沿岸海洋研究部会, 3. American Geophysical Union, 4. American Meteorological Society **【専門分野】**1. 海洋物理学, 2. 沿岸海洋学 **【主な研究テーマ】**1. 東シナ海の流動構造と栄養塩

2. 研究者要覧

の動態, 2.瀬戸内海の流動構造と栄養塩の動態, 3.河川[plume]の動態シミュレーション



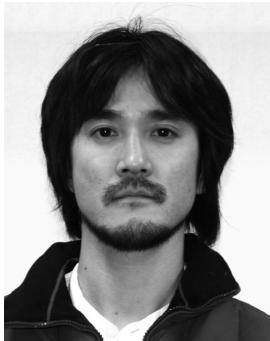
半藤 逸樹 HANDOH Itsuki C.

【職名】助教 工学部環境建設工学科兼担 【電話】089-927-9839 【FAX】089-927-9839
【E-mail】itsuki@dpc.ehime-u.ac.jp 【学歴】平成8年3月 東京水産大学水産学部海洋生産学科卒業, 平成12年9月 英国University of East Anglia大学院環境科学研究科博士課程修了 【学位】平成14年7月 Ph.D.(古海洋学) 英国University of East Anglia 【所属学会】1. American Geophysical Union 【専門分野】1. 地球システム科学, 2. 環境数理解析学 【主な研究テーマ】1. 热帶域の大気・海洋相互作用環, 2. 力学的現象に対する生物学的応答の非線形性, 3. 海洋堆積物変質過程の数理構造, 4. 地球システムの気候フィードバック, 5. 分野横断的な数理モデリング



吉江 直樹 YOSHIE Naoki

【職名】グローバル COE 助教 【電話】089-927-8179 【FAX】089-927-9846 【E-mail】nyoshie@sci.ehime-u.ac.jp 【学歴】平成9年3月 北海道大学水産学部水産化学科卒業, 平成14年9月 北海道大学大学院地球環境科学研究科博士課程大気海洋圏環境科学専攻修了 【学位】平成14年9月 博士(地球環境科学) 北海道大学 【所属学会】1. 日本海洋学会, 2. The American Society of Limnology and Oceanography, 3. European Geosciences Union 【専門分野】1. 生物地球化学, 2. 生態系モデリング, 3. 海洋科学, 4. 海洋生物学 【主な研究テーマ】1. 日本周辺沖合域における低次生態系・物質循環の数値モデリング, 2. 瀬戸内海における低次生態系・物質循環の数値モデリングおよび現場モニタリング, 3. 植物プランクトンの光合成生理に関する研究



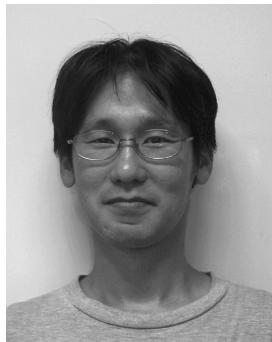
小野 純 ONO Jun

【職名】グローバルCOE研究員 【電話】089-927-8179 【FAX】089-927-9846 【E-mail】jo@sci.ehime-u.ac.jp 【学歴】平成18年12月 北海道大学大学院地球環境科学研究科大気海洋圏環境科学専攻博士課程修了 【学位】平成18年12月 博士(地球環境科学) 北海道大学 【所属学会】1. 日本気象学会, 2. 日本海洋学会, 3. AGU, 4. 日本環境化学会 【専門分野】海洋物理 【主な研究テーマ】東シナ海における残留性有機汚染物質(POPs)の三次元輸送モデルの開発



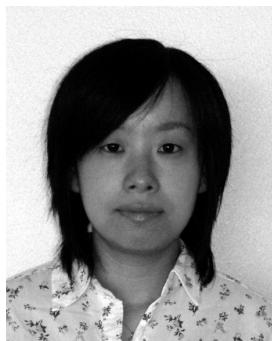
加 玲美 KUWAE Narumi

【職名】上級研究員センター上級研究員 【電話】089-927-8179 【FAX】089-927-9846 【E-mail】tsugeki-kuwae@sci.ehime-u.ac.jp 【学歴】平成17年3月 京都大学大学院理学研究科生物科学専攻博士課程修了 【学位】平成17年3月 京都大学理学博士 【所属学会】1. 日本生態学会, 2. 日本地球惑星科学連合, 3. 日本陸水学会, 4. 日本第四紀学会, 5. 日本海洋学会, 6. アメリカ陸水海洋学会 【専門分野】1. 古環境学, 2. プランクトン生態学 【主な研究テーマ】1. 環境変動が湖沼・沿岸域の低次生産に及ぼす影響, 2. 古陸水学・古海洋学的手法による水域生態系のモニタリング手法の開発, 3. 沿岸域における珪藻・渦鞭毛藻類の動態に関する研究 【受賞歴】2004年 日本陸水学会吉村賞



藤井 直紀 FUJII Naoki

【職名】研究員 【電話】089-927-8179 【FAX】089-927-9846 【E-mail】medusae@sci.ehime-u.ac.jp 【学歴】平成17年3月 広島大学大学院生物圏科学研究科環境循環系制御学専攻修了 【学位】平成17年3月 博士(学術)広島大学 【所属学会】1. 日本海洋学会, 2. 水産海洋学会, 3. 日本プランクトン学会, 4. 日本沿岸域学会, 5. 瀬戸内海研究会議, 6. 漂着物学会, 7. 刺胞動物等談話会 【専門分野】1. 生物海洋学, 2. 水圏環境学 【主な研究テーマ】1. 内湾における生物資源持続性評価法の開発, 2. クラゲ類の生態学的研究, 3. ゼラチン質動物プランクトンの集群形成メカニズムに関する研究



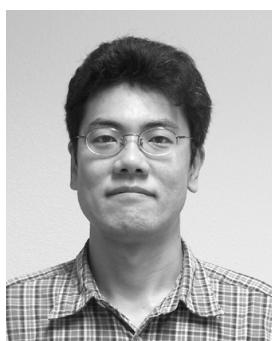
斎藤 光代 SAITO Mitsuyo

【職名】研究員 【電話】089-927-8179 【FAX】089-927-9846 【E-mail】misaito@sci.ehime-u.ac.jp 【学歴】平成15年3月 広島大学総合科学部総合科学科卒業, 平成17年3月 広島大学大学院生物圏科学研究科生物圏共存科学専攻修士課程修了, 平成20年3月 広島大学大学院生物圏科学研究科生物圏共存科学専攻博士課程修了 【学位】平成20年3月 博士(学術)広島大学 【所属学会】1. 日本陸水学会, 2. 日本海洋学会, 3. 日本地下水学会, 4. 日本文水科学会, 5. 沿岸海洋研究部会, 6. 日本地球惑星科学連合, 7. American Geophysical Union, 8. 瀬戸内海研究会議 【専門分野】1. 陸水学, 2. 水文化学, 3. 沿岸海洋環境学 【主な研究テーマ】1. 陸域から沿岸海域への栄養塩輸送に関する研究, 2. 瀬戸内海の栄養塩環境に関する研究



加吉 真一郎 KAKO Shin'ichiro

【職名】特任助教 【電話】089-927-8182 【FAX】089-927-8182 【E-mail】kako@dpc.ehime-u.ac.jp 【学歴】平成13年3月 東海大学海洋学部卒業, 平成15年3月 東海大学大学院海洋学研究科海洋工学専攻博士課程前期修了, 平成19年9月 東海大学大学院海洋学研究科海洋工学専攻博士課程後期修了 【学位】平成19年9月 東海大学博士(工学) 【所属学会】日本海洋学会 【専門分野】海洋物理学 【主な研究テーマ】1. 海岸漂着ゴミ, 2. 黒潮続流域の大気海洋相互作用, 3. 北太平洋における水塊／混合層の形成過程



加 三千宣 KUWAE Michinobu

【職名】上級研究員センター上級研究員 【電話】089-927-9654 【FAX】089-927-9654 【E-mail】mkuwae@sci.ehime-u.ac.jp 【学歴】平成14年3月 大阪市立大学大学院理学研究科後期博士課程(生物地球系専攻)修了 【学位】平成14年3月 大阪市立大学大学院博士(理学) 【所属学会】1. 日本地質学会, 2. 日本第四紀学会, 3. 日本海洋学会, 4. 日本地球化学会, 5. 日本珪藻学会, 6. American Geophysical Union 【専門分野】1. 第四紀学, 2. 古陸水学, 3. 古海洋学 【主な研究テーマ】1. 琵琶湖湖底堆積物の珪藻化石を用いた過去40万年間の環境変遷史, 特に古気候変動記録の復元に関する研究, 2. 硅藻及び安定同位体比を用いた西南日本沿岸浅海域における基礎生産の気候変動に対する応答, 3. ウロコを用いた多穫性小型浮魚類のバイオマスの長期変動に関する研究, 4. 浮遊性有孔虫及び底生有孔虫殻のMg/Ca比を用いた西南日本沿岸浅海域の海洋温暖化に関する研究, 5. 噴火湾における高解像度古海洋変動の解明



佐川 拓也 SAGAWA Takuya

【職名】上級研究員センター研究員 【電話】089-927-9654 【FAX】089-927-9654 【E-mail】tsagawa@sci.ehime-u.ac.jp 【学歴】平成12年3月 北海道大学理学部地球科学科卒業、平成14年3月 北海道大学大学院地球環境科学研究科修士課程修了、平成17年9月 北海道大学大学院地球環境科学研究科博士後期課程修了 【学位】平成17年9月 博士(地球環境科学)北海道大学 【所属学会】1. 日本海洋学会、2. 日本地質学会、3. American Geophysical Union 【専門分野】古海洋学 【主な研究テーマ】1. 北西太平洋亜寒帯域の完新世における海洋環境変動解析、2. 日本周辺海域の第四紀後期における海洋環境変動解析

化学汚染・毒性解析部門



田辺 信介 TANABE Shinsuke

【職名】教授 農学部生物資源学科生物環境保全学専門教育コース・スーパーサイエンス特別コース環境科学コース・理学部生物学科・農学研究科生物資源学専攻生物環境保全学専門教育コース・連合農学研究科生物環境保全学専攻・理工学研究科環境機能科学専攻及びアジア環境学特別コース・大学院医学系研究科兼担 【電話】089-927-8171 【FAX】089-927-8171 【E-mail】shinsuke@agr.ehime-u.ac.jp 【学歴】昭和50年3月 愛媛大学大学院農学研究科農芸化学専攻修士課程修了 【学位】昭和60年2月 名古屋大学農学博士 【所属学会】1. 日本海洋学会、2. 日本海洋学会沿岸海洋研究部会、3. 日本水産学会、4. 日本農芸化学会、5. 日本極地研究振興会、6. 日本藻学会、7. 日本環境科学会、8. 日本生態学会、9. 日本地球化学会、10. 日本環境化学会、11. 日本比較生理生化学会、12. 日本環境毒性学会、13. 日本BICER協議会、14. 日本鳥学会、15. 日本哺乳類学会、16. 日本内分泌搅乱化学物質学会、17. 日本化学会、18. 日本微量元素学会、19. 日本セトロジー研究会、20. 日本ウミガメ協議会、21. ダイオキシン・環境ホルモン対策国民会議、22. 東南アジア国際農学会、23. 日本農学アカデミー、24. Society of Environmental Toxicology and Chemistry (SETAC)、25. Society for Marine Mammalogy、26. American Chemical Society

【専門分野】環境化学 【主な研究テーマ】1. 生物蓄積性有害物質(PTS)による地球規模の海洋汚染とその動態、ゆくえおよび歴史トレンドに関する環境化学的研究、2. PTSによる海棲哺乳動物の汚染と毒性影響に関する研究、3. PTSによる北海の汚染とアザラシへの蓄積および毒性影響に関する研究、4. PTSによる鳥類の汚染と毒性影響に関する研究、5. PTSによる深海生物の汚染と毒性影響に関する研究、6. マッセルウォッチ:ニ枚貝を生物指標としたアジアの海洋汚染モニタリング、7. 魚介類を指標にした有害物質の蓄積および毒性影響に関するモニタリング手法の開発、8. 海棲哺乳動物における重金属の蓄積特性に関する研究、9. 鳥類における重金属の蓄積特性に関する研究、10. 野生高等動物におけるヒ素の蓄積特性に関する研究、11. 環境保全型漁業をめざした有害物質のリスク評価と管理に関する研究、12. 途上国の廃棄物投棄場におけるダイオキシン類、農薬、重金属類等有害物質の汚染と毒性影響に関する研究、13. 途上国におけるヒ素の地下水汚染とヒトへの影響に関する研究、14. 有機臭素化合物等難燃剤による環境汚染、生物蓄積、経年変化、生態影響に関する研究、15. 水酸化代謝物の生物蓄積特性と影響評価に関する研究、16. 生物環境試料バンクを基盤とした国際的・学際的研究

【受賞歴】1985年4月 日本海洋学会岡田賞、1999年3月 日産科学賞、2000年10月 ISI引用最高栄誉賞、2003年12月 ベトナム政府フレンドシップメダル、2004年7月 日本環境化学会学術賞、2004年10月 日本環境科学会学術賞、2005年11月 The 2005 SETAC (Society of Environmental Toxicology and Chemistry) Founders Award国際賞、2006年6月 日本環境化学会環

境化学論文賞,2007年11月 Excellence in Review Award for Environmental Science & Technology 国際賞, 2007年11月 SETAC/Menzie-Cura Environmental Educational Award 国際賞, 2009年11月 日本学術振興会科学研究費補助金第一段審査貢献表彰, 2010年6月 Marine Pollution Bulletin Highly Cited Author Award 2005-2009.



岩田 久人 IWATA Hisato

【職名】教授 農学部生物資源学科生物環境保全学専門教育コース・スーパーサイエンス特別コース環境科学コース・理学部生物学科・農学研究科生物資源学専攻生物環境保全学専門教育コース・連合農学研究科生物環境保全学専攻・理工学研究科環境機能科学専攻及びアジア環境学特別コース・大学院医学系研究科兼担 **【電話】**089-927-8172 **【FAX】**089-927-8172 **【E-mail】**iwatah@agr.ehime-u.ac.jp **【学歴】**平成6年3月愛媛大学大学院連合農学研究科生物環境保全学専攻博士課程修了 **【学位】**平成6年3月博士(学術)愛媛大学 **【所属学会】**1. 日本環境科学会, 2. 日本環境会議, 3. 日本環境化学会, 4. 日本BICER協議会, 5. 日本環境毒性学会, 6. 日本獣医学会, 7. 日本内分泌搅乱化学物質学会, 8. 日本生化学会, 9. 日本分子生物学会, 10. Society of Environmental Toxicology and Chemistry, 11. Society of Toxicology **【専門分野】**環境毒性学 **【主な研究テーマ】**1. 環境汚染物質による水圈生態系の汚染とその毒性影響の解明, 2. 環境汚染物質暴露に反応する生体分子の探索, 3. 環境汚染物質による毒性影響の多様性および種特異的感受性を決定する分子機構の解明, 4. シトクロムP450を指標とした化学物質暴露および毒性影響の評価, 5. 野生生物のリスク評価を目指した核内受容体リガンドの網羅的解析法の開発 **【受賞歴】**1994年9月 QUINTESSENCE Excellence in Environmental Contamination and Toxicology



高橋 真 TAKAHASHI Shin

【職名】准教授 理学部生物学科・スーパーサイエンスコース環境科学コース・理工学研究科環境機能科学専攻及びアジア環境学特別コース兼担 **【電話】**089-927-8196 **【FAX】**089-927-8196 **【E-mail】**shint@agr.ehime-u.ac.jp **【学歴】**平成12年3月愛媛大学大学院連合農学研究科生物環境保全学専攻博士課程修了 **【学位】**平成12年3月愛媛大学博士(農学) **【所属学会】**1. 日本環境科学会, 2. 日本環境化学会, 3. 日本環境毒性学会, 4. 日本内分泌搅乱化学物質学会, 5. 廃棄物資源循環学会, 6. American Chemical Society, 7. Society of Environmental Toxicology and Chemistry (SETAC) **【専門分野】**1. 環境地球化学, 2. 環境保全工学 **【主な研究テーマ】**1. 有害物質による海洋生態系の汚染と物質挙動に関する環境化学的研究, 2. 有機スズ化合物による陸上および海洋生態系の汚染と影響に関する研究, 3. 循環資源・廃棄物を対象とした試験法開発と対策評価に関する研究, 4. 有機ハロゲン化合物の分解・代謝挙動と活性化に関する研究, 5. 安定同位体を用いた海洋食物連鎖網における有害物質濃縮挙動の解析に関する研究



仲山 慶 NAKAYAMA Kei

【職名】講師 農学部生物資源学科生物環境保全学専門教育コース・連合農学研究科生物環境保全学専攻兼任 **【電話】**089-927-8132 **【FAX】**089-927-8133 **【E-mail】**kei-n@agr.ehime-u.ac.jp **【学歴】**平成15年9月九州大学大学院生物資源環境科学府生物機能科学専攻博士(後期)課程修了 **【学位】**平成15年9月博士(農学)九州大学 **【所属学会】**1. 日本内分泌搅乱化学物質学会, 2. 日本環境毒性学会, 3. Society of Environmental Toxicology and Chemistry **【専門分野】**1. 環境毒性学, 2. 水産化学 **【主な研究テーマ】**1. トキシコゲノミクスおよびプロテオミクスによる化学物質の毒性影響の予測およびメカニズムの解明, 2. 残留性有機汚染物質が魚類の発生や脳神経系および行動に及ぼす影響



野見山 桂 NOMIYAMA Kei

【職名】助教 農学部生物資源学科生物環境保全学専門教育コース兼担 【電話】089-927-8196 【FAX】089-927-8196 【E-mail】keinomi@agr.ehime-u.ac.jp 【学歴】平成19年3月熊本県立大学大学院環境共生学研究科環境共生学専攻博士課程修了 【学位】平成19年3月熊本県立大学博士(環境共生学) 【所属学会】1. Society of Environmental Toxicology and Chemistry (SETAC), 2. 日本環境化学会, 3. 日本水環境学会 【専門分野】1. 水環境科学, 2. 環境分析化学 【主な研究テーマ】1. PCBs代謝物の分析法開発とPCBs代謝物をマーカーとした比較生物学的研究, 2. 野生高等生物の肝ミクロソームを用いた有機ハロゲン化合物の in vitro / 代謝系の確立 【受賞歴】第15回日本環境毒性学会・バイオアッセイ研究会合同研究発表会奨励賞



板井 啓明 ITAI Takaaki

【職名】助教 理学部地球科学科兼担 【電話】089-927-8132 【FAX】089-927-8196 【E-mail】itai@sci.ehime-u.ac.jp 【学歴】平成21年3月広島大学大学院理学研究科地球惑星システム学専攻博士課程修了 【学位】平成21年3月広島大学博士(理学) 【所属学会】1. 日本地球化学会, 2. 日本環境化学会, 3. 日本地下水学会, 4. International Association for Geochemistry and Cosmochemistry (IAGC) 【専門分野】1. 環境無機化学, 2. 地球化学 【主な研究テーマ】1. ヒ素によるアジア地域地下水汚染の実態解明, 2. 環境・生体試料中における微量元素の化学形態分析法の確立, 3. 水圏環境の貧酸素化に伴う微量元素の動態変化とその生態影響評価



バブ・ラジェンドラン Babu Rajendran

【職名】グローバルCOE准教授 【電話】089-927-8196 【FAX】089-927-8196 【E-mail】babu@agr.ehime-u.ac.jp 【学位】平成7年7月 Annamalai University Ph.D. 【専門分野】環境化学 【主な研究テーマ】生活関連物質による途上国の沿岸海洋汚染とその生態毒性の解明 【受賞歴】平成18年度Environmental Management Award in India, 平成19年度Hiyoshi Environmental Award, 平成20年度 Tamil Nadu Scientist Award in India



張 光弦 CHANG Kwang-Hyeon

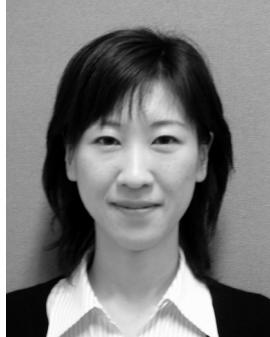
【職名】グローバルCOE准教授 【電話】089-927-8173 【FAX】089-927-8196 【E-mail】changkwang38@hotmail.com 【学歴】平成15年3月信州大学大学院工学系研究科環境システム科学専攻博士課程修了 【学位】平成15年3月信州大学博士(理学) 【専門分野】環境生態学 【主な研究テーマ】水圏生態系における食物網構造の解析と化学汚染物質の曝露量および影響評価に関する研究



石橋 弘志 ISHIBASHI Hiroshi

【職名】グローバルCOE准教授 【電話】089-927-8194 【FAX】089-927-8194 【E-mail】hirioishi@agr.ehime-u.ac.jp 【学歴】平成15年3月長崎大学大学院生産科学研究科海洋資源学専攻博士課程修了 【学位】平成15年3月博士(学術)長崎大学 【所属学会】1. 日本内分泌搅乱化学物質学会, 2. 日本トキシコロジー学会, 3. 日本環境化学会, 4. Society of Environmental Toxicology and Chemistry 【専門分野】1. 生態毒性学, 2. 環境分子毒性学, 3. 食環境安全性学 【主な研究テーマ】1. ペルオキシソーム増殖剤応答性受容体活性化を指標とした環境汚染物質のリスク評価, 2. シトクロムP450 4Aによる有機フッ素化合物代謝能の比較生物学的解析, 3. 核内受容体と相互作用する環境汚染物質のハイスクロープスクリーニング評価系の開発, 4. 内分泌搅乱物質による魚類繁殖影響メカニズムの解明 【受賞歴】2002年1月日本水環境学会九州支部学術奨励賞, 2007年3月International Sympo-

sium on Biological Responses to Chemical Pollutants: Toward Establishing an Asian Network of Environmental Toxicology ベストポスター賞



平田 佐和子 HIRATA Sawako

【職名】グローバルCOE助教 【電話】089-927-8132 【FAX】089-927-8132 【E-mail】ho-rais@agr.ehime-u.ac.jp 【学歴】平成18年9月 東京農工大学大学院連合農学研究科資源・環境学専攻博士課程修了 【学位】平成18年9月 東京農工大学博士(農学) 【所属学会】1. 日本環境化学会, 2. 日本哺乳類学会, 3. Society of Environmental Toxicology and Chemistry (SETAC) 【専門分野】1. 環境無機生化学, 2. 環境毒性学 【主な研究テーマ】1. 水銀高蓄積種における水銀代謝メカニズムの解明, 2. 沿岸生態系における元素の物質循環解明

鈴木 賢一 SUZUKI, Ken-ichi

【職名】グローバルCOE助教 【電話】089-927-8194 【FAX】089-927-8194 【E-mail】suzu-ken107@gmail.com 【学歴】平成14年4月 広島大学大学院理学研究科生物科学専攻博士課程修了 【学位】平成14年4月 博士(理学) 【所属学会】1. 日本発生生物学会 2. 日本内分泌搅乱化学物質学会 【専門分野】1. 発生生物学 2. 分子内分泌学 【主なテーマ】無尾両生類を用いた以下の研究 1. 核内受容体とその標的遺伝子の転写制御機構, 2. 内分泌搅乱物質評価システムの開発, 3. ホルモン依存的な器官形成及び細胞分化の分子機構

金 俊佑 KIM, Joon-Woo

【職名】グローバルCOE研究員 【電話】089-927-8162 【FAX】089-927-8171 【E-mail】pac-ex@agr.ehime-u.ac.jp 【学歴】平成21年3月 熊本県立大学大学院環境共生学研究科博士課程修了 【学位】平成21年3月 熊本県立大学博士(環境共生学) 【専門分野】1. 環境化学 【主な研究テーマ】1. 生活関連物質による環境汚染の実態解明

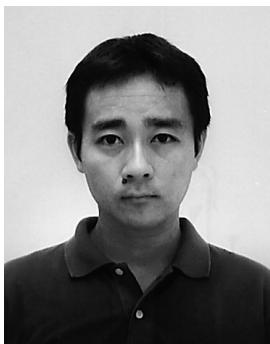


平野 将司 HIRANO Masashi

【職名】グローバルCOE研究員 【電話】089-927-8194 【FAX】089-927-8194 【E-mail】m-hirano@agr.ehime-u.ac.jp 【学歴】平成21年3月 熊本県立大学大学院環境共生学研究科博士後期課程修了 【学位】平成21年3月 博士(環境共生学)熊本県立大学 【所属学会】1. 日本内分泌搅乱化学物質学会, 2. 日本水環境学会 【専門分野】1. 生態毒性学, 2. 食環境安全性学 【主な研究テーマ】無脊椎動物核内受容体と化学物質の相互作用の定量的解析



2. 研究者要覧



磯部 友彦 ISOBE Tomohiko

【職名】上級研究員センター上級研究員 【電話】089-927-8162 【FAX】089-927-8171 【E-mail】t.isobe@agr.ehime-u.ac.jp 【学歴】平成13年3月 東京農工大学大学院連合農学研究科資源環境学専攻博士課程修了 【学位】平成13年3月 東京農工大学博士(農学) 【所属学会】1. 日本内分泌搅乱化学物質学会, 2. 日本水環境学会, 3. 日本環境化学会, 4. 日本セトロジー研究会 【専門分野】1. 環境化学, 2. 機器分析化学 【主な研究テーマ】1. 新規POPs候補物質の分析法開発, 2. 臭素系難燃剤の環境動態解明に関する研究



アグス・スダリヤント SUDARYANTO Agus

【職名】上級研究員センター研究員 【電話】089-927-8174 【FAX】089-927-8171 【E-mail】aguss@agr.ehime-u.ac.jp 【学歴】平成18年3月 愛媛大学大学院連合農学研究科生物環境保全学専攻博士課程修了 【学位】平成18年3月 愛媛大学博士(学術) 【専門分野】環境化学 【主な研究テーマ】1. 有機ハロゲン化合物によるアジア途上国の環境汚染に関する研究, 2. 有機ハロゲン化合物によるインドネシアの環境汚染に関する研究 【受賞歴】Highly Commended Platform Presentation Award in 5th SETAC World Congress (2008)

生態系解析部門



鈴木 聰 SUZUKI Satoru

【職名】教授 農学部生物資源学科生物環境保全学専門教育コース・スーパーサイエンス特別コース環境科学コース・理学部生物学科・農学研究科生物資源学専攻生物環境保全学専門教育コース・連合農学研究科生物環境保全学専攻・理工学研究科環境機能科学専攻及びアジア環境学特別コース兼任 理工学研究科アジア環境学特別コース長 【電話】089-927-8552 【FAX】089-927-8552 【E-mail】ssuzuki@ehime-u.ac.jp 【学歴】昭和60年9月 北海道大学大学院薬学研究科博士課程製薬化学専攻修了 【学位】昭和60年9月 薬学博士 北海道大学 【所属学会】1. 日本微生物生態学会, 2. 日本魚病学会, 3. 日本海洋学会, 4. マリンバイオテクノロジー学会, 5. 日本水産学会, 6. 日本生化学会, 7. 米国微生物学会, 8. 国際微生物生態学会, 9. 日本ウイルス学会 【専門分野】1. 海洋微生物学, 2. 環境分子生物学, 3. 生態系生化学 【主な研究テーマ】1. 海洋微生物由来高分子の溶存態への移行過程に関する研究, 2. 微生物間での薬剤耐性遺伝子の伝播と変異の研究, 3. 有機スズ耐性・分解菌の分子生態学的研究, 4. 水圏環境中でのビルナウイルスの生態 【受賞歴】1999年日本魚病学会研究奨励賞, 2001年日本微生物生態学会論文賞



大森 浩二 OMORI Koji

【職名】准教授 理学部生物学科・スーパーサイエンスコース環境科学コース・理工学研究科環境機能科学専攻及びアジア環境学特別コース兼任 【電話】089-927-9643 【FAX】089-927-9630 【E-mail】ohmori@mserv.sci.ehime-u.ac.jp 【学歴】昭和58年3月 九州大学理学研究科修士課程修了 【学位】昭和60年1月 理学博士九州大学 【所属学会】1. 日本生態学会, 2. 日本ベントス学会, 3. 日本海洋学会沿岸海洋部会, 4. 個体群生態学会 【専門分野】1. 水域生態学, 2. 生態系生態学 【主な研究テーマ】1. 基礎生態学解析, 2. 河川生態系の解析, 3. 沿岸海洋生態系の解析



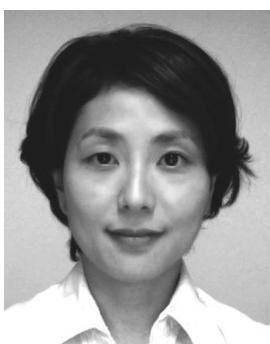
北村 真一 KITAMURA Shin-ichi

【職名】准教授 理学部生物学科・スーパーサイエンスコース環境科学コース・理工学研究科環境機能科学専攻及びアジア環境学特別コース兼担 【電話】089-927-8998 【FAX】089-927-8998 【E-mail】kitamura@sci.ehime-u.ac.jp 【学歴】平成11年高知大学大学院農学研究科栽培漁業学専攻修士課程修了 【学位】平成15年3月博士(水産科学)北海道大学 【所属学会】1. 日本魚病学会, 2. 韓国魚病学会, 3. 日本微生物生態学会, 4. 日本水産学会 【専門分野】1. 感染症学, 2. 魚類環境生理学 【主な研究テーマ】1. 環境変化による感染症発生メカニズムの解明, 2. ヒラメのスクーチカ症に関する研究, 3. 魚類イリドウイルスに関する研究, 4. 魚類体表粘液中のマイクロフローラに関する研究, 5. 日本産アゲハチョウの分子進化的研究



金本 自由生 KANAMOTO Ziyusei

【職名】助教 理学部生物学科・理工学研究科環境機能科学専攻兼担 【電話】089-927-8295 【FAX】089-927-8295 【E-mail】ziyusei@sci.ehime-u.ac.jp 【学歴】昭和49年3月 東北大学大学院農学研究科水産学専攻修士課程修了 【学位】昭和61年2月 農学博士東北大学 【所属学会】1. 水産増殖学会, 2. 日本魚類学会, 3. 日本ベントス学会, 4. 沖縄生物学会, 5. American Society of Herpetologist and Ichthyologist 【専門分野】海洋生態学 【主な研究テーマ】1. 磯魚類の生態学的研究, 2. ナメクジウオの生態学的研究, 3. 海草の分布生態, 4. 海草藻場の経時的変化の研究



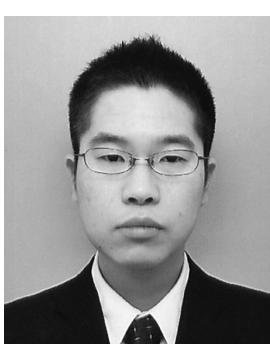
浜村 奈津子 HAMAMURA Natsuko

【職名】グローバルCOE准教授 【電話】089-927-8551 【FAX】089-927-8551 【E-mail】nhama@agr.ehime-u.ac.jp 【学歴】平成13年4月 オレゴン州立大学 Molecular and Cellular Biology Program博士課程修了 【学位】平成13年4月 Ph.D. オレゴン州立大学 【所属学会】1. American Society of Microbiology, 2. International Society of Microbial Ecology, 3. 日本微生物生態学会, 4. 日本ゲノム微生物学会 【専門分野】1. 微生物生態学, 2. 微生物生理学, 3. 環境ゲノム 【主な研究テーマ】1. ヒ素汚染環境中の微生物ヒ素代謝機能の解析, 2. ゲノムやトランスクリプトーム手法を用いた高温環境中の微生物生態及び機能のメタ解析, 3. 複合汚染環境における微生物遺伝子応答の解析



Todd・ウィリアム・ミラー MILLER Todd William

【職名】グローバルCOE准教授 【電話】089-927-9643 【FAX】089-927-8167 【E-mail】miller@dpc.ehime-u.ac.jp 【学歴】オレゴン州立大学博士課程修了 【学位】2006年5月 理学博士オレゴン州立大学 【専門分野】生物海洋学 【主な研究テーマ】安定同位体比解析による沿岸域生態系の健全性の定義に関する研究



吉田 光宏 YOSHIDA Mitsuhiro

【職名】グローバルCOE研究員 【電話】089-927-8554 【E-mail】mityoshi@agr.ehime-u.ac.jp 【学歴】平成19年3月 福井県立大学大学院生物資源学研究科修了 【学位】平成19年3月 博士(生物資源学)福井県立大学 【所属学会】1. 日本微生物生態学会, 2. 日本水産学会 【専門分野】1. 水圏微生物学 【主な研究テーマ】1. 海水中の溶存態タンパク質の機能と代謝過程に関する研究, 2. 環境汚染物質によるプロファージ誘発が海洋細菌群集生態系に及ぼす影響

2. 研究者要覧



嶋原 佳子 SHIMAHARA Yoshiko

【職名】グローバルCOE研究員 【電話】089-927-8998 【E-mail】shimahara@sci.ehime-u.ac.jp
【学歴】平成19年3月鹿児島大学大学院連合農学研究科修了 【学位】平成19年3月博士(水産学)鹿児島大学 【所属学会】1.日本魚病学会, 2.日本水産学会, 3.日本水産増殖学会
【専門分野】1.魚病学 【主な研究テーマ】1.重金属の複合暴露が魚類細菌感染症の感受性に与える影響



柴田 淳也 SHIBATA JUN-YA

【職名】グローバルCOE研究員 【電話】089-927-8160 【FAX】089-927-8160 【E-mail】shibata@sci.ehime-u.ac.jp
【学歴】平成11年3月 大阪市立大学理学部生物学科卒業, 平成13年3月 大阪市立大学大学院理学研究科前期博士課程生物地球系専攻修了, 平成18年3月 大阪市立大学大学院理学研究科後期博士課程生物地球系専攻単位修得退学 【学位】平成18年6月 博士(理学)大阪市立大学 【所属学会】1.日本生態学会, 2.動物行動学会, 3.応用生態工学会
【専門分野】1.安定同位体生態学, 2.行動生態学 【主な研究テーマ】沿岸環境における生態系構造がPOPs動態に及ぼす影響



國弘 忠生 KUNIHIRO Tadao

【職名】研究員 【電話】089-927-9643 【FAX】089-927-8160 【E-mail】kunihiro@sci.ehime-u.ac.jp
【学歴】平成16年3月 豊橋技術科学大学大学院工学研究科博士後期課程環境・生命工学専攻修了 【学位】平成16年3月 博士(工学)豊橋技術科学大学 【所属学会】1.日本微生物生態学会, 2.日本ベントス学会, 3.日本水環境学会, 4.日本水産学会 【専門分野】環境微生物工学 【主な研究テーマ】1.養殖活動が及ぼす海底環境および底生生物・微生物生態系への影響, 2.養殖漁場の海底環境の改善, 3.イトゴカイと微生物の協働作業による有機汚泥浄化メカニズムの解明, 4.別府湾における水柱-堆積物表層の細菌・古細菌群集構造の季節変動の解明

国際・社会連携部門



アンナマライ・スブラマニアン SUBRAMANIAN Annamalai

【職名】特命教授 【電話】089-927-8173 【FAX】089-927-8196 【E-mail】subra@agr.ehime-u.ac.jp
【学歴】昭和63年3月 愛媛大学大学院連合農学研究科生物環境保全学専攻博士課程修了 【学位】昭和63年3月 愛媛大学博士(学術), 1982年6月 Annamalai University Ph.D.
【所属学会】1. Indian Society of Life Sciences, 2. National Geographic Society, 3. Marine Mammal Society 【専門分野】海洋環境学 【主な研究テーマ】内分泌搅乱物質による途上国の海洋汚染とその生態毒性の解明 【受賞歴】平成14年度日本学術振興会外国人招へい研究者(長期)



高菅 卓三 TAKASUGA Takumi

【職名】客員教授 株式会社島津テクノリサーチ 取締役分析本部副本部長 兼 調査研究開発部部長 兼 極微量分析センターTS(Technical Supervisor) 【電話】075-811-3181 【FAX】075-811-7837 【電話】089-927-8171 【FAX】089-927-8171 【E-mail】t_takasuga00@shimadzu-techno.co.jp 【学歴】昭和60年3月 愛媛大学大学院農学研究科環境化学専攻修士課程修了 【学位】平成13年5月 東京大学博士(農学), 平成15年2月 スウェーデンrebro大学名誉博士 【所属学会】1.日本環境化学会, 2.日本分析化学会, 3.日本内分泌搅乱化学物質学会, 4.日本水環境学会, 5.廃棄物資源循環学会 【専門分野】1.環境化学, 2.分析化学, 3.環境分析化学, 4.廃棄物処理 【主な研究テーマ】1.廃棄物関連試料及び環境試料中の微量有機ハロゲン化合物の分析化学的研究, 2.POPsモニタリングにおける大気・生物試料の超高感度分析方法の最適化に関する研究, 3.臭素化ダイオキシン類及び臭素系難燃剤の超微量測定方法の開発, 4.GC/MS(EI及びNCI)法を用いた生物試料中有機臭素化合物の調査研究, 5.GC-HR-TOFMSを用いた環境試料の微量有機ハロゲン化合物の検索と同定および高感度・高精度スクリーニング分析, 6.各種有機ハロゲン化合物等の分析法開発 【受賞歴】1994年6月 日本環境化学会技術賞, 1997年6月 日本環境化学会学術賞, 1999年11月 環境測定分析功労者賞(社団法人日本環境測定分析協会), 2003年2月 スウェーデンrebro大学名誉博士, 2009年5月 協会功労者賞(社団法人日本環境測定分析協会)



クルンタチャラム・カンナン KANNAN Kurunthachalam

【職名】客員教授 State University of New York at Albany教授 【学歴】平成6年3月 愛媛大学大学院連合農学研究科博士課程修了 【学位】平成6年3月 博士(学術)愛媛大学 【所属学会】1. Society of Environmental Toxicology and Chemistry (SETAC), USA, 2. American Chemical Society (ACS), USA, 3. Society of Toxicology (SOT), USA, 4. American Society for the Advancement of Science, USA 【専門分野】環境化学 【主な研究テーマ】有機フッ素化合物による環境汚染の実態解明 【受賞歴】Thomson ISI, Highly Cited Researcher in Environment/Ecology in 2005, ranked #8 in 2005, #7 in 2007, Thomson ISI, Highly Cited Researcher- Special Topics- PCBs, ranked #17 in 2003, United States Society of Environmental Toxicology and Chemistry (SETAC)/Weston F. Roy Award in Environmental Chemistry in 1999, Excellence in Review Award by American Chemical Society Journal Environmental Science and Technology in 2004



吳 明柱 OH Myung-Joo

【職名】客員教授 韓国国立全南大学校水産生命医学科教授 【電話】+82-61-659-3173 【FAX】+82-61-659-3173 【E-mail】ohmj@chonnam.ac.kr 【学歴】北海道大学大学院水産科学研究科博士課程修了 【学位】平成7年3月 水産学博士北海道大学 【所属学会】1. ヨーロッパ魚病学会, 2. 韓国魚病学会, 3. 日本魚病学会, 4. 韓国水産学会, 5. 世界水産学会, 6. アジア水産学会, 7. 日本水産学会, 8. 韓国マリンバイオテクノロジー学会, 9. 韓国生物科学会, 10. 韓国微生物学会 【専門分野】1.魚病学, 2.病原微生物学 【主な研究テーマ】1.魚類ウイルス病に関する研究, 2.食中毒原因病原体の分子疫学 【受賞歴】1. 2004年 Best Researcher prize, The Korean Ministry of Marine and Fisheries, 2. 2001年 Best poster presentation prize at the European Association of Fish Pathologists (EAFP) 10th International Conference on Diseases of Fish and Shellfish, 3. 2001年 Best Researcher prize, The Korean Ministry of Marine and Fisheries

2. 研究者要覧



大久保 規子 OKUBO Noriko

【職名】客員教授 大阪大学大学院法学研究科教授 【電話】06-6850-6111 【学歴】平成5年3月一橋大学大学院法学研究科博士後期課程修了 【学位】平成3年9月 MAGISTRA IURIS (法学) ギーセン大学, 平成5年3月 博士(法学)一橋大学 【所属学会】1. 日本公法学会, 2. 環境法政策学会, 3. 日本公共政策学会, 4. 日本社会情報学会 【専門分野】1. 行政法, 2. 環境法 【主な研究テーマ】1. 環境公益訴訟, 2. 行政訴訟の原告適格, 3. 参加・協働の法理, 4. 水管理法制



村田 健史 MURATA Takeshi(Ken T. Murata)

【職名】客員教授 独立行政法人情報通信研究機構グループリーダー(電磁波計測研究センター) 【電話】042-327-7931 【FAX】042-327-6978 【E-mail】ken.murata@nict.go.jp
【学歴】平成7年3月 京都大学大学院工学研究科博士後期課程電子工学専攻単位取得満期退学 【学位】平成7年5月 博士(工学)京都大学 【所属学会】1. 地球電磁気・地球惑星圏学会, 2. 情報処理学会, 3. 電子情報通信学会, 4. American Geophysical Union 【専門分野】1. 宇宙環境情報, 2. 地球惑星情報学 【主な研究テーマ】1. 宇宙環境(宇宙天気)情報通信・情報処理技術, 2. 地球惑星インフォマティックス, 3. 福祉情報工学



金 恩英 KIM Eun-Young

【職名】客員准教授 韓国慶熙大学助教授 【電話】089-927-8194 【FAX】089-927-8172 【E-mail】eykim@agr.ehime-u.ac.jp 【学歴】平成9年3月 愛媛大学大学院連合農学研究科博士課程生物環境保全学専攻修了 【学位】平成9年3月 博士(学術)愛媛大学 【所属学会】1. 日本環境化学会, 2. 日本環境毒性学会, 3. 日本内分泌搅乱化学物質学会, 4. Society of Environmental Toxicology and Chemistry, 5. Society of Toxicology 【専門分野】環境毒性学
【主な研究テーマ】1. 野生生物における毒性影響の感受性を考慮した環境影響評価システムの開発, 2. 内分泌搅乱化学物質に対する種特異的反応・感受性のバイオマーカーの検索

3. 研究プロジェクト



(平成21年度)

3. 1 グローバル COE プログラム

CMES を中核とするグローバル COE プログラムが21世紀 COE プログラムに引き続き採択され、平成19年度は454,090千円（内間接経費104,790千円）、平成20年度は454,610千円（内間接経費104,910千円）、平成21年度は422,786千円（内間接経費97,566千円）が交付された。

愛媛大学のグローバル COE プログラム「化学物質の環境科学教育研究拠点」は、本学沿岸環境科学研究センター（CMES）が長年にわたる活動や21世紀 COE プログラムで整備、育成してきた貴重な教育研究基盤、「若手研究者育成プログラム」、「生物環境試料バンク（es-BANK）」、「アジア環境研究者ネットワーク」、「海外学術交流研究機関ネットワーク」を一層充実させて活用し、化学汚染に関わる環境科学の教育研究拠点、すなわち環境化学の学際化を意図した知の拠点形成を目的とするものである。

平成21年度（5ヵ年事業の3年次）の目標は、5ヶ年の事業を加速し発展させる段階、すなわち教育活動および研究活動を実効的・効率的に推進するとともに、中間評価を受けて問題点を分析・改善し今後の方向を明確にすることである。新規の企画を組み込んだ各種教育プログラムの発展的な運用、プロジェクト研究方式を導入したサブテーマの研究活動の重点的・効率的な展開、戦略的国際共同研究の一層の推進、教育研究基盤と支援体制の充実、広報活動の強化などを機動的に推進することに加え、若手研究者が必要とする大型機器を優先的に導入・整備すること、また本拠点の中核となっている沿岸環境科学研究センターの建物拡充に伴い教育研究スペースと機能を充実させること等をめざして計画を遂行し、ほぼ目標を達成した。

3. 2 科学研究費等

環境動態解析部門

- 1) 郭 新宇（代表）、基盤研究（B）「気候変動が沿岸域の栄養塩動態に及ぼす影響に関する研究」、9,620千円
概要：東シナ海と瀬戸内海をモデル海域とし、数値生態系モデルを構築し、モデル実験より両海域での陸起源栄養塩と外洋起源栄養塩の輸送・循環過程を解明するとともに、陸起源栄養塩と外洋起源栄養塩の長期変化に対する両海域での生態系の応答特性を解明する。
- 2) 郭 新宇（代表）、日本学術振興会二国間交流事業共同研究（JSPS/NSFC）、「黄河デルタにおけるアサリの高漁業生産力の維持機構に関する研究」、1,500千円
概要：現地調査と数値モデルを用いて、アサリの餌として植物プランクトンと底生微細藻類の役割を評価する。
- 3) 磯辺 篤彦（代表）、基盤研究（A）「急潮予報システムの構築と生態影響評価への戦略的運用」、13,700千円
- 4) 半藤 逸樹（分担）、基盤研究（B）日本学術振興会科学研究費補助金「複合新領域 環境影響評価・環境政策 地球環境化学・数理解析手法の統合による残留性有害物質の濃縮挙動解明とリスク評価（代表：高橋真、愛媛大 CMES）」、300千円
- 5) 斎藤 光代（代表）、若手研究（B）「地下水流动条件による流域スケールでの脱窒のモデル化」、2,600千円
概要：地下水流动条件が大きく異なる日本の山地性流域と東南アジアの大陵性流域を対象とし、地下水流动条件による脱窒のモデル化を行う。
- 5) 斎藤 光代（分担）、基盤研究（B）「気候変動が沿岸域の栄養塩動態に及ぼす影響に関する研究（代表：郭新宇、愛媛大 CMES）」、150千円
概要：東シナ海と瀬戸内海に流入する陸起源栄養塩フラックスおよびその季節変化の推定を行う。

化学汚染・毒性解析部門

- 1) 田辺 信介（拠点リーダー）、グローバル COE プログラム「化学物質の環境科学教育研究拠点」、422,786千

3. 研究プロジェクト

円

概要：環境化学の学際化・国際化を意図した教育活動および研究活動を機動的・加速的に推進するため、必要な基盤と組織の拡充、各種教育プログラムの発展的な運用、プロジェクト研究の遂行、広報活動の強化などを推進した。

- 2) 田辺 信介（代表）、基盤研究（S）「アジア途上地域における POPs 候補物質の汚染実態解明と生態影響評価」、33,800千円

概要：POPs 候補物質、水酸化代謝物等の分析法の整備、DR-CALUX のデータを基にした新規有害物質の検索、それらを適用した環境モニタリングとリスク評価の研究を開拓した。

- 3) 田辺 信介（代表）、挑戦的萌芽研究「低塩素化水酸化体 PCBs の分析法開発と脳移行に関する予備的研究」、1,300千円

概要：世界的に報告例が少ない4塩素以下の低塩素化水酸化体 PCBs 異性体を含む、3-8塩素化 OH-PCBs の分析法を開拓した。

- 4) 田辺 信介（分担）、環境省循環型社会形成推進科学研究費補助金「廃棄物リサイクル制度展開の国際比較と化学物質管理の統合システム解析」、京都大学、4,500千円

概要：西部北太平洋における水銀およびレアメタルの時空間分布について小型歯鯨類を生物指標にして明らかにし、新興国からの負荷が大きいことを指摘した。

- 5) 田辺 信介・高橋 真（分担）、環境省循環型社会形成推進科学研究費補助金「循環過程を含む製品ライフサイクルにおけるBFRのリスクコントロールに関する研究」、国立環境研究所、6,000千円

概要：途上国のe-wasteリサイクル処理現場やその近隣住居のハウスダスト中に、高濃度のBFRやダイオキシン類縁化合物が含まれることを明らかにした。

- 6) 岩田 久人（代表）、基盤研究（S）「化学物質による細胞内受容体-異物代謝酵素シグナル伝達系搅乱の感受性支配因子の解明」、81,100千円

概要：化学物質による多様な生物の細胞内受容体-異物代謝酵素シグナル伝達系の搅乱を指標として、感受性の種差を規定する分子機構について解説した。

- 7) 岩田 久人（分担）、基盤研究（S）「アジア途上地域における POPs 候補物質の汚染実態解明と生態影響評価」、2,500千円

概要：野生鳥類の組織から AHR 遺伝子をクローニングし、*in vitro* レポーター遺伝子アッセイ系を構築した。また、そのアッセイ系を用いてダイオキシン類の AHR 転写活性化能を評価した。

- 8) 岩田 久人（分担）、基盤研究（B）「脊椎動物共通 DOP-PCR プライマーを用いた大規模遺伝子発現解析法の開拓」、400千円

概要：鳥類を対象に DOP-PCR プライマーを用いた大規模遺伝子発現解析をおこない、ダイオキシン類に特異的に反応する遺伝子を探査した。

- 9) 高橋 真（代表）、基盤研究（B）「地球環境化学・数理解析手法の統合による残留性有害物質の濃縮挙動とリスク評価」、8,320千円

概要：残留性有害物質の分析法を開拓・改良するとともに、食物網構造の解析や数理モデル開拓のための基礎研究を開拓した。

- 10) 仲山 慶（代表）、若手研究（B）「ヒラメにおける水酸化 PCBs の体内挙動と生態影響に関する研究」、1,100千円

概要：PCBs の代謝物である水酸化 PCBs がヒラメ初期胚における神経形成に及ぼす影響を明らかにした。

- 11) 仲山 慶（分担）、基盤研究（S）「アジア途上地域における POPs 候補物質の汚染実態解明と生態影響評価」、1,500千円

概要：ヒラメの遺伝子発現解析を行うためのマイクロアレイプラットフォームを構築し、その有効性を検証するとともに、毒性影響の指標を導き出すための新規のマイクロアレイデータ解析法を確立した。

- 12) 石橋 弘志（分担）、基盤研究（S）「化学物質による細胞内受容体-異物代謝酵素シグナル伝達系搅乱の感受性支配因子の解明」、2,500千円

概要：野生水棲哺乳類の肝臓から PPAR β/δ 遺伝子をクローニングし、その分子特性を明らかにした。また、合成・精製した組み換え PPAR α および β/δ タンパク質を用いた表面プラズモン共鳴法により PPAR リガンド候補物質のスクリーニング法を開拓した。

- 13) 鈴木 賢一（代表）、若手研究（B）「分子から個体レベルまで総合的に内分泌搅乱物質を評価できるセンサー

ガエルの開発」, 1,900千円

概要：トランスジェニックアフリカツメガエルを用いた総合的な内分泌攪乱物質評価システムの構築を試みた。

- 14) 板井 啓明（代表），スタートアップ「吸着平衡モデルに基づくアジア諸国のヒ素汚染地下水の空間分布と経時変動要因の解明」, 1,417千円

概要：アジアの汚染地域における地下水ヒ素濃度分布を、室内実験に基づく化学的素過程により解析した。

- 15) 鈴木 剛（代表），特別研究員奨励費「野生高等動物に蓄積する潜在的有害物質の検索と毒性同定評価」, 2,400千円

概要：前年度開発したバイオアッセイ法を用いて、野生高等動物の抽出液試料を分析し、潜在的有害物質の検索・同定・毒性評価を試みた。

- 16) 染矢 雅之（代表），特別研究員奨励費「アジア途上国沿岸域におけるダイオキシン類の汚染実態と歴史トレンド」, 700千円

概要：DR-CALUX アッセイを二枚貝のイガイに適用し、生物活性の高い物質が存在することを見出すとともに、自然起源の臭素化ダイオキシンが関与していることを示唆した。

生態系解析部門

- 1) 鈴木 聰（代表） 1) 鈴木 聰（代表），基盤研究（B）（一般）「海洋細菌の有する有機スズ耐性機構の解明と生態系評価への応用」, 5,000千円

概要：海洋細菌から有機スズ耐性遺伝子を複数同定し、有機スズによる発現促進を解明した。

- 2) 鈴木 聰（代表），基盤研究（B）（海外学術）「インドシナ半島の養殖場における抗生物質汚染と薬剤耐性遺伝子の拡大」, 3,700千円

概要：ベトナム北部の養豚場、市内運河、エビ養殖場でのサルファ剤汚染と耐性菌発生実態を解明した。また、タイの水圏におけるキノロン系薬剤の状況も解明した。

- 3) 北村 真一（代表），若手研究（B）「重油の魚類感染症および神經異常発生に与える影響」, 1,560千円

概要：重油に曝露されたヒラメは、免疫関連遺伝子の発現量および抗病原体活性が低下することが明らかになった。

- 4) 濱村 奈津子（代表），若手研究（スタートアップ）「複合汚染環境における微生物遺伝子応答の網羅的解析と環境影響評価に関する研究」, 1,110円

概要：ヒ素などの有害物質を含む環境サンプルにおけるメタranscriptome解析手法の検討、環境中で優位に発現している遺伝子群を明らかにした。

- 6) 國弘 忠生（代表），若手研究（B）「イトゴカイと細菌の捕食-被食関係と相互関係による堆積有機物分解作用の解明」, 3,510千円

概要：堆積物食性多毛類イトゴカイは、有機物汚染域に生息する代表的な底生生物であり、高い有機物分解能力を有する。堆積物中の有機物の分解は、イトゴカイと細菌の協働により促進されると考えられるが、有機物分解に関するイトゴカイと細菌の相互関係は明らかになっていない。本研究では堆積有機物の分解に関するイトゴカイと細菌の相互関係の解明を目指している。

- 7) 國弘 忠生（代表），財団法人日本科学協会，平成21年度笹川科学研究助成、「堆積物食性多毛類の増殖における微生物群集の影響の解明と餌資源の特定—炭素・窒素安定同位体比と微生物バイオマーカーによるアプローチー」, 690千円

概要：有機汚泥域に生息する堆積物食性多毛類の個体群密度と微生物の現存量および群集構造の関係を解明するとともに、多毛類の餌資源を食物網解析に用いられる炭素・窒素安定同位体比に基づいて明確にすることを目的とした。

3. 3 共同研究

環境動態解析分野

- 1) 武岡 英隆（代表），伊方発電所前面海域における海生生物の挙動に関する研究，四電技術コンサルタント, 525千円

概要：近年、瀬戸内海や世界各地でクラゲ類の大量発生が頻発し、問題となっている。本研究では、伊方発電

3. 研究プロジェクト

所の冷却水の取水時に採取されるクラゲ類の量のデータを解析し、クラゲ大量発生の周期性や気象、海況との関係を解析して、大量発生や移動・集積機構の解明を目指す。

- 2) 武岡 英隆・田辺 信介（分担）、環境省地球環境保全等試験研究費「沖合海域における POPs の汚染実態解明に関する研究」、海上保安庁海洋情報部、1,546千円

概要：東シナ海における POPs の3次元動態解析モデルの開発および海水・底質等の POPs 測定データの解析を行う。

化学汚染・毒性解析部門

- 1) 仲山 慶（代表）、アミノレブリン酸の投与がヒラメの生理活性に与える影響の解明、コスモ石油株式会社、1,800千円

概要：アミノレブリン酸の投与による遺伝子発現プロファイルの変化を解析するとともに、病原体に対する抵抗性を評価した。

生態系解析分野

- 1) 北村 真一、明治製菓株式会社、コスモ石油株式会社、1,500千円

概要：魚類感染症の予防に関する研究。

- 2) 北村 真一、コスモ石油株式会社、500千円

概要：魚類感染症の治療に関する研究。

- 3) 金本自由生、伊方原発温排水影響調査、愛媛県、480千円

概要：伊方原子力発電所から排出される温排水が付着生物に及ぼす影響を調べるために、排水口近辺から順次定点を定め、付着生物を調べた。

- 4) 濱村奈津子、北海道大学低温科学研究所共同研究費、100千円

概要：寒冷土壌に生息する炭化水素分解微生物の機能及び低温適応酵素を解析した。

（研究代表者：福井学、北大低温研）

3. 4 受託研究

環境動態解析分野

- 1) 武岡 英隆（代表）、宇和海・瀬戸内海のミズクラゲの発生・集群機構の解明、農林水産技術会議、6,000千円
概要：本研究は、農林水産省農林水産技術会議からの委託プロジェクト研究「環境変動に伴う海洋生物大発生の予測・制御技術の開発（平成19～23年度）」の2課題のうち、「クラゲ類の大発生予測・抑制技術の開発（中核機関：広島大学）」の分担課題である。本研究では、宇和海、瀬戸内海でのミズクラゲの季節的あるいは経年的な出現量の変動を、原子力発電所での長期の取り上げ量データやセスナ機によるモニタリング結果に基づき調査する。また、宇和海内湾域での本種の集群機構を、気象・海象の物理学的要因、クラゲの成熟等の生物学的要因に基づき明らかにし、環境変動がミズクラゲの分布量の地理的差異、発生量や集群規模の経年変動に及ぼす影響を解明する。

- 2) 武岡 英隆（代表）、伊方原子力発電所温排水影響調査、愛媛県、800千円

概要：伊方原子力発電所から排出される冷却用の温排水が付近漁場に与える影響の有無を判断するために、隣接する海域の環境及び漁業の実態を把握すること目的とした現地調査及び漁獲資料の収集を行う。

- 3) 磯辺篤彦（代表）、市民と研究者が協働する東シナ海沿岸における海岸漂着ゴミ予報実験、環境省、49,691千円

概要：地域住民や市民団体の協力を得て、東シナ海に面した五島でゴミ漂着量定点調査を実施する。調査結果をもとに、コンピュータ・シミュレーションを用いたゴミ発生源の逆算や、ゴミ漂着時期の予報実験を行う。さらに、短波海洋レーダーによる洋上におけるゴミ集積位置（潮目）の検出技術や、セスナ機やデジタルカメラ搭載のバルーンによる漂流ゴミ監視技術の開発にも取り組む、3年間のプロジェクトの3年目。

化学汚染・毒性解析部門

- 1) 田辺 信介、生物蓄積性内分泌かく乱候補物質によるわが国の野生生物汚染の実態解明、日本エヌ・ユー・エ

ス株式会社, 2,000千円

概要：琵琶湖のカワウに蓄積する有機臭素系難燃剤の汚染実態を解明した。

- 2) 岩田 久人(代表), 野生生物のリスク評価を目指した核内受容体リガンドの網羅的解析法の開発, 環境省 EXTEND2005基盤的研究, 日本エヌ・ユー・エス株式会社, 2,400千円

概要：野生生物より単離した核内受容体を適当な細胞に導入し, *in vitro* レポーター遺伝子アッセイ系を構築した。また、その細胞を環境化学物質で処理し、核内受容体の標的遺伝子転写活性化能について調査した。

- 3) 仲山 慶(分担), 実環境の複合汚染評価を目的としたトキシコゲノミクス解析法の開発と現場への適用, (環境省 環境研究・技術開発推進費), 1,463千円

概要：トランスクリプトームおよびメタボロームデータを基に、複合的な環境ストレスによる生体影響の評価手法および影響指標の開発を行った。

3. 5 各種研究助成金（民間・財団等）、奨学寄付金等

環境動態解析分野

- 1) 斎藤 光代「燧灘の物質循環に及ぼす地下水の影響に関する研究」,瀬戸内海研究会議, 600千円

概要：瀬戸内海の燧灘を対象とし、陸域からの地下水流出量および流出エリアの推定を行う。

- 2) 斎藤 光代(代表),「愛媛県西条市における文化・産業・景観を支える地下水資源の保全に関する研究」, 財団法人福武学術文化振興財団, 800千円

概要：昭和の名水百選に制定された西条市において、将来へ向けた地下水保全に対する課題を明らかにするとともに、その対策を提案する。

生態系解析分野

- 1) 鈴木 聰, 有機スズ耐性細菌の耐性機構, アヴェイロ大学(ポルトガル科学技術財団), 12,500ユーロ

概要：海洋細菌から新しい有機スズ耐性遺伝子を発見した。

- 2) 北村 真一(代表), 平成21年度シーズ発掘試験(発掘型)独立行政法人科学技術振興機構“アジュバントを用いた世界初の魚類寄生虫ワクチンの開発”, 2,000千円

概要：ヒラメスクーチカ症のワクチン開発を行い、その有効性を確認した。

- 3) 金本自由生, 海洋生態学の振興, 大沢商会, 333千円

- 4) 大森 浩二, 貯水池の適正管理手法の開発, 財団法人ダム水源地環境整備センター, 500千円

4. 研究成果



(暦年で2009年に出版、掲載されたもの)

4. 1 著 書

環境動態解析部門

- 1) 梶木玲美・占部城太郎：古陸水学的手法による湖沼生態系の近過去復元とモニタリング，特集号〔生態系・生物多様性モニタリングの統合に向けて〕，裳華房，遺伝，63 (6)， 66-72.

化学汚染・毒性解析部門

- 1) 岩田久人・金 恩英：第5章 生物反応を利用して化学物質汚染の危険性を検知する，分子でよむ環境汚染（鈴木 聰編）東海大学出版会，pp. 122-157.
- 2) Imaeda, D., Nomiyama, K., Kunisue, T., Iwata, H., Tsydenova, O., Takahashi, S., Amano, M., Petrov, E. A., Batoev, V. B. and Tanabe, S.: Residue levels of OH-PCBs and PCBs in the blood of Baikal seals (*Pusa sibirica*), Global COE Program, Ehime University Interdisciplinary Studies on Environmental Chemistry Vol. 2, Environmental Research in Asia for Establishing a Scientist's Network, Obayashi, Y., Isobe, T., Subramanian, A., Suzuki, S. and Tanabe, S. (Eds), TERRAPUB, Tokyo, Japan, 111-117.
- 3) Isobe, T., Ochi, Y., Imaeda, D., Sakai, H., Hirakawa, S., Tsydenova, O., Amano, M., Petrov, E., Batoev, V., Iwata, H., Takahashi, S. and Tanabe, S.: Contamination status of brominated flame retardants (BFRs) in Baikal seals (*Pusa sibirica*), Global COE Program, Ehime University Interdisciplinary Studies on Environmental Chemistry Vol. 2, Environmental Research in Asia for Establishing a Scientist's Network, Obayashi, Y., Isobe, T., Subramanian, A., Suzuki, S. and Tanabe, S. (Eds), TERRAPUB, Tokyo, Japan, 119-124.
- 4) Takeshita, H., Fujihara, J., Agusa, T., Takahashi, S., Iwata, H. and Tanabe S.: Genetic polymorphism influencing arsenic metabolism in human, Global COE Program, Ehime University Interdisciplinary Studies on Environmental Chemistry Vol. 2, Environmental Research in Asia for Establishing a Scientist's Network, Obayashi, Y., Isobe, T., Subramanian, A., Suzuki, S. and Tanabe, S. (Eds), TERRAPUB, Tokyo, Japan, 191-195.
- 5) Minh, T. B., Iwata, H., Tanabe, S., Minh, N. H.: 1-1. Persistent organic pollutants in Vietnam. Chemical Pollution in Indochina - Contamination Status, Ecosystem Impact and Remediation Technology, Suzuki, S. and Takada, H. (Eds), Tokai University Press, Kanagawa, Japan, 5-20.
- 6) Agusa, T., Iwata, H., Minh, T. B., Tanabe, S., Inoue, S., Kubota, R.: 1-4. Contamination by arsenic and other trace elements in groundwater, Chemical Pollution in Indochina - Contamination Status, Ecosystem Impact and Remediation Technology, Suzuki, S. and Takada, H. (Eds), Tokai University Press, Kanagawa, Japan, 44-55.
- 7) Minh, T. B., Minh, N. H., Iwata, H., Tanabe, S. : 2-5. Human exposure to persistent organic pollutants, Chemical Pollution in Indochina - Contamination Status, Ecosystem Impact and Remediation Technology, Suzuki, S. and Takada, H. (Eds), Tokai University Press, Kanagawa, Japan, 127-144.
- 8) Agusa, T., Iwata, H., Inoue, S., Kubota, R., Minh, T. B., Tanabe, S. : 2-6. Contamination by arsenic in humans and its risk assessment, Chemical Pollution in Indochina - Contamination Status, Ecosystem Impact and Remediation Technology, Suzuki, S. and Takada, H. (Eds), Tokai University Press, Kanagawa, Japan, 145-159.
- 9) Oshima, Y., Nakayama, K., Hano, T., Kim S. G., Shimasaki, Y., Kang, I. J. and Honjo, T.: Toxic interactions between tributyltin and polychlorinated biphenyls in aquatic organisms. Ecotoxicology of Antifouling Biocides, Arai, T, Harino, H., Ohji, M. and Langston, W. J. (Eds.), Springer, Tokyo, Japan, 195-206.
- 10) 野田健一・鈴木賢一・黒田章夫：高輝度ルシフェラーゼの開発と応用，バイオサイエンスとインダストリー，バイオサイエンスとインダストリー編集委員会編，(財)バイオインダストリー協会，東京，68 (1)， 47-49.

- 11) Kannan, K. and Tanabe, S.: Global contamination by organotin compounds. *Ecotoxicology of Antifouling Biocides*, Arai, T., Hirano, H., Ohji, M. and Langston, W. J. (Eds), Springer, Tokyo, Japan, 39-60.
- 12) 磯部友彦・国末達也・田辺信介：アジア太平洋地域の化学汚染、分子でよむ環境汚染、鈴木 聰編著、東海大学出版会、2-37。
- 13) Shiozaki, A., Someya, M., Kunisue, T., Takahashi, S., Tuyen, B. T., Takada, H. and Tanabe, S.: Contamination status of dioxins in sediments from Saigon River estuary, Vietnam. *Interdisciplinary Studies on Environmental Chemistry*, Vol. 2, *Environmental Research in Asia for Establishing a Scientist's Network*, Obayashi, Y., Isobe, T., Subramanian, An., Suzuki, S. and Tanabe, S. (Eds), TERRAPUB, Tokyo, Japan, 31-45.
- 14) Murata, S., Nomiyama, K., Kunisue, T., Takahashi, S., Yamada, T. K. and Tanabe, S.: Hydroxylated polychlorinated biphenyls in the blood of cetaceans stranded along the Japanese coast. Obayashi, Y., Isobe, T., Subramanian, An., Suzuki, S. and Tanabe, S. (Eds), TERRAPUB, Tokyo, Japan, 55-66.
- 15) Oshihori, T., Isobe, T., Takahashi, S., Kubodera, T. and Tanabe, S.: Contamination status of organohalogen compounds in deep-sea fishes in northwest Pacific Ocean, Off-Tohoku, Japan. Obayashi, Y., Isobe, T., Subramanian, An., Suzuki, S. and Tanabe, S. (Eds), TERRAPUB, Tokyo, Japan, 67-72.
- 16) Toyoshima, S., Isobe, T., Ramu, K., Miyasaka, H., Omori, K., Takahashi, S., Nishida S., and Tanabe, S.: Organochlorines and brominated flame retardants in deep-sea ecosystem of Sagami Bay. Obayashi, Y., Isobe, T., Subramanian, An., Suzuki, S. and Tanabe, S. (Eds), TERRAPUB, Tokyo, Japan, 83-90.
- 17) Tue, N. M., Sudaryanto, A., Nhat, B. H., Takahashi, S., P. H. Viet, P. H. and Tanabe, S.: Contamination by PCBs and BFRs in Vietnamese human milk associated with recycling of e-waste. Obayashi, Y., Isobe, T., Subramanian, An., Suzuki, S. and Tanabe, S. (Eds), TERRAPUB, Tokyo, Japan, 91-97.
- 18) Imaeda, D., Nomiyama, K., Kunisue, T., Iwata, H., Tsydenova, O., Takahashi, S., Amano, M., Petrov, E. A., Batoev, V. B. and Tanabe, S.: Residue levels of OHPCBs and PCBs in the blood of Baikal seals (*Pusa sibirica*). Obayashi, Y., Isobe, T., Subramanian, An., Suzuki, S. and Tanabe, S. (Eds), TERRAPUB, Tokyo, Japan, 111-117.
- 19) Isobe, T., Ochi, Y., Imaeda, D., Sakai, H., Hirakawa, S., Tsydenova, O., Amano, M., Petrov, E., Batoev, V., Iwata, H., Takahashi, S. and Tanabe, S.: Contamination status of brominated flame retardants (BFRs) in Baikal Seals (*Pusa sibirica*). Obayashi, Y., Isobe, T., Subramanian, An., Suzuki, S. and Tanabe, S. (Eds), TERRAPUB, Tokyo, Japan, 119-124.
- 20) Sudaryanto, A., Setiawan, I. E., Ilyas, M., Soeyanto, E., Riadi, A. S., Isobe, T., Takahashi, S. and Tanabe, S.: Levels of brominated flame retardants in sediments and their bioaccumulation potential in biota from Jakarta Bay and its surroundings, Indonesia. Obayashi, Y., Isobe, T., Subramanian, An., Suzuki, S. and Tanabe, S. (Eds), TERRAPUB, Tokyo, Japan, 125-131.
- 21) Sudaryanto, A., Isobe, T., Suzuki, G., Setiawan, I. E., Ilyas, M., Riyadi, A. S., Takahashi, S. and Tanabe, S.: Characterization of brominated flame retardants in house dust and their role as non-dietary source for human in Indonesia. Obayashi, Y., Isobe, T., Subramanian, An., Suzuki, S. and Tanabe, S. (Eds), TERRAPUB, Tokyo, Japan, 133-141.
- 22) Eguchi, A., Isobe, T., Subramanian, An., Sudaryanto, A., Ramu, K., Minh, T. B., Chakraborty, P., Minh, N. H., Tana, T. S., Viet, P. H., Takahashi, S. and Tanabe, S.: Contamination by brominated flame retardants in soil samples from open dumping sites of Asian developing countries. Obayashi, Y., Isobe, T., Subramanian, An., Suzuki, S. and Tanabe, S. (Eds), TERRAPUB, Tokyo, Japan, 143-151.
- 23) Mizukawa, H., Takahashi, S., Nakayama, K., Sudo, A. and Tanabe, S.: Contamination and accumulation feature of organotin compounds in common cormorants (*Phalacrocorax carbo*) from Lake Biwa, Japan. Obayashi, Y., Isobe, T., Subramanian, An., Suzuki, S. and Tanabe, S. (Eds), TERRAPUB, Tokyo, Japan, 153-161.
- 24) Hayase, D., Horai, S., Isobe, T., Miller, T. W., Takahashi, S., Omori, K. and Tanabe, S.: Monitoring trace elements in coastal waters using sardine as a bioindicator. Obayashi, Y., Isobe, T., Subramanian, An., Suzuki, S. and Tanabe, S. (Eds), TERRAPUB, Tokyo, Japan, 167-175.
- 25) Horai, S., Hayase, D., Takahashi, S., Ishikawa, T., Kumagai, M. and Tanabe, S.: Mass mortality and trace element residues in isaza (*Gymnogobius isaza*) collected from Lake Biwa, Japan. Obayashi, Y., Isobe, T., Subramanian, An., Suzuki, S. and Tanabe, S. (Eds), TERRAPUB, Tokyo, Japan, 177-183.
- 26) Ilyas, M., Sudaryanto, A., Anantasena, Y., Takahashi, S. and Tanabe, S.: Is arsenic a potential threat for human

4. 研究成果

- health in Indonesia? Obayashi, Y., Isobe, T., Subramanian, An., Suzuki, S. and Tanabe, S. (Eds), TERRAPUB, Tokyo, Japan, 185-189.
- 27) Takeshita, H., Fujihara, J., Agusa, T., Takahashi, S., Iwata, H. and Tanabe, S. : Genetic polymorphism influencing arsenic metabolism in human. Obayashi, Y., Isobe, T., Subramanian, An., Suzuki, S. and Tanabe, S. (Eds), TERRAPUB, Tokyo, Japan, 191-195.
- 28) Nakata, H., Murata, S., Shinohara, R., Filatreau, J., Isobe, T., Takahashi, S. and Tanabe, S. : Occurrence and concentrations of persistent personal care products, organic UV filters, in the marine environment. Obayashi, Y., Isobe, T., Subramanian, An., Suzuki, S. and Tanabe, S. (Eds), TERRAPUB, Tokyo, Japan, 239-246.
- 29) Chang, K. H., Amano, A., Miller, T. W., Isobe, T., Maneja, R., Siringan, F. P., Imai, H. and Nakano, S. : Pollution study in Manila Bay. Obayashi, Y., Isobe, T., Subramanian, An., Suzuki, S. and Tanabe, S. (Eds), TERRAPUB, Tokyo, Japan, 261-267.
- 30) Imai, H., Chang, K. H., and Nakano, S. : Growth responses of harmful algal species *Microcystis* (Cyanophyceae) under various environmental conditions. Obayashi, Y., Isobe, T., Subramanian, An., Suzuki, S. and Tanabe, S. (Eds), TERRAPUB, Tokyo, Japan, 269-275.

生態系解析分野

- 1) 鈴木 聰：第6章 微生物による分子変換，分子でよむ環境汚染，鈴木 聰・編著，東海大学出版会，159-187.
- 2) 鈴木 聰：第24章 海洋における遺伝子伝播，海と生命「海の生命観」を求めて，塚本勝巳・編，東海大学出版会，364-385.
- 3) Suzuki, S., Suehiro, F. and Kobayashi, T. : Resistance of sediment bacteria to organotin and tetracycline. *Chemical Pollution in Indochina*, Suzuki, S. and Takada, H. (Eds), Tokai University Press, Kanagawa, Japan, 83-96.

4. 2 学協会誌等

環境動態解析部門

原 著

- 1) 武岡英隆・藤井直紀・高橋大介・馬込伸哉・南條悠太：宇和海におけるミズクラゲの集群メカニズム. 沿岸海洋研究, 46-2, 109-117.
- 2) Valle-Levinson, A., and Guo, X. : Asymmetries in tidal flow over a Seto Inland Sea scour pit. *Journal of Marine Research*, 67 (5), 619-635.
- 3) Lin, S. Y., Zou, T., Gao, H. W. and Guo, X. : The vertical attenuation of irradiance as a function of turbidity : a case of the Yellow Sea in spring. *Acta Oceanologica Sinica*, 28 (5), 66-75.
- 4) Takahashi, D., Guo, X., Morimoto, A. and Kojima, S. : Biweekly periodic variation of the Kuroshio axis northeast of Taiwan as revealed by ocean high-frequency radar. *Continental Shelf Research*, 29 (15), 1896-1907.
- 5) Chang, P. -H., Guo, X. and Takeoka, H. : A numerical Study on the Seasonal Circulation in the Seto Inland Sea, Japan. *Journal of Oceanography*, 65 (6), 721-736.
- 6) Miyazawa, Y., Zhang, R., Guo, X., Tamura, H., Ambe, D., Lee, J. -S., Okuno, A., Yoshinari, H., Setou, T. and Komatsu, K. : Water mass variability in the western North Pacific detected in a 15-year eddy resolving ocean reanalysis. *Journal of Oceanography*, 65 (6), 737-756.
- 7) Ono, J., Takahashi, D., Guo, X., Takahashi, S., and Takeoka, H. : Development of a mathematical model for 3d-dynamics of persistent organic pollutant in the East China Sea. *Organohalogen Compounds*, 71, 1314-1317.
- 8) Zhang, P., Zou, L., Yao, X., Guo, X., Gao, H. W. and Yamaguchi, I. : Nutrient distributions and influencing factors in the intertidal area of the Yellow River Delta. *Periodical of Ocean University of China*, 39 (sup), 381-388.
- 9) Saito, M., Onodera, S., Umezawa, Y., Hosono, T., Shimizu, Y., Delinom, R. and Taniguchi, M.: Evaluation of nitrate attenuation potential in the groundwater of Jakarta metropolitan area, Indonesia., *IAHS Publication*, 329, 305-310.
- 10) Saito, M., Onodera, S., Sawano, M., Shimizu, Y., Takahashi, H. and Fukuoka, M. : River mouth dam effect on integrated management of coastal water resource in a Seto Inland Sea watershed, Western Japan, *IAHS Publication*,

330, 150-153.

- 11) 斎藤光代・小野寺真一：沿岸農業流域における地下水による硝酸性窒素流出の季節変動特性, *陸水学雑誌*, 70, 137-147.
- 12) Onodera, S., Saito M., Sawano, M., Hosono, T., Taniguchi, M., Shimada, J., Umezawa, Y., Lubis, R. F., Buapeng, S. and Delinom, R.: Effects of intensive urbanization on the intrusion of shallow groundwater into deep groundwater: Examples from Bangkok and Jakarta, *Science of the total environment*, 407, 3209-3217.
- 13) 清水裕太・小野寺真一・斎藤光代：50 m メッシュ高度情報を利用した100 km スケールでの海底地下水流出量の空間分布評価—瀬戸内海中央部での適用例—, *陸水学雑誌*, 70, 29-139.
- 14) Tsugeki, N. K., Ishida, S., Urabe, J.: Sedimentary records of reduction in resting egg production of *Daphnia galeata* in Lake Biwa during the 20th century : A possible effect of winter warming. *Journal of Paleolimnology*, 42 (2), 155-165, doi : 10.1007/s10933-008-9268-5.
- 15) Kuwae, M., Hayami, Y., Oda, H., Yamashita, A., Amano, A., Kaneda, A., Ikebara, M., Inouchi, Y., Omori, K., Takeoka, H. and Kawahata, H.: Using foraminiferal Mg/Ca ratios to produce an ocean warming trend in the 20th century from coastal shelf sediments in the Bungo Channel, southwest Japan, *The Holocene*, 19, 285-29.
- 16) Isobe, A., S. Kako, P. -H. Chang, and T. Matsuno : Two-way particle tracking model for specifying sources of drifting objects: application to the East China Sea shelf, *Journal of Atmospheric and Oceanic Technology*, 26, 1672-1682.
- 17) Kako, S. and M. Kubota : Numerical study on the mixed layer temperature in the North pacific. *J. Physical Oceanography*, 39, 737-752
- 18) Seino, S., A. Kojima, H. Hinata, S. Magome, and A. Isobe : Multi-sectorial research on East Chima Sea beach litter based on oceanographic methodology and local knowledge, *J. Coastal Research*, special issue, 56, 1289-1292.
- 19) Seto, M., and Handoh, I. C. (2009b). Mathematical explanation for the non-linear hydrophobicity-dependent bio-concentration processes of persistent organic pollutants in phytoplankton, *Chemosphere*, 77 : 679-686

総説等

- 1) 加三千宣：琵琶湖湖底堆積物の層序と古環境研究, 日本第四紀学会編デジタルブック最新第四紀学, CD-ROM.

Proceedings 等

- 1) Guo, X., Ono, J., Takahashi, D., Takahashi, S. and Takeoka, H. : Transport of atmospheric Persistent Organic Pollutants (POPs) in the East China Sea. International workshop on Trans-boundary Environmental Problems in East Asia, Fukuoka, Japan, October, Proceeding, 21-24.
- 2) Zhao, L. and Guo, X. : The influence of the Changjiang on the low-trophic ecosystem in the East China Sea. International workshop on Trans-boundary Environmental Problems in East Asia, Fukuoka, Japan, October, Proceeding, 25-28.
- 3) Seto, M., and Handoh, I. C. (2009a). Teasing out the non-linearity in the POPs-phytoplankton bioconcentration processes, *Interdisciplinary Studies on Environmental Chemistry Environmental Research in Asia*, 2 : 11-19.
- 4) Kawai, T., and Handoh, I. C. (2009). Towards state-of-the-art dynamical modelling and risk assessment of persistent organic pollutants (POPs) in the global environment, *Interdisciplinary Studies on Environmental Chemistry Environmental Research in Asia*, 2 : 1-9.
- 5) Kawai T., Handoh I. C., and Takahashi S. (2009). The rise of the Finely-Advanced Transboundary Environmental model (FATE) : A state-of-the-art model prediction of the global sink of persistent organic pollutants, *Organohalogen Compounds*, 71 : 1,610-1,615.

化学汚染・毒性解析部門

原 著

- 1) Hirano, M., Ishibashi, H., Kim, J. W., Matsumura, N. and Arizono, K. : Effects of nonylphenol on growth and 20-hydroxyecdysone levels in Mysid crustacean, *Americamysis bahia*, *Comparative Biochemistry and Physiology - C Toxicology and Pharmacology*, 149 (3), 369-373.
- 2) Kubota, A., Kim, E. Y. and Iwata, H. : Alkoxyresorufin (methoxy-, ethoxy-, pentoxy- and benzyloxyresorufin) O-dealkylase activities by *in vitro*-expressed cytochrome P450 1A4 and 1A5 from common cormorant (*Phalacrocorax*

4. 研究成果

- carbo), *Comparative Biochemistry and Physiology - C Toxicology and Pharmacology*, 149 (4), 544-551.
- 3) Watanabe, M. X., Jones, S. P., Iwata, H., Kim, E. Y. and Kennedy, S. W.: Effects of co-exposure to 2,3,7,8-tetrachlorodibenzo-*p*-dioxin and perfluorooctane sulfonate or perfluorooctanoic acid on expression of cytochrome P450 isoforms in chicken (*Gallus gallus*) embryo hepatocyte cultures, *Comparative Biochemistry and Physiology - C Toxicology and Pharmacology*, 149 (4), 605-612.
 - 4) Sakai, H., Kim, E. Y., Petrov, E. A., Tanabe, S. and Iwata, H.: Transactivation potencies of Baikal seal constitutive active/androstane receptor by persistent organic pollutants and brominated flame retardants, *Environmental Science and Technology*, 43 (16), 6391-6397.
 - 5) Agusa, T., Kunito, T., Minh, T. B., Kim Trang, P. T., Iwata, H., Viet, P. H. and Tanabe, S.: Relationship of urinary arsenic metabolites to intake estimates in residents of the red river delta, Vietnam, *Environmental Pollution*, 157 (2), 396-403.
 - 6) Imaeda, D., Kunisue, T., Ochi, Y., Iwata, H., Tsydenova, O., Takahashi, S., Amano, M., Petrov, E. A., Batoev, V. B. and Tanabe, S.: Accumulation features and temporal trends of PCDDs, PCDFs and PCBs in Baikal seals (*Pusa sibirica*), *Environmental Pollution*, 157 (3), 737-747.
 - 7) Fujihara, J., Agusa, T., Tanaka, J., Fujii, Y., Moritani, T., Hasegawa, M., Iwata, H., Tanabe, S. And Takeshita, H.: 8-hydroxy-2'-deoxyguanosine (8-OHDG) as a possible marker of arsenic poisoning : A clinical case study on the relationship between concentrations of 8-OHDG and each arsenic compound in urine of an acute promyelocytic leukemia patient being treated with arsenic trioxide, *Forensic Toxicology*, 27 (1), 41-44.
 - 8) Agusa, T., Inoue, S., Kunito, T., Minh, T. B., Ha, N. N., Tu, N. P. C., Kim Trang, P. T., Iwata, H., Viet, P. H., Tuyen, B. C. And Tanabe, S.: Human exposure to arsenic from groundwater in the red river and mekong river deltas in Vietnam, *International Journal of Environmental Studies*, 66 (1), 49-57.
 - 9) Kim, J. W., Jang, H. S., Kim, J. G., Ishibashi, H., Hirano, M., Nasu, K., Ichikawa, N., Takao, Y., Shinohara, R. and Arizono, K.: Occurrence of pharmaceutical and personal care products (PPCPs) in surface water from Mankyoung River, South Korea, *Journal of Health Science*, 55 (2), 249-258.
 - 10) Song, J. Y., Sasaki, K., Okada, T., Sakashita, M., Kawakami, H., Matsuoka, S., Kang, H. S., Nakayama, K., Jung, S. J., Oh, M. J. and Kitamura, S. I.: Antigenic differences of the scuticociliate *Miamiensis avidus* from Japan, *Journal of Fish Diseases*, 32 (12), 1027-1034.
 - 11) Yamaguchi, A., Ishibashi, H., Kohra, S., Arizono, K., Kato, K., Nakahama, T., Kanno, Y., Inouye, Y. and Tominaga, N.: Expression analysis of estrogen-responsive genes vitellogenin 1 and 2 in liver of male medaka (*Oryzias latipes*) exposed to selective ligands of estrogen receptor subtypes, *Journal of Health Science*, 55 (6), 930-938.
 - 12) Nakayama, K., Matsudaira, C., Tajima, Y., Yamada, T. K., Yoshioka, M., Isobe, T., Takahashi, S. and Tanabe, S.: Temporal and spatial trends of organotin contamination in the livers of finless porpoises (*Neophocaena phocaenoides*) and their association with parasitic infection status, *Science of the Total Environment*, 407 (24), 6173-6178.
 - 13) Kim, J. W., Ishibashi, H., Yamauchi, R., Ichikawa, N., Takao, Y., Hirano, M., Koga, M. and Arizono, K.: Acute toxicity of pharmaceutical and personal care products on freshwater crustacean (*Thamnocephalus platyurus*) and fish (*Oryzias latipes*), *The Journal of Toxicological Sciences*, 34 (2), 227-232.
 - 14) Lee, J. S., Kim, E. Y. and Iwata, H.: Dioxin activation of CYP1A5 promoter/enhancer regions from two avian species, common cormorant (*Phalacrocorax carbo*) and chicken (*Gallus gallus*) : Association with aryl hydrocarbon receptor 1 and 2 isoforms, *Toxicology and Applied Pharmacology*, 234 (1), 1-13.
 - 15) Agusa, T., Iwata, H., Fujihara, J., Kunito, T., Takeshita, H., Minh, T. B., Trang, P. T., Viet, P. H. and Tanabe, S.: Genetic polymorphisms in AS3MT and arsenic metabolism in residents of the red river delta, Vietnam, *Toxicology and Applied Pharmacology*, 236 (2), 131-141.
 - 16) Devanathan, G., Subramanian, An., Someya, M., Sudaryanto, A., Isobe, T., Takahashi, S., Chakraborty, P. and Tanabe, S.: Persistent organochlorines in human breast milk from major metropolitan cities in India. *Environmental Pollution*, 157 (1), 148-154.
 - 17) Kunisue, T. and Tanabe, S.: Hydroxylated polychlorinated biphenyls (OH-PCBs) in the blood of mammals and birds from Japan : Lower chlorinated OH-PCBs and profiles. *Chemosphere*, 74 (7), 950 -961.
 - 18) Terauchi, H., Takahashi, S., Lam, P. K. S., Min, B. Y. and Tanabe, S.: Polybrominated, polychlorinated and monobromo-polychlorinated dibenzo-*p*-dioxins/dibenzofurans and dioxin-like polychlorinated biphenyls in marine

- surface sediments from Hong Kong and Korea. *Environmental Pollution*, **157** (3), 724-730.
- 19) Isobe, T., Ochi, Y., Ramu, K., Yamamoto, T., Tajima, Y., Yamada, T. K., Amano, M., Miyazaki, N., Takahashi, S. and Tanabe, S.: Organohalogen contaminants in striped dolphins (*Stenella coeruleoalba*) from Japan : present contamination status, body distribution and temporal trends (1978-2003). *Marine Pollution Bulletin*, **58** (3), 396-401.
 - 20) 真柄真美・田島木綿子・山田 格・磯部友彦・高橋 真・田辺信介・島田章則：集団座礁したスジイルカに認められた甲状腺腫様変化、*日本獣医師会雑誌*, **62** (2), 155-160.
 - 21) Ha, N. N., Agusa, T., Ramu, K., Tu, N. P. C., Murata, S., Bulbule, K. A., Parthasarathy, P., Takahashi, S., Subramanian, An. and Tanabe, S.: Contamination by trace elements at e-waste recycling sites in Bangalore, India. *Chemosphere*, **76** (1), 9-15.
 - 22) Udaka, M., Ikemoto, T., Zenke, H., Takahashi, S., Batoev, V. B., Petrov, E. A. and Tanabe, S.: Radionuclide (^{137}Cs and ^{40}K) concentrations in the muscle of Baikal seal (*Pusa sibirica*) from Lake Baikal. *Marine Pollution Bulletin*, **58** (2), 290-294.
 - 23) 藤原純子・阿草哲郎・竹下治男・福島美貴子・中島たみ子・岩田久人・田辺信介：ヒ素代謝に関する *AS3MT M287T* 多型はアジア人特異的低変異性を示す、*DNA 多型*, **17**, 169-172.
 - 24) Sousa, A., Ikemoto, T., Takahashi, S., Barroso, C. and Tanabe, S.: Distribution of synthetic organotins and total tin levels in *Mytilus galloprovincialis* along the Portuguese coast. *Marine Pollution Bulletin*, **58** (8), 1130-1136.
 - 25) Yamaguchi, S., Miura, C., Kikuchi, K., Celino, F. T., Agusa, T., Tanabe, S. and Miura, T.: Zinc is an essential trace element for spermatogenesis. *PNAS*, **106** (26), 10859-10864.
 - 26) Isobe, T., Oda, H., Takayanagi, N., Kunisue, T., Komori, H., Arita, N., Ueda, N., Nose, M., Yamada, T., Takahashi, S. and Tanabe, S.: Hexabromocyclododecanes in human adipose tissue from Japan. *Environmental Chemistry*, **6** (4), 328-333.
 - 27) Sousa, A., Laranjeiro, F., Takahashi, S., Tanabe, S. and Barroso, C.: Imposex and organotin prevalence in a European post-legislative scenario : Temporal trends from 2003 to 2008. *Chemosphere*, **77** (4), 566-573.
 - 28) Wan, Y., Wiseman, S., Chang, H., Zhang, X., Jones, P. D., Hecker, M., Kannan, K., Tanabe, S., Hu, J., Lam, M. H. W. and Giesy, J. P.: Origin of hydroxylated brominated diphenyl ethers : natural compounds or man-made flame retardants? *Environmental Science and Technology*, **43** (19), 7536-7542.
 - 29) Malarvannan, G., Kunisue, T., Isobe, T., Sudaryanto, A., Takahashi, S., Prudente, M., Subramanian, An. and Tanabe, S.: Organohalogen compounds in human breast milk from mothers living in Patayas and Malate, the Philippines : Levels, accumulation kinetics and infant health risk. *Environmental Pollution*, **157** (6), 1924-1932.
 - 30) Krman, A., Harada, K., Inoue, K., Takasuga, T., Ohi, E. and Koizumi, A.: Relationship between dietary exposure and serum perfluorochemical (PFC) levels A case study. *Environmental International*, **35**, 712-717.
 - 31) Itai, T., Takahashi, Y., Seddique, A. A., Maruoka, T. and Mitamura, M.: Variations in the redox state of As and Fe measured by X-ray absorption spectroscopy in aquifers of Bangladesh and their effect on As adsorption. *Applied Geochemistry*, **25** (1), 34-47.
 - 32) Doi, H., Chang, K. H., Ando, T., Imai, H., Ninomiya I. and Nakano, S.: Resource availability and ecosystem size predict food-chain lengths in pond ecosystems. *Oikos*, **118**, 138-144.
 - 33) Imai, H., Chang, K. H. Kusaba, M. and Nakano, S.: Temperature-dependent dominance of *Microcystis* (Cyanophyceae) species : *M. aeruginosa* and *M. wesenbergii*. *Journal of Plankton Research*, **31**, 171-178.
 - 34) La, G. H., Jeong, H. G., Kim, M. C., Joo, G. J., Chang, K. H. and Kim, H. W.: Response of diapausing eggs hatching to changes in temperature and the presence of fish kairomones. *Hydrobiologia*, **635**, 399-402.
 - 35) Chang, K. H., Doi, H., Nishibe, Y., Obayashi, Y. and Nakano, S.: Spatial and Temporal Distribution of Zooplankton Communities of Coastal Marine Waters Receiving Different Human Activities (Fish and Pearl Oyster Farmings). *The Open Marine Biology Journal*, **3**, 83-88.

総説等

- 1) 田辺信介：海洋生態系を蝕む化学汚染, *Ebucheib* 季刊 海の未来を考える, **35**, 2-5.
- 2) 石橋弘志・有薗幸司 (2009) : 有機フッ素化合物による環境汚染と生物影響, *生物化学的測定法研究会年報*, **13**, 73-84.

4. 研究成果

- 3) 石橋弘志・有薦幸司 (2009) : 研究最前線：ビスフェノール A の暴露状況，環境ホルモン学会 News Letter, 12 (2), 2.

Proceedings 等

- 1) Takahashi, S., Oshiohi, T., Isobe, T., Ramu, K., Ohmori, K., Kubodera, T. and Tanabe, S. : Contamination by persistent organohalogen compounds in deep-sea fishes from off the Pacific coast of northern Japan. Deep-Sea Fauna and Pollutants off Pacific Coast of Northern Japan (ed. by Fujita, T.), *National Museum of Nature and Sciences Monographs*, (39), 737-755.
- 2) Nomiyama, K., Murata, S., Mizukawa, H., Yamada, T. K., Takahashi, S. and Tanabe, S. : Comprehensive study on hydroxylated polychlorinated biphenyls in the blood of cetaceans, including toothed whales and baleen whales stranded at the Japanese coast. *Organohalogen Compounds*, 71, 54-59.
- 3) Tue, N. M., Suzuki, G., Isobe, T., Takahashi, S., Viet, P. H. and Tanabe, S. : Levels of polychlorinated biphenyls, brominated flame retardants and dioxin-like activities associated with e-waste recycling in Vietnamese house dust. *Organohalogen Compounds*, 71, 357-360.
- 4) Malarvannan, G., Isobe, T., Sudaryanto, A., Takahashi, S., Prudente, M. and Tanabe, S. : Brominated flame retardants in house dust from the Philippines : levels, profiles and fate. *Organohalogen Compounds*, 71, 404-407.
- 5) Subramanian, An., Ramu, K., Devanathan, G., Takahashi, S. and Tanabe, S. : Spacial and temporal trends of persistent toxic substances in India. *Organohalogen Compounds*, 71, 627-629.
- 6) Takigami, H., Sato, M., Sakai, S., Tanabe, S. and Brouwer, A. : Application of a panel of nuclear receptor/reporter gene bioassays to marine harbor sediments in Asia. *Organohalogen Compounds*, 71, 775-777.
- 7) Yamamoto, T., Higashino, K., Ohura, T., Amagai, T., Takemori, H., Takasuga, T. and Sasaki, Y.: Laboratory investigation of PCDD/Fs and Dioxin-like compounds formation during chlor-alkali process. *Organohalogen Compounds*, 71, 863-868.
- 8) Sudaryanto, A., Malarvannan, G., Xian, Q., Ramu, K., Isobe, T., Minh, N. H., Takahashi, S., Iwata, H. and Tanabe, S. : Assessment of brominated flame retardants in fish from Asian countries ; levels, distribution, profiles and health risk. *Organohalogen Compounds*, 71, 1110-1115.
- 9) Devanathan, G., Agus, S., Subramanian, An., Isobe, T., Someya, M., Takahashi, S. and Tanabe, S.: Persistent organohalogen compounds in human breast milk collected from different regions in India. *Organohalogen Compounds*, 71, 1261-1264.
- 10) Eguchi, A., Isobe, T., Subramanian, An., Sudaryanto, A., Viet, P. H., Tana, T. S., Takahashi, S. and Tanabe, S. : Contamination by brominated flame retardants in soil samples from Asian developing countries. *Organohalogen Compounds*, 71, 1286-1290.
- 11) Isobe, T., Amano, A., Chang, K. H., Miller, T. W., Maneja, R. H., Zamora, P. B., San Diego-McGlone, M. L., Siringan, F. and Tanabe, S. : Spacial and vertical distribution of brominated flame retardants in sediments from Manila Bay, The Philippines. *Organohalogen Compounds*, 71, 1364-1368.
- 12) Takasuga, T., Otsuka, K., Funakoshi, K., Iwaki, K., Matsumura, T. and Miyazaki, T. : Evaluation of interlaboratory study on PCDD, PCDF and dioxin like PCB in the flyash reference material (6th round FY 2008 research group on ultra trace analyses, JEMCA), *Organohalogen Compounds*, 71, 1548-1551.
- 13) Someya, M., Suzuki, G., Subramanian, An., Zheng, G. J., Lam, P. K. S., Prudente, M., Min, B. Y., Zakaria, M. P., Viet, P. H., Tana, T. S., Takahashi, S. and Tanabe, S. : Mussel watch program : monitoring of dioxin related compounds in Asian coastal waters using mussels as bioindicators. *Organohalogen Compounds*, 71, 1802-1807.
- 14) Shimizu, J., Takahashi, S., Isobe, T., Subramanian, An., Kunacheva, C., Fukaumi, M., Uchida, K., Matsumura, T., Toju, H., Tanaka, S., Fujii, S. and Tanabe, S. : Development of monitoring system for persistent organic pollutants in offshore waters around Japan : results from the first investigation in the East China Sea. *Organohalogen Compounds*, 71, 1812-1817.
- 15) Mizukawa, H., Nomiyama, K., Kunisue, T., Watanabe, M. X., Subramanian, An., Takahashi, S. and Tanabe, S. : Accumulation features of hydroxylated-PCBs (OH-PCBs) in the blood of pigs collected from a dumping site for municipal wastes in India. *Organohalogen Compounds*, 71, 1845-1849.

- 16) Takasuga, T., Takemori, H., Matsukami, H. and Inoue, T. : Evaluation of GC-HR-TOFMS techniques applied for environmental analysis. *Organohalogen Compounds*, 71, 1905-1908.
- 17) Takasuga, T., Takemori, H., Yamamoto, T., Higashino, K., Sasaki, Y. and Weber, R. : The fingerprint of chlorinated aromatic compounds in contaminated sites from chloralkali processes and a historic chlorine production using GC-HR-TOF-MS screening. *Organohalogen Compounds*, 71, 2224-2229.
- 18) Matsukami, H., Nakamura, A., Ohi, E., Takahashi, S., Isobe, T., Tanabe, S. and Takasuga, T. : Short chain chlorinated paraffins in blubber of striped dolphins from Japan : high sensitivity and precise quantification method by gas chromatography-high resolution mass spectrometry. *Organohalogen Compounds*, 71, 2359-2362.
- 19) Ilyas, M., Sudaryanto, A., Soeyanto, E., Setiawan, I. E., Riadi, A. S., Isobe, T., Takahashi, S. and Tanabe, S. (2009) : Polychlorinated biphenyls (PCBs) and brominated flame retardants (BFRs) in surface sediments of Surabaya City, Indonesia: a comparison between ribers and coastal waters. *Organohalogen Compounds*, 71, 2541-2546.

生態系解析部門

原 著

- 1) Kadokawa, K., Sone, T., Kamikozawa, T., Takasu, H. and Suzuki, S. : Effect of water-surface discharge on the inactivation of *Bacillus subtilis* due to protein lysis and DNA damage. *Bioscience Biotechnology and Biochemistry*, 73, 1978-1983.
- 2) Ogata, Y., Takada, H., Mizukawa, S., Hirao, H., Iwasa, S., Endo, S., Mato, Y., Saha, M., Okuda, K., Nakashima, A., Murakami, M., Zurcher, N., Booyatumanondo, R., Zakaria, M. P., Dung, L. Q., Gordon, M., Barroso, C. M., Suzuki, S., Moore, C., Karapanagioti, H., Weets, S., McClurg, T., Burres, E., Smith, W., Velkenburg, M. V., Lang, S. L., lang, R., Laursen, D., Danner, B., Stewardson, N. and Thompson, R. : International pellet watch : Global monitoring of persistent organic pollutants (POPs) in coastal waters. 1. initial phase data on PCBs, DDTs, and HCHs. *Marine Pollution Bulletin*, 58, 1437-1446.
- 3) Neela, F. A., Nonaka, L., Rahman, M. H. and Suzuki, S. : Transfer of the chromosomally encoded tetracycline resistance gene *tet* (M) from marine bacteria to *Escherichia coli* and *Enterococcus faecalis*. *World Journal of Microbiology and Biotechnology*, 25, 1095-1101.
- 4) Inaba, M., Suzuki, S., Kitamura, S. I., Kumazawa, N. and Kodama, H. : Distribution of marine birnavirus (MABV) in marine organisms from Okinawa, Japan, and a unique sequence variation of the VP2/NS region. *Journal of Microbiology*, 47, 76-84.
- 5) Kim, W. S., Kim, S. R., Kim, D., Kim, J. O., Park, M. A., Kitamura, S. I., Kim, H. Y., Kim, D. H., Han, H. J., Jung, S. J. and Oh, M. J. : An outbreak of VHSV (viral hemorrhagic septicemia virus) infection in farmed olive flounder *Paralichthys olivaceus* in Korea. *Aquaculture*, 296, 165-168.
- 6) Song, J. Y., Sasaki, K., Okada, T., Sakashita, M., Kawakami, H., Matsuoka, S., Kang, H. S., Nakayama, K., Jung, S. J., Oh, M. J. and Kitamura, S. I. : Antigenic differences of the scuticociliate *Miamiensis avidus* from Japan. *Journal of Fish Diseases*, 32, 1027-1034.
- 7) Hossain, M., Kim, S. R., Kitamura, S. I., Kim, D. W., Jung, S. J., Nishizawa, T., Yoshimizu, M. and Oh, M. J. : Lymphocystis disease virus persists in the epidermal tissues of olive flounder, *Paralichthys olivaceus* (Temminch & Schlegel), at low temperatures. *Journal of Fish Diseases*, 32, 699-703.
- 8) Nishimoto, S., Yamawaki, M., Akiyama, K., Kakinuma, Y., Kitamura, S. I. and Sugahara, T. : Severe abnormalities in the reproductive organs of mice by chemical substances contained in heavy oil. *Journal of Toxicological Science*, 34, 239-244.
- 9) Song, J. Y., Kitamura, S. I., Oh, M. J., Kang, H. S., Lee, J. H., Tanaka, S. J. and Jung, S. J. : Pathogenicity of *Miamiensis avidus* (syn. *Philasterides dicentrarchi*), *Pseudocohnilembus persalinus*, *Pseudocohnilembus hargisi* and *Uronema marinum* (Ciliophora, Scuticociliatida). Diseases of Aquatic Organisms, 83, 133-143.
- 10) Hamamura, N., Macur, R. E., Reysenbach, A-L. and Inskeep, W. P. : Linking microbial oxidation of arsenic with detection and phylogenetic analysis of arsenite-oxidase genes in diverse geothermal environments. *Environmental Microbiology*, 11, 421-431.
- 11) Reysenbach, A-L, Hamamura, N., Podar, M., Griffiths, E., Fereirra, S., Hochstein, R., Heidelberg, J., Johnson, J. A., Mead, D., Pohorille, A., Sarmiento, M., Schweighofer, K., Seshadri, R. and Voytek, M.

4. 研究成果

- A.: Complete and draft genome sequences of six members of the Aquificales. *Journal of Bacteriology*, 191, 1992-1993.
- 12) Shimahara, Y., Huang, Y. F., Tsai, M. A., Wang P. C., Yoshida, T., Lee J. L. and Chen S. C. : Genotypic and phenotypic analysis of fish pathogen, *Nocardia seriolae*, isolated in Taiwan. *Aquaculture*, 294, 165-171.
- 13) Takeuchi, I., Miyoshi, N., Mizukawa, K., Takada, H., Ikemoto, T., Omori, K., Tsuchiya, K. Biomagnification profiles of polycyclic aromatic hydrocarbons, alkylphenols and polychlorinated biphenyls in Tokyo Bay elucidated by $\delta^{13}\text{C}$ and $\delta^{15}\text{N}$ isotope ratios as guides to trophic web structure. *Marine Pollution Bulletin* 58 : 663-671, 2009.
- 14) Omori, K., Sogabe, A., Hamaoka, H., Ohnishi, H. Storage and the regulation of body mass in animals : general growth equation based on an energy balance model. *Ecol. Mod.* 220 : 2618-2623, 2009.
- Matsuo, H., Kawano, M., Omori, K., Nakajima, K., and Takeuchi, I. Stable isotope-guided analysis of congener-specific PCB concentrations in the coastal food web near a central metropolitan region in Japan. *Marine Pollution Bulletin* 58 : 1615-1623, 2009.
- 15) 松尾広暁・有山啓之・池本徳孝・大森浩二・竹内一郎 炭素・窒素安定同位体比を用いた大阪湾の人工干潟における食物連鎖網の解析. 水環境学会誌, 32 (2) : 99-104, 2009.
- 16) Shoji, J., Mizuno, K., Yamamoto, M., Miller, T. W., Hamaoka, H. and Omori, K. Spatial distribution of ichthyoplankton and moon jellyfish *Aurelia aurita* in the Seto Inland Sea Japan. *Scientia Marina* 73S1 : 191-198, 2009.
- 17) Takeuchi, I., Miyoshi, N., Mizukawa, K., Takada, H., Ikemoto, T., Omori, K., Tsuchiya, K. Biomagnification profiles of polycyclic aromatic hydrocarbons, alkylphenols and polychlorinated biphenyls in Tokyo Bay elucidated by $\delta^{13}\text{C}$ and $\delta^{15}\text{N}$ isotope ratios as guides to trophic web structure. *Marine Pollution Bulletin* 58 : 663-671, 2009.
- 18) Matsuo, H., Kawano, M., Omori, K., Nakajima, K., and Takeuchi, I. Stable isotope-guided analysis of congener-specific PCB concentrations in the coastal food web near a central metropolitan region in Japan. *Marine Pollution Bulletin* 58 : 1615-1623, 2009.
- 19) 松尾広暁・有山啓之・池本徳孝・大森浩二・竹内一郎 炭素・窒素安定同位体比を用いた大阪湾の人工干潟における食物連鎖網の解析. 水環境学会誌, 32 (2) : 99-104, 2009.
- 20) Shoji, J., Mizuno, K., Yamamoto, M., Miller, T. W., Hamaoka, H. and Omori, K. Spatial distribution of ichthyoplankton and moon jellyfish *Aurelia aurita* in the Seto Inland Sea Japan. *Scientia Marina* 73S1 : 191-198, 2009.
- 21) Kohda, M., Heg, D., Makino, Y., Takeyama, T., Shibata, J., Watanabe, K., Munehara, H., Hori, M. and Awata, S. : Living on the wedge : female control of paternity in a cooperatively polyandrous cichlid. *Proceedings of the Royal Society B*, 276 (1676) : 4207-4214.

Proceedings 等

- 1) Fukushima, K., Dubey, S. K. and Suzuki, S. : Quantitative analysis of expression of tributyltin (TBT) -regulated genes in TBT-resistant *Pseudomonas aeruginosa* 25W. *Interdisciplinary Studies on Environmental Chemistry* vol. 2 : *Environemtal Research in Asia*, TERRAPUB, 163-166.
- 2) Bong, C. W., Obayashi, Y. and Suzuki, S. : Changes in proteolytic activities in stored seawater and bacterial isolates. *Interdisciplinary Studies on Environmental Chemistry* vol. 2 : *Environemtal Research in Asia*, TERRAPUB, 287-291.

4. 3 学内, 所内誌等

化学汚染・毒性解析部門

- 1) 山本 央・東野和雄・吉岡秀俊・大浦 健・雨谷敬史・嶽盛公昭・高菅卓三・橋本俊次・佐々木裕子・柏木宣久 (2009) : 食塩電解過程に由来するダイオキシン類及びその類縁化合物, 東京都環境科学研究所年報, 33-40

4. 4 一般誌等

環境動態解析部門

- 1) 宮澤泰正・郭 新宇・清松 啓司・角田 智彦・須藤 聰 : JCOPE 海洋変動予測システム-ダウンスケーリングによるスケール間相互作用の解明に向けて-, 月刊海洋, 41 (3), 162-170.

- 2) 加 三千宣・武岡英隆・杉本隆成：海底堆積物記録から見たカタクチイワシ・マイワシ資源の100年スケール変動, 水産海洋研究, 73, 315-330.
- 3) 加 三千宣・武岡英隆・杉本隆成：堆積魚鱗から復元されたカタクチイワシ・マイワシ資源の長期スケール変動記録, 月刊海洋, 40, 448-453.
- 4) 磯辺篤彦: 東シナ海沿岸の海岸漂着ゴミ予報実験～市民と研究者の協同～, *Ship & Ocean Newsletter*, 205, 2-3.
- 5) 久保田雅久・加吉真一郎・富田裕之: 衛星熱フラックスデータのKEO ブイデータによる精度評価とその誤差の亜熱帯モード水形成影響評価, 月刊海洋, 141 (12), 702-709.

化学汚染・毒性解析部門

- 1) Subramanian, An. and Tanabe, S.: Temporal and spatial variations of persistent organic pollutants in Indian breast milk. *ENVIS NEWSLETTER*, 7 (3), 5-7.

生態系解析部門

- 1) 北村真一: ヒラメのスクーチカ症, 月刊養殖, 575巻, 26-27.
- 2) 嶋原佳子: ノカルジア症の研究成果と今後の展望～感染時期, 病原菌の由来, ワクチン開発への課題など～, アクアネット, 2009年1月号, 56-60.

4. 5 報告書等**環境動態解析部門**

- 1) 山口一岩・加 三千宣・榎木玲美・三好慶典・武岡英隆: 別府湾表層堆積物における生物起源珪素の水平分布, 岡山理科大学技術科学研究所年報, 28, 52-56.

化学汚染・毒性解析部門

- 1) 田辺信介: 集中講義の教育効果, 環境共生学部10年の歩み, 熊本県立大学環境共生学部, 2009年3月, 147.
- 2) 田辺信介・磯部友彦・高橋 真: 生物環境試料バンクを活用した有機臭素系難燃剤のグローカル汚染研究, 平成20年度廃棄物処理等科学研究研究成果報告書「家庭系廃製品の残留性化学物質と3Rシナリオ解析(K2062)」, 平成21年3月, 15-36.
- 3) 高橋 真・田辺信介・Ramu, K.・Tue, N. M.・磯部友彦: インドおよびベトナムの電子・電気機器廃棄物(e-waste)処理現場における残留性有害物質の人体曝露と環境汚染, 平成20年度廃棄物処理等科学研究研究成果報告書「家庭系廃製品の残留性化学物質と3Rシナリオ解析(K2062)」, 平成21年3月, 37-60.
- 4) 田辺信介・高橋 真・Ramu, K.・磯部友彦: アジア地域の社会システム循環における残留性化学物質の挙動研究—BFRsによる環境汚染の時空間分布, 平成18~20年度廃棄物処理等科学研究総合研究成果報告書「家庭系廃製品の残留性化学物質と3Rシナリオ解析」, 平成21年3月, 17-41.
- 5) 高橋 真・田辺信介・Ramu, K.・Tue, N. M.・磯部友彦: アジア地域の社会システム循環における残留性化学物質の挙動研究—インドおよびベトナムの電子・電気機器廃棄物(e-waste)処理現場における残留性有害物質の人体曝露と環境汚染, 平成18~20年度廃棄物処理等科学研究総合研究成果報告書「家庭系廃製品の残留性化学物質と3Rシナリオ解析」, 平成21年3月, 43-70.
- 6) 高橋 真: アジア・太平洋地域におけるPOPs候補物質の汚染実態解明と新規モニタリング法の開発, 平成18年度~19年度環境省地球環境研究総合推進費終了研究成果報告書「地球環境研究革新型研究領域」, 2009年4月, 153-232.
- 7) Takahashi, S. and Tanabe, S.: Global distribution and potential sources of persistent toxic substances: recent issues in the Asia-Pacific region. Report on Kyoto Workshop on 3R (Reduce, Reuse & Recycle) and Waste Management, Kyoto University, October 2009, 201-219.

生態系解析部門

- 1) 鈴木 聰: 特許第4292271号, ウイルス捕捉用フィルタおよびその保存方法, 平成21年4月17日.
- 2) 奥田 昇・柴田淳也: 湖沼水系における仔稚魚の資源利用と生育地好適性の評価, 平成20年度 地球環境保全

等試験研究費報告書「在来淡水魚の為の生息地ネットワーク形成技術に関する研究」 p. 11-14

4. 6 学会発表等

環境動態解析部門

- 1) Ono, J., Takahashi, D., Guo, X., Takahashi, S., and Takeoka, H.: Development of a three-dimensional model of persistent organic pollutant in the East China Sea. The 2nd Joint Forum of Environmental Sciences 2009, Yeosu, Korea, July, Abstracts, 15-16.
- 2) Guo, X.: Tracer experiments on Kuroshio subsurface water intrusion onto the shelf of East China Sea. MOCA-09, Montréal, Canada, July, Program, P09.16.
- 3) Guo, X. and Zhao, L.: Simulation of seasonal variations of Chlorophyll in the Yellow and East China Seas. MOCA-09, Montréal, Canada, July, Program, P09.14.
- 4) Guo, X., Ono, J., Takahashi, D., Takahashi, S. and Takeoka, H.: Transport of atmospheric Persistent Organic Pollutants (POPs) in the East China Sea, International workshop on Trans-boundary Environmental Problems in East Asia, Fukuoka, Japan, October, Proceeding, 21-24.
- 5) Zhao, L. and Guo, X.: The influence of the Changjiang on the low-trophic ecosystem in the East China Sea, International workshop on Trans-boundary Environmental Problems in East Asia, Fukuoka, Japan, October, Proceeding, 25-28.
- 6) 郭 新宇・藤井直紀・小森田智大・吉江直樹・武岡英隆：2009年の伊予灘・豊後水道の観測結果I：水塊構造，九州大学応用力学研究所共同研究集会「沿岸海域の物質循環と環境保全」，福岡，2009年12月，口頭。
- 7) 小森田智大・郭 新宇・藤井直紀・吉江直樹・武岡英隆：2009年の伊予灘・豊後水道の観測結果II：栄養塩動態，九州大学応用力学研究所共同研究集会「沿岸海域の物質循環と環境保全」，福岡，2009年12月，口頭。
- 8) 吉江直樹・藤井直紀・小森田智大・郭 新宇・武岡英隆：2009年の伊予灘・豊後水道の観測結果III：植物プランクトン，九州大学応用力学研究所共同研究集会「沿岸海域の物質循環と環境保全」，福岡，2009年12月，口頭。
- 9) 藤井直紀・郭 新宇・小森田智大・吉江直樹・武岡英隆：2009年の伊予灘・豊後水道の観測結果IV：動物プランクトン，九州大学応用力学研究所共同研究集会「沿岸海域の物質循環と環境保全」，福岡，2009年12月，口頭。
- 10) Sumata, H., T. Hashioka, M. Aita, N. Yoshie, T. Suzuki, T. T. Sakamoto, N. Okada, and Y. Yamanaka : Effects of eddy transport on the nutrient supply into the euphotic zone simulated in an ocean ecosystem model, PICES 2009 annual Meeting, Jeju, Korea, Oct., 2009, oral.
- 11) Yamanaka, Y., S. L. Smith, H. Sumata, N. Yoshie, T. Hashioka, T. Okunishi, M. Shigemitsu, M. N. Noguchi, and N. Okada : New NEMURO-based model incorporating the iron cycle, PICES 2009 annual Meeting, Jeju, Korea, Oct., 2009, oral, invited.
- 12) Yoshie, N., S. Ito, K. Komatsu, T. Kameda, T. Ono, K. Hidaka, T. Hasegawa, A. Kuwata, M. Nakamachi, Y. Okazaki, T. Okunishi, K. Tadokoro, H. Saito and Y. Yamanaka : Structure and dynamics of marine ecosystem in the 5 regions around Japan simulated by a marine ecosystem model, PICES 18th Annual Meeting, Jeju, Korea, Oct., 2009, oral, invited.
- 13) 奥西 武・吉江直樹・須股 浩・重光雅仁・橋岡豪人・山中康裕・伊藤進一：複数観測地点データを用いた低次生態系モデルの最適パラメータ推定，2009年度日本海洋学会秋季大会，京都，2009年9月，口頭。
- 14) 須股 浩・橋岡豪人・岡田直資・相田真希・吉江直樹・坂本天・鈴木立郎・山中康裕：海洋表層の栄養塩収支に対する渦輸送の効果，2009年度日本海洋学会秋季大会，京都，2009年9月，口頭。
- 15) 吉江直樹・郭 新宇・武岡英隆：瀬戸内海3次元生態系モデル開発に向けて，水産総合研究センター共同セミナー「瀬戸内海高解像度3次元物理モデル，ならびにそれを用いた生態系影響リスク評価」，広島，2009年7月，招待講演。
- 16) Yoshie, N., K. Komatsu, S. Ito, T. Kameda, T. Ono, K. Hidaka, T. Hasegawa, A. Kuwata, M. Nakamachi, Y. Okazaki, T. Okunishi, K. Tadokoro, H. Saito and Y. Yamanaka : Dynamics of lower-trophic-level ecosystems in five ecological regions in the western North Pacific simulated by an ecosystem model eNEMURO, 3rd GLOBEC Ocean Science Meeting, Victoria, Canada, Jun., 2009, oral.

- 17) Sumata, H., T. Hashioka, N. Okada, M. Aita, N. Yoshie, T. Sakamoto, T. Suzuki, and Y. Yamanaka : Eddy Permitting Simulations of 3D-NEMURO in the Global Ocean, 3rd GLOBEC Ocean Science Meeting, Victoria, Canada, Jun., 2009, oral.
- 18) Okunishi, T., S. Ito, N. Yoshie, Y. Yamanaka, H. Sumata, Y. Yara, T. Hashioka, and T. Sakamoto: Impacts of climate change on growth and migration of Japanese sardine (*Sardinops melanostictus*) in the western North Pacific, 3rd GLOBEC Ocean Science Meeting, Victoria, Canada, Jun., 2009, poster.
- 19) Yoshie, N.: NEMURO' s excursion to the Seto Inland Sea, 15th Interim Ehime University Global COE sub-theme II Meeting, Matsuyama, May, 2009, Oral.
- 20) 吉江直樹・伊藤進一・小松幸生・奥西 武・小埜恒夫・田所和明・日高清隆・長谷川徹・齊藤宏明・山中康裕：生態系モデルeNEMUROによる日本周辺五海域の低次生態系群集構造の再現，2009年度日本海洋学会春季大会，東京，2009年4月，口頭。
- 21) 奥西 武・伊藤進一・吉江直樹・山中康裕・須股 浩・谷良由美子・橋岡豪人・坂本天：海洋生態系水産資源モデルによる地球温暖化の影響予測，2009年度日本海洋学会春季大会，東京，2009年4月，ポスター。
- 22) 須股 浩・橋岡豪人・岡田直資・相田真希・吉江直樹・坂本 天・鈴木立郎・山中康裕：渦許容全球海洋モデルによる低次生態系の経年変動実験，2009年度日本海洋学会春季大会，東京，2009年4月，口頭。
- 23) Saito, M. and Onodera, S.: The process and potential of nitrate attenuation in the aquifers with different scale of flow system, H31C-0796, AGU Fall meeting, San Francisco, December.
- 24) 斎藤光代・小野寺真一・郭新宇・加藤愛彬・清水裕太・徳増実：ラドン (^{222}Rn) トレーサー法による閉鎖性浅海域における深層地下水流动成分を考慮した地下水流出の定量的評価，2009年度日本水文科学会学術大会，14, 熊本大学，10月。
- 25) 斎藤光代・郭 新宇・西原一紀・藤井直紀・大沢信二・武岡英隆：別府湾における成層期の栄養塩空間分布特性，2009年度日本海洋学会秋季大会，P41, 京都大学，9月。
- 26) 斎藤光代・小野寺真一・谷口真人・徳増実：愛媛県西条市から燧灘への地下水湧出量の推定，瀬戸内海研究フォーラム in 大阪，28, 大阪ワールドトレードセンター，9月。
- 27) 斎藤光代・小野寺真一・白石通弘・清水裕太・加藤愛彬・徳増実：愛媛県伊予西条市における湧水と人との関わり—親水・利水・保全の観点からー，瀬戸内海研究フォーラム in 大阪，9, 大阪ワールドトレードセンター，9月。
- 28) 斎藤光代・郭 新宇・藤井直紀・大沢信二・大森浩二・武岡英隆：別府湾の環境に及ぼす陸域由来栄養塩負荷の影響，地球惑星科学連合大会，H211-P006, 幕張メッセ，5月。
- 29) 斎藤光代・小野寺真一・清水裕太・高橋英博・吉川省子：香川県丸亀平野における地下水流动および水質分布特性，地球惑星科学連合大会，H211-P005, 幕張メッセ，5月。
- 30) Ono, J., Takahashi, D., Guo, X., Takahashi, S. and Takeoka, H.: Development of a mathematical model for 3D-dynamics of persistent organic pollutant in the East China Sea, 29th International Symposium on Halogenated Persistent Organic Pollutants, Beijing, China, August, 2009.
- 31) 小野 純・高橋大介・郭 新宇・高橋 真・武岡英隆：東シナ海における残留性有機汚染物質の三次元輸送モデルの開発. 2009年度日本海洋学会秋季大会，京都大学，9月，2009年。
- 32) Ono, J., Takahashi, D., Guo, X., Takahashi, S. and Takeoka, H.: Development of a mathematical model for 3D-dynamics of persistent organic pollutants in the East China Sea, 18th Symposium on Environmental Chemistry, Tsukuba, Japan, June, 2009.
- 33) Tsugeki N. K., Urabe J., Hayami Y., Kuwae M., Nakanishi M.: Phytoplankton dynamics in Lake Biwa during the 20th century : Complex responses to changes in nutrient status and climate variation. American Society of Limnology and Oceanography, Nice, France, January.
- 34) 梶木玲美・王 婉琳・谷 幸則・小田寛貴・松田智之・占部城太：湖沼堆積物に記録された *Daphnia* の柔軟な生活史変化：八幡平湖沼と琵琶湖の例，第56回日本生態学会大会，盛岡，3月。
- 35) 王 婉琳・梶木玲美・谷 幸則・小田寛貴・松田智之・占部城太郎：八幡平湖沼の動植物プランクトンの長期動態：高山湖沼で何が起きているか？，第56回日本生態学会大会，盛岡，3月。
- 36) 粟野 将・梶木玲美・牧野 渡・松島野枝・河田雅圭・小田寛貴・占部城太郎：山形県畠谷大沼における *Daphnia* 複数種の長期変化：Hybrid はいつから形成されたか？，日本生態学会第56回大会，盛岡，月。
- 37) 梶木玲美・占部城太郎・速水祐一・加三千宣・中西正巳：琵琶湖の過去100年にわたる植物プランクトン動

- 態，日本第四紀学会2009年大会，草津，8月。
- 38) 加三千宣・武岡英隆・杉本隆成：別府湾海底堆積物から見た過去1500年間のカタクチイワシ・マイワシ資源変動記録，2009年度古海洋シンポジウム，東京，1月。
- 39) 鶴岡賢太朗・佐川拓也・加三千宣・武岡英隆・飯島耕一・坂本竜彦・池原実・村山雅史：下北半島沖堆積物記録からみる完新世の海洋環境変遷，東京，1月。
- 40) 佐川拓也・村山雅史・池原実・岡村慶・大場忠道：西部北太平洋における最終氷期以降の鉛直水塊構造復元，2008年度古海洋シンポジウム，東京大学海洋研究所，2009年1月8-9日，P11。
- 41) 佐川拓也・横山祐典・池原実・大場忠道：西赤道太平洋暖水塊の最終氷期最寒期における表層低塩分化，地球惑星科学連合2009年大会，千葉市，5月，予稿集L136-016。
- 42) 泉谷直希・佐川拓也・村山雅史・朝日博史・北里洋・中村恭之・白井正明・芦寿一郎・徳山英一：東地中海から発見された高塩水湖（Meedee lake）の堆積古環境，地球惑星科学連合2009年大会，千葉市，5月，予稿集L135-012。
- 43) 守屋和佳・加三千宣・山本正伸・國弘忠生・斎藤光代・佐川拓也・大西秀次郎・大森浩二・武岡英隆：別府湾における無酸素水塊の発達と消失；瀬戸内海の海水温長期変化の解明に向けて，古生物学会2009年年会，千葉市，6月，B29。
- 44) 多田圭吾・入野智久・北村晃寿・池原研・佐川拓也：二枚貝 *Patinopecten yessoensis* の地球化学的解析に基づく最終氷期のに日本海の表層水温・塩分の復元，古生物学会2009年年会，千葉市，6月，B10。
- 45) 泉谷直希・村山雅史・佐川拓也・朝日博史・中村恭之・白井正明・芦寿一郎・徳山英一・北里洋：東地中海の高塩水湖（Meedee Lake）の堆積古環境，日本地質学会第116年学術大会，岡山市，9月，P-39。
- 46) Isobe, A : Behavior of Changjiang Diluted Water as a passive tracer on the East China Sea shelf, PAMS, Busan, Apr., 15th PAMS Proc., 83.
- 47) Kako, S. : Shelf circulation and its related drifting-object transport in the East China Sea, PAMS, Busan, Apr., 15th PAMS Proc., 93.
- 48) Sugimatsu, K., A. Isobe : Advection process and its decadal variability of bottom cold water in Osaka Bay, Japan, PAMS, Busan, Apr., 15th PAMS Proc., 169.
- 49) 磯辺篤彦・日向博文・加古真一郎・吉岡俊：風洞水槽実験に基づく漂流物の風圧流速の定式化，日本海洋学会春季大会，東京，4月，講演要旨集，108。
- 50) 加古真一郎・磯辺篤彦：海洋数値モデルによるゴミ発生源の特定と漂着予報，日本海洋学会春季大会，東京，4月，講演要旨集，109。
- 51) 清野聰子・小島あづさ・由比良雄・大我かおり・磯辺篤彦：福江島沿岸における海流・季節風に関する地域知と海岸漂着ペットボトルの起因地構成の分布，日本海洋学会春季大会，東京，4月，講演要旨集，110。
- 52) 杉松宏一・磯辺篤彦：大阪湾低層への冷却塊の侵入過程と経年変動要因，日本海洋学会春季大会，東京，4月，講演要旨集，126。
- 53) 磯辺篤彦・郭新宇・武岡英隆：豊後水道における急潮予報の可能性，日本海洋学会秋季大会，京都，9月，講演要旨集，28。
- 54) 杉松宏一・磯辺篤彦：大阪湾低層へ侵入する冷水塊流量の定量評価，日本海洋学会秋季大会，京都，9月，講演要旨集，95。
- 55) 加古真一郎・馬込伸哉・磯辺篤彦：海洋数値モデルによる漂着ゴミ予報実験とその精度検証，日本海洋学会秋季大会，9月，講演要旨集，105。
- 56) Kako, S. and M, Kubota: Variability of mixed layer depth in Kuroshio/Oyashio Extension region: 2005-2006. Western Boundary Current Ocean-Atmosphere Interaction Workshop, Phoenix, AZ, USA, January 15-17.
- 57) 張光玄・濱野寛文・藤井直紀・中野伸一・西部裕一郎・土居秀幸・郭新宇・武岡英隆・磯辺篤彦：(2009)沿岸プランクトン群集に及ぼす急潮の影響，日本ベントス学会・日本プランクトン学会合同会，北海道大学，10月1日-18日，函館（ポスター）
- 58) Handoh, I. C., Kawai, T., and Takahashi, S. Interannual variability of the PCBs concentrations in 100-year simulation of the Finely-Advanced Transboundary Environmental model (FATE). 第18回環境化学討論会，つくば市，6月。
- 59) 河合徹，半藤逸樹，高橋真。全球多媒体モデル FATE を用いた残留性有機汚染物質の長期動態予測，第18回環境化学討論会，つくば市，6月。
- 60) 河合徹，半藤逸樹。残留性有機汚染物質の動態を予測する全球多媒体モデルの構築と検証。日本海洋学会春

季大会. 東京都, 4月.

- 61) 瀬戸繩美, 半藤逸樹. 植物プランクトンにおける残留性有機汚染物質の生物濃縮に見られる非線形性. 第19回日本数理生物学会年会. 東京都, 9月.

化学汚染・毒性解析部門

- 1) Lee, J. S., Kim, E. Y. and Iwata, H.: Functional analysis of the aryl hydrocarbon receptor repressor from chicken, 15th International Symposium on Pollutant Responses in Marine Organisms, Bordeaux, France, May, Abstract Book 35.
- 2) Thuruthippallil, L. M., Kim, E. Y. and Iwata, H.: CYP1A transactivation potencies of aryl hydrocarbon receptor 1 and 2 (AHR1 and AHR2) from black-footed albatross by dioxin-like congeners, 15th International Symposium on Pollutant Responses in Marine Organisms, Bordeaux, France, May, Abstract Book 284.
- 3) Yamaguchi, K., Kim, E. Y. and Iwata, H.: Catalytic function of in vitro-expressed Baikal seal CYP1A1, 15th International Symposium on Pollutant Responses in Marine Organisms, Bordeaux, France, May, Abstract Book 285.
- 4) Lee, J. S., Kim, E. Y. and Iwata, H.: Functional analysis of the aryl hydrocarbon receptor repressor from chicken, The 66th Korean Society for Biochemistry and Molecular Biology (KSBMB) Annual Meeting 2009, Seoul, Korea, May, Abstract Book 234.
- 5) Lee, J. S., Kim, E. Y. and Iwata, H.: Dioxin activation of CYP1A5 promoter/enhancer regions from two avian species, common cormorant (*Phalacrocorax carbo*) and chicken (*Gallus gallus*): association with aryl hydrocarbon receptor 1 and 2 isoforms, The 66th Korean Society for Biochemistry and Molecular Biology (KSBMB) Annual Meeting 2009, Seoul, Korea, May, Abstract Book 234.
- 6) Iwata, H and Kim, E. Y.: Disruption of aryl hydrocarbon receptor-cytochrome P450 1A signaling pathway by dioxin-like chemicals in wildlife, BIOLOGICAL RESPONSES TO CHEMICAL CONTAMINANTS : from molecular to community level Interdisciplinary Symposium for Young Investigators, Aveiro, Portugal, September, Abstract Book 27. (招待講演)
- 7) Agusa, T., Iwata, H., Fujihara, J., Kunito, T., Takeshita, H., Minh, T. B., Kim, P. T., Viet, P. H. and Tanabe, S.: Interindividual variation in arsenic metabolism in a Vietnamese population: association with single nucleotide polymorphisms in AS3MT, BIOLOGICAL RESPONSES TO CHEMICAL CONTAMINANTS : from molecular to community level Interdisciplinary Symposium for Young Investigators, Aveiro, Portugal, September, Abstract Book 30.
- 8) Iwata, H and Kim, E. Y.: Characterization of aryl hydrocarbon receptor-cytochrome P450 1A signaling pathway in wildlife, International Symposium on the Biomonitoring and Biomarker of Endocrine Disrupting chemicals (EDCs) in Coastal and Marine Environment, Busan, Korea, September, Abstract Book 105. (招待講演)
- 9) Kim, E. Y., Lee, J. S., Inoue, N., Yasui, T. and Iwata, H.: Functional characterization of AHR isoforms, AHR1, AHR2 and AHRR in avian species, 21st Century Advances in the Molecular Toxicology of Environmental Chemicals and Pathogenesis of Disease, Tokyo, Japan, October, Abstract 160.
- 10) Iwata, H., Nagahama, N., Watanabe, M. and Kim, E. Y.: Quantitative analyses of AHR-CYP1A signaling in avian developing embryos, 21st Century Advances in the Molecular Toxicology of Environmental Chemicals and Pathogenesis of Disease, Tokyo, Japan, October, Abstract 161.
- 11) Hirano, M., Ishibashi, H., Yamauchi, R., Kim, J. W. and Arizono, K.: Characterization of ecdysone receptor and ultraspiracle mRNA through molting period in mysid crustacean, 21st Century Advances in the Molecular Toxicology of Environmental Chemicals and Pathogenesis of Disease, Tokyo, Japan, October, Abstract 171.
- 12) Ishibashi, H., Yamauchi, R., Kim, J. W., Hirano, M., Mori, T., Tominaga, , N. and Arizono, K.: Transcriptional modulation of estrogen-responsive genes in male medaka (*Oryzias latipes*) after exposure to synthetic polycyclic musks, 21st Century Advances in the Molecular Toxicology of Environmental Chemicals and Pathogenesis of Disease, Tokyo, Japan, October, Abstract 171.
- 13) Fujisawa, N., Tanaka, K., Yamamoto, H., Ikenaka, Y., Kim, E. Y., Lee, J. S., Iwata, H. and Ishizuka, M.: Characterization of aryl hydrocarbon receptor in avian species, 21st Century Advances in the Molecular Toxicology of Environmental Chemicals and Pathogenesis of Disease, Tokyo, Japan, October, Abstract 177.
- 14) Thuruthippallil L. M., Kim, E. Y. and Iwata, H.: Risk Assessment of dioxins in the North Pacific black-footed albatross based on CYP1A transactivation potencies of the aryl hydrocarbon receptor 1 and 2 (AhR1 and AhR2), Inter-

- national Symposium on Environmental Specimen Bank, Exploring Possibility of Setting-up ESBs in Developing Countries, Matsuyama, Japan, December, Abstract Book 23.
- 15) Agusa, T., Iwata, H., Fujihara, J., Kunito, T., Takeshita, H., Minh, T. B., Trang, P. T. K., Viet, P. H. and Tanabe, S.: Association of inorganic arsenic metabolism with genetic polymorphisms of GST isoforms in North Vietnamese populations : Utilization of stored samples in the environmental specimen bank of Ehime University, International Symposium on Environmental Specimen Bank, Exploring Possibility of Setting-up ESBs in Developing Countries, Matsuyama, Japan, December, Abstract Book 47.
 - 16) Akizuki, M., Nakayama, K. and Kitamura, S. I.: Dual stressor of nodavirus infection and tributyltin exposure leads to high mortality in medaka *Oryzias latipes* larvae. International Symposium on Environmental Specimen Bank - Exploring Possibility of Setting-up ESBs in Developing Countries, Matsuyama, Japan, December, Abstract Book, 62.
 - 17) Yamaguchi, K., Kim, E. Y. and Iwata, H.: Functional characterization of *in vitro* - expressed cytochrome P450 1A1, 1A2, and 1B1 from Baikal seal (*Pusa sibirica*), International Symposium on Environmental Specimen Bank, Exploring Possibility of Setting-up ESBs in Developing Countries, Matsuyama, Japan, December, Abstract Book 65.
 - 18) Suzuki, K. and Iwata, H.: Identification and characterization of cytochrome P450 and xenobiotics receptor genes in amphibians, *Xenopus laevis* and *Xenopus tropicalis*, International Symposium on Environmental Specimen Bank, Exploring Possibility of Setting-up ESBs in Developing Countries, Matsuyama, Japan, December, Abstract Book 66.
 - 19) Dau, P. T., Ishibashi, H., Kim, E. Y. and Iwata H.: A preliminary study on chemical ligand screening of the constitutive androstane receptor (CAR) using a surface plasmon resonance array system, International Symposium on Environmental Specimen Bank, Exploring Possibility of Setting-up ESBs in Developing Countries, Matsuyama, Japan, December, Abstract Book 67.
 - 20) Iwata, H., Nagahama, N., Watanabe, M. and Kim, E. Y.: Quantitative assessment of the AHR-CYP1A signaling cascade in TCDD-treated avian embryos, International Symposium on Environmental Specimen Bank, Exploring Possibility of Setting-up ESBs in Developing Countries, Matsuyama, Japan, December, Abstract Book 68.
 - 21) Iida, M., Kim, E. Y., Murakami, Y., Shima, Y. and Iwata, H.: Effects of 2,3,7,8-tetrachlorodibenzo-p-dioxin on peripheral nervous system in developing red seabream (*Pugrus major*) embryos, International Symposium on Environmental Specimen Bank, Exploring Possibility of Setting-up ESBs in Developing Countries, Matsuyama, Japan, December, Abstract Book 69.
 - 22) Hirano, M., Ishibashi, H., Kim, E. Y., Arizono, K. and Iwata, H.: Molecular cloning of the ecdysone receptor from a mysid crustacean (*Americamysis bahia*) and development of an *in vitro* reporter gene assay to detect the receptor-mediated responses by chemicals, International Symposium on Environmental Specimen Bank, Exploring Possibility of Setting-up ESBs in Developing Countries, Matsuyama, Japan, December, Abstract Book 70.
 - 23) Watanabe, X., M., Kunisue, T., Tao, L., Kannan, K., Subramanian, A., Tanabe, S. and Iwata, H.: Effects of dioxin-like and perfluorinated compounds on hepatic cytochrome P450 and plasma hormones in pigs from an Indian open waste dumping site, International Symposium on Environmental Specimen Bank, Exploring Possibility of Setting-up ESBs in Developing Countries, Matsuyama, Japan, December, Abstract Book 71.
 - 24) Nomaru, K., Kim, E. Y., Inoue, N., Yasui, T. And Iwata, H.: Intracellular localization of the AHR2 isoform from avian species, International Symposium on Environmental Specimen Bank, Exploring Possibility of Setting-up ESBs in Developing Countries, Matsuyama, Japan, December, Abstract Book 72.
 - 25) Ishibashi, H., Kim, E. Y., Tanabe, S. and Iwata, H.: Molecular characterization of peroxisome proliferator-activated receptor isoforms from the Baikal seal (*Pusa sibirica*), International Symposium on Environmental Specimen Bank, Exploring Possibility of Setting-up ESBs in Developing Countries, Matsuyama, Japan, December, Abstract Book 73.
 - 26) Nakayama, K., Ogawa, J., Nakahara, A., Tokunaga, T., Yamamoto, A., Murata, K. T. and Tanabe, S.: New features of the database of archived environmental specimens at es-BANK, Ehime University. International Symposium on Environmental Specimen Bank - Exploring Possibility of Setting-up ESBs in Developing Countries, Matsuyama, Japan, December, Abstract Book, 74.
 - 27) 阿草哲郎・岩田久人・藤原純子・國頭 恭・Minh, T. B.・Kim Trang, P. T.・Viet, P. H.・竹下治男・田辺信介：ベトナム人のヒ素曝露とその代謝遺伝子多型, 第18回環境化学討論会, つくば市, 6月, 講演要旨集 222-223.

- 28) 阿草哲郎・岩田久人・藤原純子・國頭 恭・Minh, T. B.・Kim Trang, P. T.・Viet, P. H.・竹下治男・田辺信介：ベトナム人のヒ素曝露とその代謝遺伝子多型，第18回環境化学討論会，つくば市，6月，講演要旨集 222-223.
- 29) 橋川亮輔・矢野真一・磯部友彦・国末達也・仲山 慶・須藤明子・高橋 真・田辺信介：有機ハロゲン化合物によるカワウの汚染実態：経年変動，地域差，母卵間移行，第18回環境化学討論会，つくば市，6月，講演要旨集522-523.
- 30) 石橋弘志・山元涼子・井口綾子・有菌幸司：線虫をモデルとした食品成分の安全性評価，生物化学的測定研究会第14回（2009年）学術集会，大阪，6月，講演要旨集，21-34.
- 31) 井口綾子・内匠正太・山元涼子・石橋弘志・富永伸明・有菌幸司（2009）：線虫 DNA マイクロアレイによるリチウムの影響評価，第36回日本トキシコロジー学会学術年会，岩手，7月，要旨集 S95.
- 32) 山内良子・石橋弘志・平野将司・金 俊佑・高尾雄二・有菌幸司：有機フッ素化合物によるヒメダカ肝臓中 CYP3As 発現誘導，第36回日本トキシコロジー学会学術年会，7月，岩手，要旨集 S165.
- 33) 阿草哲郎・岩田久人・藤原純子・國頭 恭・竹下治男・Minh, T. B.・Kim Trang, P. T.・Viet, P. H.：ベトナム人における GST スーパーファミリーの遺伝子多型と尿中ヒ素化合物プロファイルの関係，第20回日本微量元素学会学術集会，東京，7月，プログラム抄録集163.
- 34) 金 俊佑・金 鍾九・張 曉相・石橋弘志・平野将司・奈須一晃・高尾雄二・有菌幸司（2009）：水環境中の医薬品・生活関連物質（PPCPs）の挙動及び生態影響評価，第12回日本水環境学会シンポジウム，東京，9月，講演要旨集203.
- 35) 入江浩大・仲山 慶・川口将史・野見山桂・北村真一・村上安則：水酸化 PCB 暴露による硬骨魚類の初期発生への影響，日本環境毒性学会・バイオアッセイ研究会合同研究発表会，東京都，10月，講演要旨集，15-16.
- 36) 宋 準榮・仲山 慶・村上安則・北村真一・宇野誠一・小山次郎：重油暴露が魚類ウイルス性疾病の発生に与える影響，日本環境毒性学会・バイオアッセイ研究会合同研究発表会，東京都，10月，講演要旨集，18-19.
- 37) 内田雅也・石橋弘志・平野将司・金 俊佑・富永伸明・山内良子・有菌幸司：メダカ DNA マイクロアレイを用いたエストロゲン様物質により変動する遺伝子群の網羅的解析，第15回日本環境毒性学会・バイオアッセイ研究会合同研究発表会，東京，10月，要旨集20-21.
- 38) 姜 益俊・諸石淳也・大嶋雄治・仲山 慶・板井啓明・金 相均・中村あゆみ：淡水二枚貝の貝殻開閉運動を用いた水質モニタリング，第15回日本環境毒性学会・バイオアッセイ研究会合同研究発表会，10月，講演要旨集69.
- 39) 諸石淳也・姜 益俊・島崎洋平・仲山 慶・板井啓明・本城凡夫・大嶋雄治：イシガイ (*Unio douglasiae*) の貝殻開閉運動を用いた水質モニタリング，平成21年度日本水産学会秋季大会，盛岡，10月，講演要旨集63.
- 40) 山元涼子・井口綾子・内匠正太・上田清佳・石橋弘志・富永伸明・有菌幸司：線虫 *C. elegans* を用いた食品中機能性成分の抗酸化作用評価，フォーラム2009衛生薬学・環境トキシコロジー，沖縄，11月，要旨251.
- 41) 山口明美・石橋弘志・高良真也・有園幸司・加藤恵介・中浜隆之・菅野雄一朗・井上義雄・富永伸明：ERα/ERβ選択性リガンドを用いたメダカ *vtg 1/2* の発現誘導解析，フォーラム2009衛生薬学・環境トキシコロジー，沖縄，11月，要旨310.
- 42) 岩田久人・金 恩英：環境汚染物質による野生生物のリスクを評価するための科学的方法，日本環境変異原学会第38回大会，静岡，11月，要旨集82. (招待講演)
- 43) 阿草哲郎・岩田久人・藤原純子・國頭 恭・Minh, T. B.・Kim Trang, P. T.・Viet, P. H.・竹下治男・田辺信介：ベトナムのヒ素汚染地域住民における AS3MT 遺伝子多型とヒ素代謝の関係，第15回ヒ素シンポジウム，大阪，11月，要旨集52.
- 44) 阿草哲郎・岩田久人・藤原純子・國頭 恭・Minh, T. B.・Kim Trang, P. T.・Viet, P. H.・竹下治男・田辺信介：ベトナムにおける AS3MT 遺伝子多型とヒ素代謝能の関係，日本DNA多型学会第18回学術集会，久留米市，11月，要旨集29.
- 45) Thuruthippallil, L. M., Kim, E. Y. and Iwata, H.: CYP1A transactivation potencies of the black-footed albatross AhR1 and AhR2 by dioxins and risk assessment in the North Pacific population，第12回日本内分泌搅乱化学物質学会，東京，12月，要旨集42.
- 46) Yamaguchi, K., Kim, E. Y., Kubota, A. and Iwata, H.: Functional characterization of cytochrome P450 1A1, 1A2 and 1B1 from the Baikal seal (*Pusa sibirica*) heterologously expressed in yeast cells，第12回日本内分泌搅乱化学物質学会，東京，12月，要旨集43.

- 47) Nomaru, K., Kim, E. Y., Inoue, N., Yasui, T. and Iwata, H.: Cellular localization of the AHR isoforms (AHR1 and AHR2) from avian species, 第12回日本内分泌搅乱化学物質学会, 東京, 12月, 要旨集121.
- 48) 岩渕康平・金恩英・李鎮善・安井知子・岩田久人: ニワトリ新規 AHR1アイソフォーム (2nd AHR1) の機能解析, 第12回日本内分泌搅乱化学物質学会, 東京, 12月, 要旨集122.
- 49) Iwata, H., Nagahama, N., Watanabe, X. M. and Kim, E. Y.: Effects of TCDD on the AHR-CYP1A signaling cascade in avian developing embryos, 第12回日本内分泌搅乱化学物質学会, 東京, 12月, 要旨集126.
- 50) Ishibashi, H., Kim, E. Y., Tanabe, S. and Iwata, H.: Molecular characterization of peroxisome proliferators-activated receptor β/δ from the Baikal seal (*Pusa sibirica*), 第12回日本内分泌搅乱化学物質学会, 東京, 12月, 要旨集127.
- 51) Hirano, M., Ishibashi, H., Kim, E. Y., Arizono, K. and Iwata, H.: Development of an *in vitro* reporter gene assay for screening the ecdysone receptor agonists in mysid crustacean, *Americamysis bahia*, 第12回日本内分泌搅乱化学物質学会, 東京, 12月, 要旨集128.
- 52) Iida, M., Kim, E. Y., Murakami, Y., Shima, Y. and Iwata, H.: Morphological changes in peripheral nervous system by TCDD in developing red seabream (*Pagrus major*) embryos, 第12回日本内分泌搅乱化学物質学会, 東京, 12月, 要旨集137.
- 53) Suzuki, K. and Iwata, H.: Identification and expression profile of CYP1-4 genes in *Xenopus laevis*, 第12回日本内分泌搅乱化学物質学会, 東京, 12月, 要旨集151.
- 54) 竹元 望・石橋弘志・平野将司・金 俊佑・山内良子・孫 琢富・内田雅也・有菌幸司: 環境化学物質に曝露したメダカにおける DNA マイクロアレイを用いた遺伝子発現解析 -第1報-, 第12回日本内分泌搅乱化学物質学会, 東京, 12月, 要旨集166.
- 55) 山内良子・石橋弘志・内田雅也・孫 琢富・竹元 望・竹本直道・金 俊佑・平野将司・有菌幸司: メダカ繁殖試験によるフッ素テロマーアルコールの影響評価, 第12回日本内分泌搅乱化学物質学会, 東京, 12月, 要旨集167.
- 56) 寺岡宏樹・池田晴喜・伊藤知子・鵜飼典佳・白石順也・金 恩英・岩田久人・遠藤大二・平賀武夫: 半網羅的ディファレンシャル・ディスプレイ法システムの構築, 第32回日本分子生物学会年会, 横浜, 12月, プログラム318.
- 57) 田辺信介・高橋 真・磯部友彦: 生物環境試料バンクを活用した有機臭素系難燃剤のグローカル汚染研究, 環境省廃棄物科学研究費「家庭系廃製品の残留性化学物質と3Rシナリオ解析」に関する平成20年度研究会議, 京都市, 1月.
- 58) 高橋 真・田辺信介: インドおよびベトナムの電子・電気機器廃棄物 (e-waste) 処理現場における残留性有害物質の人体曝露と環境汚染, 環境省廃棄物科学研究費「家庭系廃製品の残留性化学物質と3Rシナリオ解析」に関する平成20年度研究会議, 京都市, 1月.
- 59) 田辺信介: 愛媛大学グローバルCOEプログラム「化学物質の環境科学教育研究拠点」, 文部科学省平成20年度大学教育改革プログラム合同フォーラム, 横浜市, 1月, 予稿集, 220-224.
- 60) Tanabe, S. and Takahashi, S.: Persistent organic pollutants in Asian countries: legacy and emerging issues. 2nd International Workshop on Reduction of Unintentional POPs in East Asian Countries, Tokyo, Japan, March, Programs, 1-16.
- 61) 田辺信介: 生物環境試料バンクを活用した有機臭素系難燃剤のグローカル汚染研究. 平成20年度グローバルCOEプログラム研究成果報告会, 松山市, 3月, 要旨集, 7.
- 62) 高菅卓三: GC-HRTOFMSによる海棲哺乳類の微量有機ハロゲン化合物のスクリーニング分析. 平成20年度グローバルCOEプログラム研究成果報告会, 松山市, 3月, 要旨集, 8.
- 63) 高橋 真: 残留性有害物質の発生源とゆくえに関する国際的・学際的研究の進捗. 平成20年度グローバルCOEプログラム研究成果報告会, 松山市, 3月, 要旨集, 9.
- 64) Ilyas, M.: Contamination by Brominated Flame Retardants (BFRs) in Surface Sediments from Coastal Waters of Surabaya: Levels, Distribution and Profile. 平成20年度グローバルCOEプログラム研究成果報告会, 松山市, 3月, 要旨集, 10.
- 65) Nguyen, M. T.: Human Exposure to Brominated Flame Retardants in Vietnamese E-waste Recycling sites. 平成20年度グローバルCOEプログラム研究成果報告会, 松山市, 3月, 要旨集, 11.
- 66) 今枝大輔: バイカルアザラシ血液中のPCBsおよび水酸化PCBsの蓄積特性とリスク評価. 平成20年度グロ-

- バル COE プログラム研究成果報告会, 松山市, 3月, 要旨集, 12.
- 67) 染矢雅之: アジア沿岸域における有機ハロゲン化合物の汚染. 平成20年度グローバル COE プログラム研究成果報告会, 松山市, 3月, 要旨集, 13.
- 68) Malarvannan, G.: Contamination by Organohalogen Compounds in the Philippine Environment. 平成20年度グローバル COE プログラム研究成果報告会, 松山市, 3月, 要旨集, 14.
- 69) 野見山 桂: 鯨類およびヒト血中水酸化 PCBs (OH-PCBs) の蓄積特性. 平成20年度グローバル COE プログラム研究成果報告会, 松山市, 3月, 要旨集, 15.
- 70) Ramu, K.: Electronic Waste Recycling Sites as Sources of Persistent Toxic Substances : A case Study from India. 平成20年度グローバル COE プログラム研究成果報告会, 松山市, 3月, 要旨集, 16.
- 71) Nguyen, N. H.: Soil Contamination by Trace Elements in E-waste Recycling Sites in Bangalore, India. 平成20年度グローバル COE プログラム研究成果報告会, 松山市, 3月, 要旨集, 17.
- 72) 宇高真行: バイカルアザラシ (*Pusa sibirica*) における放射性核種および微量元素の蓄積特性. 平成20年度グローバル COE プログラム研究成果報告会, 松山市, 3月, 要旨集, 18.
- 73) 宝来佐和子: 北太平洋沿岸生態系における微量元素の動態解明. 平成20年度グローバル COE プログラム研究成果報告会, 松山市, 3月, 要旨集, 19.
- 74) 鈴木 剛: 野生高等動物に蓄積する潜在的有害物質の検索と毒性同定評価. 平成20年度グローバル COE プログラム研究成果報告会, 松山市, 3月, 要旨集, 20.
- 75) Subramanian A.: Recent Pollution Studies in India on Organohalogens, Heavy Metals and Perchlorates. 平成20年度グローバル COE プログラム研究成果報告会, 松山市, 3月, 要旨集, 21.
- 76) Gnanasekaran D.: Persistent Organohalogen Compounds in Human Breast Milk Collected from Different Locations in India. 平成20年度グローバル COE プログラム研究成果報告会, 松山市, 3月, 要旨集, 22.
- 77) Nomiyama, K., Imaeda, D., Murata, S., Kunisue, T., Yamada, K. T., Takahashi, S., Iwata, H. and Tanabe, S.: Accumulation characteristics of hydroxylated polychlorinated biphenyl (OH PCB) congeners in the blood of marine mammals and humans. International Symposium on Ocean Science, Technology and Policy, Manado, North Sulawesi, Indonesia, May, Abstracts, Chapter V-B, 4.
- 78) Sudaryanto, A., Ilyas, M., Soeyanto, E., Setiawan, I. E., Riadi, A. S., Isobe, T., Takahashi, S. and Tanabe, S.: Assessment of persistent toxic substances in Jakarta Bay, Indonesia with special reference to brominated flame retardants and polychlorinated biphenyls. International Symposium on Ocean Science, Technology and Policy, Manado, North Sulawesi, Indonesia, May, Abstracts, Chapter V-B, 6-7.
- 79) Ilyas, M., Sudaryanto, A., Soeyanto, E., Setiawan, I. E., Riadi, A. S., Isobe, T., Takahashi, S. and Tanabe, S.: Contamination by brominated flame retardants in surface sediments from the coastal waters of Surabaya : levels, distribution, and profiles. International Symposium on Ocean Science, Technology and Policy, Manado, North Sulawesi, Indonesia, May, Abstracts, Chapter V-B, 7-8.
- 80) Isobe, T., Toyoshima, S., Miller, T. W., Omori, K., Nishikawa, J., Chiba, S., Yamamura, O., Brodeur, R., Emmett, R., Dewar, H. and Tanabe, S.: Contamination status and accumulation profiles of brominated flame retardants in eastern and western boundary current ecosystems of the North Pacific Ocean. International Symposium on Ocean Science, Technology and Policy, Manado, North Sulawesi, Indonesia, May, Abstracts, Chapter V-B, 8.
- 81) Itai, T., Takahashi, Y., Seddique, A. A., Mitamura, M., Maruoka, T., and Masuda, H., Variations in the redox state of As and Fe measured by X-ray absorption spectroscopy in aquifers of Bangladesh and their effect on As adsorption. Goldschmidt Conference, Davos, Switzerland, June. Abstracts published in Geochimica et Cosmochimica Acta, 73, A-574.
- 82) 水川葉月・野見山 桂・国末達也・渡辺倫夫・Subramanian, An.・高橋 真・田辺信介: インドの都市ゴミ集積場で採取したブタ血液中水酸化 PCBs の蓄積特性, 第18回環境化学討論会, つくば市, 6月, 講演要旨集, 46-47.
- 83) Sudaryanto, A., Isobe, T., Ilyas, M., Takahashi, S. and Tanabe, S.: Brominated flame retardants in fish from Southeast Asian countries, 第18回環境化学討論会, つくば市, 6月, 講演要旨集, 136-137.
- 84) Malarvannan, G., Isobe, T., Sudaryanto, A., Takahashi, S., Prudente, M. and Tanabe, S.: Contamination by persistent organohalogens in the Philippines environment, 第18回環境化学討論会, つくば市, 6月, 講演要旨集, 138-139.
- 85) Takahashi, S., Ramu, K., Isobe, T., Ha, N. N., Agusa, T., Zhang, G., Parthasarathy, P., Subramanian, An.

- and Tanabe, S.: Human and environmental contamination by persistent toxic substances in E-Waste recycling sites in India, 第18回環境化学討論会, つくば市, 6月, 講演要旨集, 140-141.
- 86) Tue, N. M., Sudaryanto, A., Suzuki, G., Isobe, T., Takahashi, S., Viet, P. H. and Tanabe, S.: Human exposure to brominated flame retardants in Vietnamese E-Waste recycling site, 第18回環境化学討論会, つくば市, 6月, 講演要旨集, 142-143.
- 87) 宝来佐和子・吉川龍彦・要 匡・柳 久美子・山本雅達・小倉 剛・渡邊 泉・安部慎太郎・田辺信介: ジャワマンガース (*Herpestes javanicus*) における Hg 蓄積特性と肝初代培養法の確立, 第18回環境化学討論会, つくば市, 6月, 講演要旨集, 224-225.
- 88) 板井啓明, 高橋 嘉夫, 石橋 拓也, バングラデシュの沖積層における自然発生のヒ素汚染地下水の過去の流動に対する制約, 第18回環境化学討論会, つくば市, 6月, 講演要旨集, 226-227.
- 89) 松神秀徳・中村明広・大井悦雅・高橋 真・磯部友彦・田辺信介・高菅卓三: 海棲哺乳類中の塩素化パラフィンの GC-HRMS (NCI) 及び LC-MS/MS による分析, 第18回環境化学討論会, つくば市, 6月, 講演要旨集, 232-233.
- 90) 江口哲史・磯部友彦・Subramanian, An.・Sudaryanto, A.・Ramu, K.・Minh, T. B.・Chakraborty, P.・Minh, N. H.・Viet, P. H.・Setiawan, I. E.・Riyadi, A. S.・Tana, T. S.・高橋 真・田辺信介: アジア都市ごみ集積場における臭素系難燃剤 (BFRs) の汚染実態, 第18回環境化学討論会, つくば市, 6月, 講演要旨集, 266-267.
- 91) 磯部友彦・豊島沙織・Miller, T. W.・西川 淳・千葉早苗・山村織生・Brodeur, R.・Emmett, R.・Dewar, H.・田辺信介: 海洋生態系における臭素系難燃剤の生物蓄積特性—宮城沖およびカリフォルニア沖北太平洋の地域比較—, 第18回環境化学討論会, つくば市, 6月, 講演要旨集, 268-269.
- 92) 忍穂井智子・磯部友彦・山田 格・田嶋木綿子・高橋 真・田辺信介: 濱戸内海に棲息するスナメリの有機ハロゲン化合物汚染, 第18回環境化学討論会, つくば市, 6月, 講演要旨集, 310-311.
- 93) 清水潤子・當重 弘・高橋 真・磯部友彦・田辺信介・藤井磁穂・田中周平・クナチワ, チナガーン・松村 徹・深海 稔・内田圭祐: 東シナ海の海水・海底堆積物における POPs 汚染の現状 (2008年調査結果), 第18回環境化学討論会, つくば市, 6月, 講演要旨集, 330-331.
- 94) 野見山 桂・村田仁子・国末達也・山田 格・高橋 真・田辺信介: 日本沿岸に座礁したハクジラ類およびヒゲクジラ類の血中水酸化 PCBs, 第18回環境化学討論会, つくば市, 6月, 講演要旨集, 334-335.
- 95) 篠原竜一・中田晴彦・村田清香・磯部友彦・高橋 真・田辺信介: 日本沿岸域における紫外線吸収剤汚染の経年変化と季節変動, 第18回環境化学討論会, つくば市, 6月, 講演要旨集, 354-355.
- 96) 塩崎 彰・山田 格・田嶋木綿子・田辺信介: 濱戸内海沿岸に漂着したスナメリのダイオキシン類汚染, 第18回環境化学討論会, つくば市, 6月, 講演要旨集, 418-419.
- 97) 内山幸子・野見山桂・宝来佐和子・田辺信介・篠原亮太: シュモクザメ全血中の水酸化 PCBs, 第18回環境化学討論会, つくば市, 6月, 講演要旨集, 480-481.
- 98) 野見山桂・今枝大輔・国末達也・平川周作・岩田久人・天野雅男・Petrov, E. A.・Batoev, V. B.・高橋 真・田辺信介: バイカルアザラシ血中に残留する水酸化 PCBs の蓄積特性とリスク評価, 第18回環境化学討論会, つくば市, 6月, 講演要旨集, 482-483.
- 99) 小川翔平・Ramu, K.・磯部友彦・高橋 真・田辺信介: イガイを用いたアジア沿岸域の HBCDs 汚染モニタリング, 第18回環境化学討論会, つくば市, 6月, 講演要旨集, 514-515.
- 100) 中廣賢太・染矢雅之・鈴木 剛・磯部友彦・Asante, K. A.・高橋 真・田辺信介: 有機ハロゲン化合物によるガーナの母乳汚染, 第18回環境化学討論会, つくば市, 6月, 講演要旨集, 520-521.
- 101) 滝上英孝・佐藤昌宏・酒井伸一・田辺信介・Brouwer, A.: 各種ステロイド受容体／レポータージュセイを用いたアジア都市港湾底質の多角的な活性評価, 第18回環境化学討論会, つくば市, 6月, 講演要旨集, 636-637.
- 102) 早瀬大祐・豊島沙織・宝来佐和子・磯部友彦・Miller, T. W.・高橋 真・大森浩二・田辺信介: 太平洋沿岸域の食物網における微量元素の動態, 第18回環境化学討論会, つくば市, 6月, 講演要旨集, 756-757.
- 103) Ilyas, M., Sudaryanto, A., Soeyanto, E., Setiawan, I. E., Riadi, A. S., Isobe, T., Takahashi, S. and Tanabe, S.: Levels, distribution, and profiles of polychlorinated biphenyls (PCBs) in surface sediments collected from Surabaya coastal waters, Indonesia, 第18回環境化学討論会, つくば市, 6月, 講演要旨集, 856-857.
- 104) Devanathan, G., Sudaryanto, A., Subramanian, An., Isobe, T., Takahashi, S. and Tanabe, S.: Brominated flame retardants in human breast milk collected from different locations in India, 第18回環境化学討論会, つくば市, 6月, 講演要旨集, 858-859.
- 105) 高菅卓三・森 育子・清水 厚・早崎将光・西川雅高: 黄砂飛来時期における大気捕集試料中の農薬・POPs・

- PAH の解析, 第18回環境化学討論会, つくば市, 6月, 講演要旨集, 460-461
- 106) 本田 守・橋本俊次・高澤嘉一・高菅卓三・田邊 潔・柴田康行: GC×GC/HRTOFMS による PCB 測定法の検討, 第18回環境化学討論会, つくば市, 6月, 講演要旨集, 496-497.
- 107) 嶽盛公昭・渡邊清彦・高菅卓三: ヒト生体試料中の PeBDE, HxBB 及び POPs の GC-HRMS による高感度同時分析方法, 第18回環境化学討論会, つくば市, 6月, 講演要旨集, 512-513.
- 108) 嶽盛公昭・松神秀徳・山本 央・東野和雄・佐々木裕子・Weber, R.・高菅卓三: GC-HRTOFMS を用いた過去のクロルアルカリプロセス由来のダイオキシン汚染土壤中の有機ハロゲン化合物の国内外比較, 第18回環境化学討論会, つくば市, 6月, 講演要旨集, 560-561.
- 109) 高菅卓三・松神秀徳・嶽盛公昭 (2009) : GC-HRTOFMS による環境試料の高感度・高精度スクリーニング分析の有用性評価, 第18回環境化学討論会, つくば市, 6月, 講演要旨集, 580-581.
- 110) 松神秀徳・本田 守・中村明広・高菅卓三: 室内空気及びハウスダスト中の有機リン系難燃剤の GC-MS 及び LC-MS による分析, 第18回環境化学討論会, つくば市, 6月, 講演要旨集, 830-831.
- 111) 渡邊清彦・大井悦雅・高菅卓三: LC/MS/MS を用いたヒト生体試料中のクロルデコン高感度分析法, 第18回環境化学討論会, つくば市, 6月, 講演要旨集, 860-861.
- 112) 斎藤亜実・谷内 透・山田 格・田辺信介: 瀬戸内海および響灘に生息するスナメリの身体的成熟, 日本セトロジー研究会第20回北九州大会, 北九州市, 6月, 発表要旨集, 11.
- 113) 忍穂井智子・磯部友彦・山田 格・田嶋木綿子・田辺信介: 瀬戸内海および大村湾のスナメリにおける有機ハロゲン化合物汚染の実態解明, 日本セトロジー研究会第20回北九州大会, 北九州市, 6月, 発表要旨集, 13.
- 114) 塩崎 彰・山田 格・田嶋木綿子・染矢雅之・磯部友彦・田辺信介: 瀬戸内海に漂着したスナメリのダイオキシン類および PCB 汚染, 日本セトロジー研究会第20回北九州大会, 北九州市, 6月, 発表要旨集, 14.
- 115) 磯部友彦・Ramu, K.・田辺信介: 生物環境試料バンクの活用研究: 臭素系難燃剤による鯨類汚染の歴史トレンド解析, 日本セトロジー研究会第20回北九州大会, 北九州市, 6月, 発表要旨集, 15.
- 116) 野見山 桂・村田仁子・国末達也・山田 格・高橋 真・田辺信介: 日本沿岸に座礁したハクジラ類およびヒゲクジラ類の血中水酸化 PCBs 蓄積特性, 日本セトロジー研究会第20回北九州大会, 北九州市, 6月, 発表要旨集, 16.
- 117) 真柄真実・田嶋木綿子・磯部友彦・田辺信介・山本貴仁・島田章則・山田 格: 集団座礁したスジイルカに認められた甲状腺腫様変化と蓄積された有機ハロゲン化合物との関連性に関する考察, 日本セトロジー研究会第20回北九州大会, 北九州市, 6月, 発表要旨集, 27.
- 118) Isobe, T., Ramu, K. and Tanabe, S.: Retrospective analysis of environmental contaminants: advantages of environmental specimen bank (*es*-BANK) of Ehime University. The 2nd Joint Forum of Environmental Sciences 2009, Yeosu, Korea, July, Abstracts, 8.
- 119) Ono, J., Takahashi, D., Guo, X., Takahashi, S. and Takeoka, H.: Development of a three-dimensional model of persistent organic pollutant in the East China Sea. The 2nd Joint Forum of Environmental Sciences 2009, Yeosu, Korea, July, Abstracts, 16.
- 120) Tanabe, S.: Global COE Program, Ehime University: Interdisciplinary studies on environmental chemistry. The 2nd Joint Forum of Environmental Sciences 2009, Yeosu, Korea, July.
- 121) Tue, N. M., Suzuki, G., Isobe, T., Takahashi, S., Viet, P. H. and Tanabe, S.: Levels of polychlorinated biphenyls, brominated flame retardants and dioxin-like activities associated with e-waste recycling in Vietnamese house dust. 29th International Symposium on Halogenated Persistent Organic Pollutants, DIOXIN 2009, Beijing, China, Aug., Abstract Book, 5.
- 122) Malarvannan, G., Isobe, T., Sudaryanto, A., Takahashi, S., Prudente, M. and Tanabe, S.: Brominated flame retardants in house dust from the Philippines: levels, profiles and fate. 29th International Symposium on Halogenated Persistent Organic Pollutants, DIOXIN 2009, Beijing, China, Aug., Abstract Book, 5.
- 123) Nomiyama, K., Murata, S., Mizukawa, H., Yamada, T. K., Takahashi, S. and Tanabe, S.: Comprehensive study on hydroxylated polychlorinated biphenyls in the blood of cetaceans, including toothed whales and baleen whales stranded at the Japanese coast. 29th International Symposium on Halogenated Persistent Organic Pollutants, DIOXIN 2009, Beijing, China, Aug., Abstract Book, 7.
- 124) Takasuga, T., Takemori, H., Yamamoto, T., Higashino, K., Sasaki, Y. and Weber, R.: The fingerprint of chlorinated aromatic compounds in contaminated sites from chloralkali processes and a historic chlorine production using

4. 研究成果

- GC-HR-TOF-MS screening. 29th International Symposium on Halogenated Persistent Organic Pollutants, DIOXIN 2009, Beijing, China, Aug., Abstract Book, 11.
- 125) Subramanian, An., Ramu, K., Devanathan, G., Takahashi, S. and Tanabe, S.: Spacial and temporal trends of persistent toxic substances in India. 29th International Symposium on Halogenated Persistent Organic Pollutants, DIOXIN 2009, Beijing, China, Aug., Abstract Book, 21.
- 126) Takasuga, T., Takemori, H., Matsukami, H. and Inoue, T.: Evaluation of GC-HR-TOFMS techniques applied for environmental analysis. 29th International Symposium on Halogenated Persistent Organic Pollutants, DIOXIN 2009, Beijing, China, Aug., Abstract Book, 25.
- 127) Sudaryanto, A., Malarvannan, G., Xian, Q., Ramu, K., Isobe, T., Minh, N. H., Takahashi, S., Iwata, H. and Tanabe, S.: Assessment of brominated flame retardants in fish from Asian countries ; levels, distribution, profiles and health risk. 29th International Symposium on Halogenated Persistent Organic Pollutants, DIOXIN 2009, Beijing, China, Aug., Abstract Book, 33.
- 128) Isobe, T., Amano, A., Chang, K. H., Miller, T. W., Maneja, R. H., Zamora, P. B., San Diego-McGlone, M. L., Siringan, F. and Tanabe, S.: Spacial and vertical distribution of brominated flame retardants in sediments from Manila Bay, The Philippines. 29th International Symposium on Halogenated Persistent Organic Pollutants, DIOXIN 2009, Beijing, China, Aug., Abstract Book, 33.
- 129) Ilyas, M., Sudaryanto, A., Soeyanto, E., Setiawan, I. E., Riadi, A. S., Isobe, T., Takahashi, S. and Tanabe, S.: Polychlorinated biphenyls (PCBs) and brominated flame retardants (BFRs) in surface sediments of Surabaya City, Indonesia : a comparison between ribers and coastal waters. 29th International Symposium on Halogenated Persistent Organic Pollutants, DIOXIN 2009, Beijing, China, Aug., Abstract Book, 35.
- 130) Takigami, H., Sato, M., Sakai, S., Tanabe, S. and Brouwer, A.: Application of a panel of nuclear receptor/ reporter gene bioassays to marine harbor sediments in Asia. 29th International Symposium on Halogenated Persistent Organic Pollutants, DIOXIN 2009, Beijing, China, Aug., Abstract Book, 51.
- 131) Matsukami, H., Nakamura, A., Ohi, E., Takahashi, S., Isobe, T., Tanabe, S. and Takasuga, T. (2009) : Short chain chlorinated paraffins in blubber of striped dolphins from Japan : high sensitivity and precise quantification method by gas chromatography-high resolution mass spectrometry. 29th International Symposium on Halogenated Persistent Organic Pollutants, DIOXIN 2009, Beijing, China, Aug., Abstract Book, 71.
- 132) Takasuga, T., Otsuka, K., Funakoshi, K., Iwaki, K., Matsumura, T. and Miyazaki, T. : Evaluation of interlaboratory study on PCDD, PCDF and dioxin like PCB in the flyash reference material (6th round FY 2008 research group on ultra trace analyses, JEMCA), 29th International Symposium on Halogenated Persistent Organic Pollutants, DIOXIN 2009, Beijing, China, Aug., Abstract Book, 80.
- 133) Shimizu, J., Takahashi, S., Isobe, T., Subramanian, An., Kunacheva, C., Fukaumi, M., Uchida, K., Matsumura, T., Toju, H., Tanaka, S., Fujii, S. and Tanabe, S.: Development of monitoring system for persistent organic pollutants in offshore waters around Japan : results from the first investigation in the East China Sea. 29th International Symposium on Halogenated Persistent Organic Pollutants, DIOXIN 2009, Beijing, China, Aug., Abstract Book, 85.
- 134) Eguchi, A., Isobe, T., Subramanian, An., Sudaryanto, A., Viet, P. H., Tana, T. S., Takahashi, S. and Tanabe, S.: Contamination by brominated flame retardants in soil samples from Asian developing countries. 29th International Symposium on Halogenated Persistent Organic Pollutants, DIOXIN 2009, Beijing, China, Aug., Abstract Book, 100.
- 135) Someya, M., Suzuki, G., Subramanian, An., Zheng, G. J., Lam, P. K. S., Prudente, M., Min, B. Y., Zakaria, M. P., Viet, P. H., Tana, T. S., Takahashi, S. and Tanabe, S.: Mussel watch program : monitoring of dioxin related compounds in Asian coastal waters using mussels as bioindicators. 29th International Symposium on Halogenated Persistent Organic Pollutants, DIOXIN 2009, Beijing, China, Aug., Abstract Book, 102.
- 136) Mizukawa, H., Nomiyama, K., Kunisue, T., Watanabe, M. X., Subramanian, An., Takahashi, S. and Tanabe, S.: Accumulation features of hydroxylated-PCBs (OH-PCBs) in the blood of pigs collected from a dumping site for municipal wastes in India. 29th International Symposium on Halogenated Persistent Organic Pollutants, DIOXIN 2009, Beijing, China, Aug., Abstract Book, 135.
- 137) Devanathan, G., Agus, S., Subramanian, An., Isobe, T., Someya, M., Takahashi, S. and Tanabe, S.: Persistent

- organohalogen compounds in human breast milk collected from different regions in India. 29th International Symposium on Halogenated Persistent Organic Pollutants, DIOXIN 2009, Beijing, China, Aug., Abstract Book, 140.
- 138) Yamamoto, T., Higashino, K., Ohura, T., Amagai, T., Takemori, H., Takasuga, T. and Sasaki, Y.: Laboratory investigation of PCDD/Fs and Dioxin-like compounds formation during chlor-alkali process. 29th International Symposium on Halogenated Persistent Organic Pollutants, DIOXIN 2009, Beijing, China, Aug., Abstract Book, 158.
- 139) Tanabe, S. : Global COE Program, Ehime University - Interdisciplinary Studies on Environmental Chemistry. Interdisciplinary Symposium for Young Investigators on Biological Responses to Chemical Contaminants : from Molecular to Community Level, Aveiro, Portugal, Aveiro, Portugal, Sept.
- 140) Sousa, A. C., Takahashi, S., Tanabe, S. and Barroso, C. M. : Historical perspective of imposex and organotin contamination along the Portuguese Coast. Interdisciplinary Symposium for Young Investigators on Biological Responses to Chemical Contaminants: from Molecular to Community Level, Aveiro, Portugal, Aveiro, Portugal, Sept., Abstract Book, 25.
- 141) Pastorinho, M. R., Takahashi, S., Itai, T., Omori, K., Nogueira, A. J. A. and Tanabe, S. : Characterization of trace metals biomagnifications in a coastal lagoon (Ria de Aveiro) food web using stable isotopes. Interdisciplinary Symposium for Young Investigators on Biological Responses to Chemical Contaminants : from Molecular to Community Level, Aveiro, Portugal, Aveiro, Portugal, Sept., Abstract Book, 43.
- 142) Takahashi, S., Ramu, K., Isobe, T., Toyoshima, S., Oshihori, T., Ohmori, K., Kubodera, T., Hishida, S. and Tanabe, S.: Persistent toxic substances in deep-sea ecosystems around Japan: its status of contamination, distribution and bioaccumulation. Interdisciplinary Symposium for Young Investigators on Biological Responses to Chemical Contaminants : from Molecular to Community Level, Aveiro, Portugal, Aveiro, Portugal, Sept., Abstract Book, 77.
- 143) 鈴木健吾・坂本寿夫・藤本円花・中川修平・本山充希・松尾英樹・野見山桂・篠原亮太：海水浴場における紫外線吸収剤の存在, 第12回日本水環境学会シンポジウム, 東京, 9月, 講演要旨集, 202.
- 144) 野見山桂・中川修平・本山充希・藤本円花・坂本寿夫・鈴木健吾・松尾英樹・篠原亮太：下水汚泥・畜産廃棄物を原料とした再生肥料（コンポスト）中の医薬品, 第12回日本水環境学会シンポジウム, 東京, 9月, 講演要旨集, 206.
- 145) 磯部友彦・Sudaryanto, A.・Ramu, K.・田辺信介：臭素系難燃剤の生物濃縮とヒトへの曝露評価, 第12回日本水環境学会シンポジウム, 東京, 9月, 講演要旨集, 212.
- 146) 板井啓明, 石橋拓也, 高橋嘉夫, ベンガル平野のヒ素汚染地下水の時空間変動要因について —I. 吸着平衡モデルに基づく汚染機構の新しい解析法—, 日本地球化学会年会, 広島, 9月. 講演要旨集, 100.
- 147) 板井啓明, 高橋嘉夫, ベンガル平野のヒ素汚染地下水の時空間変動要因について —II. 堆積物—水間のヒ素のみかけの分配係数を支配する物理化学的要因—, 日本地球化学会年会, 広島, 9月. 講演要旨集, 146.
- 148) 石橋拓也, 板井啓明, 高橋嘉夫, バングラデシュ南西部シャムタ村における地下水中ヒ素濃度の深度分布とみかけの分配係数との関係, 日本地球化学会年会, 広島, 9月. 講演要旨集, 99.
- 149) Takahashi, S., Kannan, K. and Tanabe, S. (2009) : Contamination status and distribution of emerging POPs and related compounds in Asia-Pacific region. The 3rd Workshop on Reduction of Unintentional POPs in East Asian Countries, Tokyo, Oct.
- 150) 磯部友彦：海棲哺乳類のPOPsの汚染実態, 第15回日本野生動物医学会：自由集会2「漂着海棲哺乳類を活用した研究の可能性」(コーディネーター：田島木綿子・山田格), 富山, 9月.
- 151) 野口貴子・板井啓明・宝来佐和子・Tue, N. M.・高橋 真・阿草哲郎・Minh, T. B.・Trang, P. T. K.・Viet, P. H.・Minh, N. H.・田辺信介：ベトナムe-wasteリサイクル処理現場におけるヒトの微量元素曝露の実態, 第15回日本環境毒性学会・バイオアッセイ研究会合同研究発表会, 東京, 10月, 講演要旨集, 11-12.
- 152) 野見山桂・今枝大輔・平川周作・岩田久人・高橋 真・国末達也・天野雅男・Petrov, E. A.・Batoev, V. B.・田辺信介：バイカルアザラシ血中に残留する水酸化PCBsの蓄積特性とリスク評価, 第15回日本環境毒性学会・バイオアッセイ研究会合同研究発表会, 東京, 10月, 講演要旨集, 13-14.
- 153) Tanabe, S. : Environmental and biotic contamination by POPs in the Asia-Pacific region. International Seminar on Pesticide and Persistent Organic Pollutants (POPs) Residues in the Environments and Their Effects on Food Safety, Taichung, Taiwan, ROC, Oct., Program of Activities, 1-1-1-21.
- 154) Takahashi, S. and Tanabe, S. : Global distribution and potential sources of persistent toxic substances : recent issues in the Asia-Pacific region. Kyoto Workshop on 3R (Reduce, Reuse & Recycle) and Waste Management, Kyoto, Oct.

4. 研究成果

- 155) Isobe, T.: Introduction of Environmental Specimen Bank (es-BANK) : Retrospective Analysis of Emerging Contaminants. Seminar Forum on Emerging Contaminants in the Asian Environment in De La Salle University, Manila, Oct.
- 156) Sudaryanto, A. : Assessment of Emerging Contaminants of Brominated Flame Retardants in Fish from Asian Countries : Levels, Distribution, Profiles and Health Risk. Seminar Forum on Emerging Contaminants in the Asian Environment in De La Salle University, Manila, Oct.
- 157) Malarvannan, G. : Contamination by Persistent Organohalogens in the Philippines Environment. Seminar Forum on Emerging Contaminants in the Asian Environment in De La Salle University, Manila, Oct.
- 158) Itai, T., and Takahashi, Y. Mechanism and source of arsenic contamination in groundwater in Bangladesh. MARCO symposium, Tsukuba, Oct. (招待講演)
- 159) Sousa, A., Pastorinho, R., Takahashi, S., Tanabe, S. and Barroso, C. M. : TBT global ban : an anticipation study based on the European Union experience. SETAC North America 30th Annual Meeting, New Orleans, LA, USA, November, Abstract Book, 340.
- 160) Pastorinho, M. R., Takahashi, S., Itai, T., Omori, K., Nogueira, A. J. A. and Tanabe, S. : Food sources and trophic interactions in a coastal lagoon: implications for the trace metal transference dynamics. SETAC North America 30th Annual Meeting, New Orleans, LA, USA, November, Abstract Book, 333.
- 161) Kannan, K. and Tanabe, S. : Utility of archived samples from environmental specimen bank in understanding spatial and temporal trends of perfluorinated compounds. International Symposium on Environmental Specimen Bank - Exploring Possibility of Setting-up ESBs in Developing Countries, Matsuyama, Japan, December, Abstract Book, 14.
- 162) Kunisue, T., Kannan, K., Fisher, J. W. and Tanabe, S. : Analysis of thyroid hormones in thyroid glands of perchlorate-administered rats by liquid chromatography-Tandem Mass Spectrometry : potential application to samples stored in es-Bank of Ehime University. International Symposium on Environmental Specimen Bank - Exploring Possibility of Setting-up ESBs in Developing Countries, Matsuyama, Japan, December, Abstract Book, 17.
- 163) Isobe, T., Sudaryanto, A., Ramu, K. and Tanabe, S. : Spatial and temporal trend study on environmental pollution by brominated flame retardants using archived samples. International Symposium on Environmental Specimen Bank - Exploring Possibility of Setting-up ESBs in Developing Countries, Matsuyama, Japan, December, Abstract Book, 20.
- 164) Nomiyama, K., Murata, S., Kunisue, T., Yamada, T. K., Takahashi, S. and Tanabe, S. : Comprehensive study on hydroxylated polychlorinated biphenyls in the blood of cetaceans, including toothed whales and baleen whales stranded at the Japanese coast. International Symposium on Environmental Specimen Bank - Exploring Possibility of Setting-up ESBs in Developing Countries, Matsuyama, Japan, December, Abstract Book, 21.
- 165) Hirata, S. H., Urakami, S., Yasuda, Y., Isobe, T., Takahashi, S. and Tanabe, S. : Environmental monitoring of trace elements using marine mammals as bioindicators -species specific accumulation and temporal trend analysis-. International Symposium on Environmental Specimen Bank - Exploring Possibility of Setting-up ESBs in Developing Countries, Matsuyama, Japan, December, Abstract Book, 22.
- 166) Viet, P. H., Minh, T. B., Minh, N. H., Tuyen, B. C. and Tanabe, S. : Towards possibility to establish environmental specimen banking for environmental pollution research in Vietnam : challenges, future perspectives, and results in spatial and temporal trends of contamination using sample specimens from Vietnamese environment. International Symposium on Environmental Specimen Bank - Exploring Possibility of Setting-up ESBs in Developing Countries, Matsuyama, Japan, December, Abstract Book, 38.
- 167) Djamaluddin, R., Rovara, O., Sudaryanto, A., Ilyas, M. and Setiawan, I. E. : Specimen banking in Indonesia : current status and possible development. International Symposium on Environmental Specimen Bank - Exploring Possibility of Setting-up ESBs in Developing Countries, Matsuyama, Japan, December, Abstract Book, 39.
- 168) Subramanian, An., Devanathan, G. and Tanabe, S. : Pollution trends in India - evidence for need of an environmental specimen bank. International Symposium on Environmental Specimen Bank - Exploring Possibility of Setting-up ESBs in Developing Countries, Matsuyama, Japan, December, Abstract Book, 40.
- 169) Ha, N. N., Agusa, T., Tue, N. M., Minh, T. B., Minh, N. H., Itai, T., Takahashi, S., Subramanian, An., Viet, P. H. and Tanabe, S. : Soil contamination by trace elements at e-waste recycling sites in Vietnam and India. International Symposium on Environmental Specimen Bank - Exploring Possibility of Setting-up ESBs in Developing Countries, Matsuyama, Japan, December, Abstract Book, 44.
- 170) Hayase, D., Toyoshima, S., Agusa, T., Takahashi, S., Hirata, S. H., Itai, T., Omori, K., Nishida, S. and

- Tanabe, S. : Distribution and biomagnification of arsenic species in the deep-sea food web of Sagami Bay, Japan. International Symposium on Environmental Specimen Bank - Exploring Possibility of Setting-up ESBs in Developing Countries, Matsuyama, Japan, December, Abstract Book, 45.
- 171) Itai, T., Ishibashi, T. and Takahashi, Y. : Variations in the redox state of As and Fe measured by X-ray absorption spectroscopy in aquifers of Bangladesh and their effect on As adsorption. International Symposium on Environmental Specimen Bank - Exploring Possibility of Setting-up ESBs in Developing Countries, Matsuyama, Japan, December, Abstract Book, 46.
- 172) Matsukami, H., Nakamura, A., Ohi, E., Takahashi, S., Isobe T., Tanabe, S. and Takasuga, T. : Short chain chlorinated paraffins in blubber of striped dolphins from Japan high sensitivity and precise quantification method by gas chromatography-high resolution mass spectrometry. International Symposium on Environmental Specimen Bank - Exploring Possibility of Setting-up ESBs in Developing Countries, Matsuyama, Japan, December, Abstract Book, 50.
- 173) Kim, J. W., Isobe, T. and Tanabe, S.: Multi-residue analytical method for ultraviolet absorber and organophosphorous flame retardant by UPLC-MS/MS. International Symposium on Environmental Specimen Bank - Exploring Possibility of Setting-up ESBs in Developing Countries, Matsuyama, Japan, December, Abstract Book, 51.
- 174) Chang, K. H., Doi, H., Nishibe, Y. and Nakano, S. : Pollution in marine coastal area of Bungo Channel in Japan : long-term monitoring on aquaculture impacts on coastal ecosystems. International Symposium on Environmental Specimen Bank - Exploring Possibility of Setting-up ESBs in Developing Countries, Matsuyama, Japan, December, Abstract Book, 56.
- 175) Tue, N. M., Suzuki1, G., Isobe, T., Takahashi, S., Kannan, K. and Tanabe, S. : Toxic identification and evaluation approach on house dust from New York, USA using DR-CALUX and chemical analysis of dioxin-like compounds. International Symposium on Environmental Specimen Bank - Exploring Possibility of Setting-up ESBs in Developing Countries, Matsuyama, Japan, December, Abstract Book, 63.
- 176) Someya, M., Suzuki, G., Subramanian, An., Zheng, G. J., Lam, P. K. S., Prudente, M., Min, B. Y., Zakaria, M. P., Viet, P. H., Tana, T. S., Takahashi, S. and Tanabe, S. : Mussel watch program : monitoring of dioxin related compounds in Asian coastal waters using DR-CALUX assay and chemical analysis. International Symposium on Environmental Specimen Bank - Exploring Possibility of Setting-up ESBs in Developing Countries, Matsuyama, Japan, December, Abstract Book, 64.
- 177) Shiozaki, A., Yamada, T. K., Tajima, Y., Someya, M., Isobe, T. and Tanabe, S. : Dioxin concentrations in finless porpoise (*Neophocaena phocaenoides*) from Seto Inland Sea. International Symposium on Environmental Specimen Bank - Exploring Possibility of Setting-up ESBs in Developing Countries, Matsuyama, Japan, December, Abstract Book, 75.
- 178) Nakahiro, K., Someya, M., Suzuki, G., Isobe, T., Asante, K., Takahashi, S. and Tanabe S. : Contamination status of organohalogen compounds in human breast milk from Ghana residents. International Symposium on Environmental Specimen Bank - Exploring Possibility of Setting-up ESBs in Developing Countries, Matsuyama, Japan, December, Abstract Book, 76.
- 179) Mizukawa, H., Nomiyama, K., Kunisue, T., Watanabe, M. X., Subramanian, An., Takahashi, S. and Tanabe, S. : Accumulation features of hydroxylated-PCBs (OH-PCBs) in the blood of pigs collected from a dumping site for municipal wastes in India. International Symposium on Environmental Specimen Bank - Exploring Possibility of Setting-up ESBs in Developing Countries, Matsuyama, Japan, December, Abstract Book, 77.
- 180) Eguchi, A., Nomiyama, K., Subramanian, An., Takahashi, S. and Tanabe, S. : Organohalogen and metabolite contaminants in human serum samples from Indian waste recycling workers. International Symposium on Environmental Specimen Bank - Exploring Possibility of Setting-up ESBs in Developing Countries, Matsuyama, Japan, December, Abstract Book, 78.
- 181) Ilyas, M., Sudaryanto, A., Setiawan, I. E., Isobe, T., Takahashi, S. and Tanabe, S. : Characterization of polychlorinated biphenyls (PCBs) and polybrominated diphenyl ethers (PBDEs) in sediments from dumpsite areas and its leachate treatment plants (LTPs) of Benowo dumpsite, Surabaya City. International Symposium on Environmental Specimen Bank-Exploring Possibility of Setting-up ESBs in Developing Countries, Matsuyama, Japan, December, Abstract Book, 79.
- 182) Devanathan, G., Sudaryanto A., Subramanian, An., Asante, K., Isobe T., Takahashi, S. and Tanabe, S. :

- Polychlorinated biphenyls and brominated flame retardants in human breast milk collected from different regions in India. International Symposium on Environmental Specimen Bank-Exploring Possibility of Setting-up ESBs in Developing Countries, Matsuyama, Japan, December, Abstract Book, 80.
- 183) Asante, K., Sudaryanto, A., Devanathan, G., Bello, M., Takahashi, S. and Tanabe, S.: Brominated flame retardants and polychlorinated biphenyls in cow milk samples from Ghana. International Symposium on Environmental Specimen Bank-Exploring Possibility of Setting-up ESBs in Developing Countries, Matsuyama, Japan, December, Abstract Book, 81.
- 184) Malarvannan, G., Takahashi, S., Ikemoto, T., Isobe, T., Kunisue, T., Sudaryanto, A., Miyagi, T., Nakamura, M., Yasumura, S. and Tanabe, S.: Organohalogen compounds in fishes from Nansei Islands, Japan: levels, distribution and profiles. International Symposium on Environmental Specimen Bank-Exploring Possibility of Setting-up ESBs in Developing Countries, Matsuyama, Japan, December, Abstract Book, 82.
- 185) Sudaryanto, A., Setiawan, I. E., Ilyas, M., Anantasena, Y., Djamaluddin, R., Isobe, T., Takahashi, S. and Tanabe, S.: Utilization of es-BANK of Ehime University for monitoring environmental pollutants in Indonesia: a case for brominated flame retardants in biota, human and environmental samples. International Symposium on Environmental Specimen Bank-Exploring Possibility of Setting-up ESBs in Developing Countries, Matsuyama, Japan, December, Abstract Book, 83.
- 186) Oshihoi, T., Isobe, T., Yamada, T. K., Tajima, Y. and Tanabe, S.: Specific accumulation of BFRs in finless porpoises from Japan. International Symposium on Environmental Specimen Bank-Exploring Possibility of Setting-up ESBs in Developing Countries, Matsuyama, Japan, December, Abstract Book, 84.
- 187) Ogawa, S. P., Ramu K., Isobe, T. and Tanabe, S.: Spatial distribution and accumulation of BFRs in mussel from coastal waters of Asian countries. International Symposium on Environmental Specimen Bank-Exploring Possibility of Setting-up ESBs in Developing Countries, Matsuyama, Japan, December, Abstract Book, 85.
- 188) Takahashi, S.: Environmental contamination and human exposure assessment to persistent toxic substances in e-waste recycling sites in India and Vietnam. The Sixth NIES Workshop on E-waste, Sapporo, Japan, Dec.
- 189) 松神秀徳・苗田千尋・大井悦雅・高菅卓三: 大気中の短鎖塩素化パラフィンの GC-HRMS (NCI) 法を用いた分析. 環境ホルモン学会第12回研究発表会, 東京, 12月, 要旨集, 59.
- 190) 苗田千尋・松神秀徳・高菅卓三: 環境試料中エンドスルファンの GC-HRMS (NCI) による分析 (大気試料ほか). 環境ホルモン学会第12回研究発表会, 東京, 12月, 要旨集, 60.
- 191) 松神秀徳・嶽盛公昭・高菅卓三: GC-HRTOFMS による母乳中の有機ハロゲン化合物の検索. 環境ホルモン学会第12回研究発表会, 東京, 12月, 要旨集, 88.
- 192) 中島大介・鎌田 亮・塚原伸治・渡邊清彦・高菅卓三・藤巻秀和・白石不二雄: ラット尿中クロルピリホス代謝物の経時変化. 2009年度室内環境学会総会, 大阪, 12月, 要旨集, 106.
- 193) 中村明広, 松神秀徳, 高菅卓三, 小森行也, 南山瑞彦: タミフルとその代謝物の下水試料中の分析. 第44回に本水環境学会年会, 福岡市, 3月, 講演要旨集, 656.

生態系解析部門

- 1) Chien, M-F., Narita, M., Chen, F-F., Matsui, K., Huang, C-C., and Endo, G.: A novel TnMERI-1 like transposon identified by molecular characterization of mercury resistance determinants and arsenic resistance determinants. 109th ASM General Meeting of American Society for Microbiology, Philadelphia, PA, USA, May, Abstract 60.
- 2) Bong, C. W., Obayashi, Y. and Suzuki, S.: Proteolytic enzyme activities in cultured heterotrophic marine bacteria. 109th ASM General Meeting of American Society for Microbiology, Philadelphia, PA, USA, May, Abstract 543.
- 3) Wada, S. and Suzuki, S.: Zinc effect on bacterial mineralization process of dissolved organic matter in coastal seawater. The 41st International Liege Colloquium on Ocean Dynamics. Liege, Belgium, May, Abstract no page (only website).
- 4) 簡 梅芳・宮内啓介・林 高弘・鈴木 聰・張 祖恩・遠藤銀朗: 水銀汚染環境における水銀分解遺伝子の分布—水銀汚染を生物による浄化技術の開発に向けて—. 環境バイオテクノロジー学会, 東京, 6月, 要旨集 24.
- 5) Takasu, H., Suzuki, S., Reungsang, A. and Viet, P. H.: Comtamination of fluoroquinolones (FQs) and FQs-resistant bacteria in aquatic environments in southeast Asia, 3rd Symposium on Antimicrobial Resistance in Animals and Environment, Tours, France, June, Abstract 58.

- 6) Song, J. Y., Nakayama, K., Murakami, Y., Jung, S. J., Oh, M. J. and Kitamura, S. I.: Does heavy oil pollution induce infectious diseases in Japanese flounder *Paralichthys olivaceus*? The 2nd Joint Forum of Environmental Science, Yeosu, Korea, July, Abstracts, 23.
- 7) Suzuki, S.: Drug-resistant bacteria in Asian aquatic environments. Interdisciplinary Symposium for Young Investigator, Biological responses to chemical contaminants : from molecular to community level, Aveiro, Portugal, September, Program & Abstract, 13.
- 8) Hoa, P. T. P., Managaki, S., Nakada, N., Takada, H., Anh, D. H., Viet, P. H., Hien, P. T. and Suzuki, S.: Occurrence rates of sulfamethoxazole and erythromycin-resistant bacteria and drug concentrations in wastewater of integrated aquaculture-agriculture (VAC) sites in northern Vietnam. Interdisciplinary Symposium for Young Investigator, Biological responses to chemical contaminants : from molecular to community level, Aveiro, Portugal, September, Program & Abstract, 16.
- 9) Chien M-F., Lin, K-H., Chang, J-E., Huang, C-C., Endo, G. and Suzuki, S.: Distribution of mercury resistance determinants in highly mercury polluted area in Taiwan. Interdisciplinary Symposium for Young Investigator, Biological responses to chemical contaminants : from molecular to community level, Aveiro, Portugal, September, Program & Abstract, 34.
- 10) Hamamura, N., Macur, R. E., Inskeep, W. P. and Reysenbach, A-L.: Geomicrobiology of arsenic. Interdisciplinary Symposium for Young Investigator, Biological responses to chemical contaminants : from molecular to community level, Aveiro, Portugal, September, Program & Abstract, 35.
- 11) Cruz, A., Henriques, I., Correina, A., Suzuki, S. and Mendo, S.: *Aeromonas molluscorum* Av27 : A potential natural tool for TBT decontamination. Interdisciplinary Symposium for Young Investigator, Biological responses to chemical contaminants : from molecular to community level, Aveiro, Portugal, September, Program & Abstract, 36.
- 12) Bong, C. W., Malfatti, F., Azam, F., Obayashi, Y. and Suzuki, S.: Effect of zinc on bacteria production and proteolytic activity in seawater. Interdisciplinary Symposium for Young Investigator, Biological responses to chemical contaminants : from molecular to community level, Aveiro, Portugal, September, Program & Abstract, 54.
- 13) 和田茂樹・鈴木 聰：沿岸域の溶存態有機物のバクテリア分解における亜鉛の影響, 2009年度日本海洋学会秋季大会, 京都, 9月, 要旨408.
- 14) 大林由美子・鈴木 聰：もっと小さな微生物？～0.2 μm 濾過海水中でみられる微生物数の増加と高い代謝活性, 2009年度日本海洋学会秋季大会, 京都, 9月, 要旨409.
- 15) 入江浩大・仲山 慶・川口将史・野見山 桂・北村真一・村上安則：水酸化 PCB 暴露による硬骨魚類の初期発生への影響－水酸化 PCB 暴露におけるヒラメ仔魚の形態解析結果から－. 第15回日本環境毒性学会・バイオアッセイ研究会合同研究発表会, 10月, 東京. 講演要旨集, 15-16.
- 16) 宋 準榮・仲山 慶・村上安則・宇野誠一・小山次朗・北村真一：重油暴露が魚類ウイルス性疾病の発生に与える影響. 第15回日本環境毒性学会・バイオアッセイ研究会合同研究発表会, 10月, 東京. 講演要旨集, 18-19.
- 17) Hamamura, N., Meneghin, J. and Reysenbach, A-L.: Comparative metatranscriptomics of Aquificales-dominant hot springs. 日本微生物生態学会第25回大会, 広島, 11月, 要旨集, 27.
- 18) Hamamura, N., Macur, R. E., Inskeep, W. P. and Reysenbach, A-L.: Diversity and functional analysis of bacterial communities associated with soda lake in northwestern Mongolia. Interdisciplinary Symposium on Environmental Specimen Bank, Matsuyama, Japan, December, Program & Abstract, 57.
- 19) Chien, M-F., Nakamura, Y., Lin, K-H., Chang, J-E., and Suzuki, S.: The occurrence of oxytetracycline resistant bacteria from aquatic environment with mercury pollution. Interdisciplinary Symposium on Environmental Specimen Bank, Matsuyama, Japan, December, Program & Abstract, 58.
- 20) Sakai, H., Wada, S., Isobe, T., Takata, H., Sasaki, M., Suzuki, S.: Mutation in the *Escherichia coli* *pqq* gene results in abnormal colonization. Interdisciplinary Symposium on Environmental Specimen Bank, Matsuyama, Japan, December, Program & Abstract, 59.
- 21) Wada, S., Hirata, S. and Suzuki, S.: Inhibition of DOM decomposition in coastal environments by zinc input. Interdisciplinary Symposium on Environmental Specimen Bank, Matsuyama, Japan, December, Program & Abstract, 60.
- 22) Takasu, H., Reungsang, A., Viet, P. H. and Suzuki, S.: Fluoroquinolone antibiotics (FQs) -resistant bacteria in aquatic environments in Thailand and Vietnam. Interdisciplinary Symposium on Environmental Specimen Bank, Matsuyama, Japan, December, Program & Abstract, 61.

4. 研究成果

- 23) Akizuki, M., Nakayama, K. and Kitamura, S. I.: Dual stressor of nodavirus infection and tributyltin exposure leads to high mortality in medaka *Oryzias latipes* larvae. International Symposium on Environmental Specimen Bank, Matsuyama, Japan, December, Program & Abstract, 62.
- 24) Hamamura, N., J. Meneghin, and A-L. Reysenbach. Comparative community gene expression analysis of Aquificales-dominant geothermal springs. 第4回日本ゲノム微生物学会年会, 福岡, 3月, 要旨集, 31.
- 25) Chien, M-F., Lin, K-H., Chatziefthimiou, A. D., Barkey, T., Chang, J-E., and Suzuki, S.: 台湾の水銀汚染地域における微生物群集と水銀還元酵素の多様性に関する研究. 日本農芸化学会, 東京, 3月, 要旨集220.
- 26) 守屋和佳・加三千宣・山本正伸・國弘忠生・斎藤光代・天野敦子・大森浩二・武岡英隆:別府湾における無酸素水塊の分布と挙動:沿岸海洋におけるTEX86古水温計の確立を目指して, 日本地球惑星科学連合2009年大会, 千葉, 2009年5月, 口頭.
- 27) 守屋和佳・加三千宣・山本正伸・國弘忠生・斎藤光代・佐川拓也・大西秀次郎・大森浩二・武岡英隆:別府湾における無酸素水塊の発達と消失;瀬戸内海の海水温長期変動史の解明に向けて, 日本古生物学会2009年年会, 千葉, 2009年6月, 口頭.
- 28) 國弘忠生・堤 裕昭・伊藤克敏・大森浩二:魚類養殖場周辺海域の堆積有機物と微生物群集の関係, 第25回日本微生物生態学会, p. 54, 東広島, 2009年11月.
- 29) 守屋和佳・加 三千宣・國弘忠生・山本正伸・大西秀次郎・大森浩二・斎藤光代・佐川拓也・柴田淳也・濱岡秀樹・藤井直紀・武岡英隆:大分県別府湾に発達する底層無酸素水塊の挙動, 古海洋シンポジウム, 東京, 2010年1月, 口頭.
- 30) 柴田淳也・國弘忠生・磯中竜一・濱岡秀樹・松元一将・南口哲也・曾我部篤・大西秀次郎・大森浩二:瀬戸内海における低次栄養段階生物の安定同位体比分布と栄養構造, 日本生態学会第57回全国大会, p.244, 東京, 2010年3月, 口頭.
- 31) 小森田智大・郭新宇・藤井直紀・吉江直樹・國弘忠生・武岡英隆(2010.3, 東京) 夏季の伊予灘における底部冷水II:栄養塩動態. 海洋学会, 口頭.
- 32) 松元一将・柴田淳也・曾我部篤・濱岡秀樹・南口哲也・磯中竜一・國弘忠生・大西秀次郎・大森浩二:炭素・窒素安定同位体比分析を用いた瀬戸内海海域における食物網構造の解明. 日本生態学会第57回全国大会, 日本生態学会第57回全国大会, p. 512, 東京, 2010年3月.
- 33) 國弘忠生・大森浩二・伊藤克敏・堤 裕昭:魚類養殖場由來の有機物が与える海底の微生物群集への影響, 日本生態学会第57回全国大会, p. 322, 東京, 2010年3月.
- 34) 柴田淳也・苅部 甚一・大石 麻美子・山口 真奈・合田 幸子・奥田 昇:湖沼水系における在来魚生息地ネットワークの好適性評価:安定同位体を用いた魚類の移動推定, 第56回日本生態学会, 岩手, 2009年3月, 口頭

5. 学会及び社会における活動



(平成21年度)

5. 1 併任・委員会委員等

環境動態解析部門

武岡 英隆

- 1) 佐賀大学有明海総合研究プロジェクト外部評価委員会委員, 佐賀大学
- 2) シーズ発掘試験査読評価委員, 独立行政法人科学技術振興機構
- 3) 重信川の自然を育む会アドバイザー, 国土交通省四国地方整備局松山河川国道事務所
- 4) 愛媛海区漁業調整委員会委員, 愛媛県
- 5) 愛媛県環境審議会委員, 愛媛県
- 6) 愛媛県環境創造センター客員研究員, 愛媛県
- 7) 伊方原子力発電所環境安全管理委員会委員, 愛媛県
- 8) 愛媛県環境影響評価審査会委員, 愛媛県
- 9) 愛媛県科学技術振興会議委員, 愛媛県

郭 新宇

- 1) 招聘主任研究員, 独立行政法人海洋研究開発機構地球環境変動領域
- 2) 客員研究員, 国家海洋局第二海洋研究所(中国)

半藤 逸樹

- 1) 総合地球環境学研究所 地球研プロジェクトアドバイザー

化学・毒性解析部門

田辺 信介

- 1) 客員教授, 東京大学海洋研究所
- 2) 客員教授, 中国・南京大学環境学院
- 3) 客員研究員, 独立行政法人国立環境研究所
- 4) 客員研究員, 財団法人山階鳥類研究所
- 5) 科学技術・学術審議会専門委員(学術分科会), 文部科学省
- 6) 科学技術動向研究センター専門調査員, 文部科学省
- 7) 科学研究費委員会専門委員, 独立行政法人日本学術振興会
- 8) 「魅力ある大学院教育」イニシアチブ委員会事後評価部会専門委員, 独立行政法人日本学術振興会
- 9) 國際科学技術協力推進委員, 独立行政法人日本科学技術振興機構
- 10) IOC 協力推進委員会海洋環境・生物圏国内専門部会委員, 独立行政法人海洋研究開発機構
- 11) 日本学術会議連携会員, 日本学術会議
- 12) 中央環境審議会環境保健部会化学物質審査小委員会委員, 環境省
- 13) 地球環境研究企画委員会第2研究分科会委員, 環境省
- 14) 新規 POPs 等研究会委員, 環境省
- 15) POPs 条約有効性評価国内検討委員会委員, 環境省
- 16) 非意図的生成 POPs に係わる BAT 及び BET 検討会委員, 環境省
- 17) 臭素系ダイオキシン類の排出源情報の収集・整理に関する調査業務の検討会委員, 環境省
- 18) 臭素化ダイオキシンの人への健康影響調査に関する検討会委員, 環境省
- 19) 「海洋環境保全調査」に係る海洋環境モニタリング調査検討会検討員, 環境省

- 20) ポリ塩化ビフェニール廃棄物処理事業検討会委員, 環境省
- 21) ポリ塩化ビフェニール廃棄物処理事業検討委員会大阪事業部会委員, 環境省
- 22) ポリ塩化ビフェニール廃棄物処理事業検討委員会北九州事業部会委員, 環境省
- 23) 微量 PCBs 混入廃電気機器等処理実証試験検討委員会委員, 環境省
- 24) 野生生物のダイオキシン類蓄積調査の解説資料作成業務における検討委員, 環境省
- 25) 先端技術を活用した農林水産研究高度化事業専門評価委員, 社団法人農林水産技術情報協会
- 26) 愛媛県環境審議会委員, 愛媛県
- 27) 愛媛県環境創造センター客員研究員, 愛媛県
- 28) 愛媛県衛生環境評価専門部会委員, 愛媛県
- 29) 愛媛県廃棄物処理センター理事, 愛媛県
- 30) 西条市環境審議会委員長, 愛媛県西条市
- 31) 環境問題助成研究懇談会委員, 日本生命財団
- 32) 日本しろあり対策協会四国支部支部長, 社団法人日本しろあり対策協会
- 33) 日本しろあり対策協会理事, 社団法人日本しろあり対策協会
- 34) External Assessor for Appointments to the Post of Associate Professor/Professor in the Faculty of Applied Science and Technology, Universiti Putra Malaysia
- 35) External Assessor for Promotion to Professorship, City University of Hong Kong
- 36) External Reviewer for Ocean Park Projects in Hong Kong
- 37) External Referee for University Grants Committee in Hong Kong

岩田 久人

- 1) 環境試料タイムカプセル事業検討会委員, 独立行政法人国立環境研究所
- 2) 化学物質の内分泌かく乱作用に関する報告の信頼性評価作業班検討員, 環境省
- 3) 東京大学大学院医学系研究科非常勤講師

高菅 卓三

- 1) 環境省 黄砂問題検討会 黄砂実態解明調査解析ワーキンググループ委員
- 2) 極微量物質研究会技術顧問, (社)日本環境測定分析協会
- 3) 環境省 環境調査研修所 ダイオキシン類排ガスコース(中級)講師
- 4) 平成21年度工業用水・工場排水中の PFOS/PFOA 測定方法の工業標準化委員会委員
- 5) 試験所審査員, (財)日本適合性認定協会
- 6) MLAP 技術アドバイザー, (独)製品評価技術基盤機構 (NITE) 認定センター
- 7) 環境組成標準物質開発委員会委員, 日本分析化学会
- 8) ダイオキシン分析技術セミナー委員及び講師, 日本分析化学会

高橋 真

- 1) 客員研究員, 独立行政法人国立環境研究所
- 2) 非意図的生成 POPs に係る BAT 及び BEP 検討会委員, 環境省
- 3) 愛媛県廃棄物処理施設設置審査委員, 愛媛県

生態系解析部門

鈴木 聰

- 1) スクリーニングアセスメント委員, カナダ環境省・厚生省
- 2) 書面審査専門評価委員, 社団法人農林水産技術情報協会

大森 浩二

- 1) 河川・溪流アドバイザー, 胴川・野村ダム, 国土交通省
- 2) 流況変動研究委員会委員, ダム水源地環境整備センター
- 3) 水源地生態研究会議委員, ダム水源地環境整備センター

- 4) 山鳥坂ダム環境検討委員会, 国土交通省
- 5) 河川・溪流アドバイザー, 重信川, 国土交通省
- 6) 四国ダムフォローアップ委員会, 国土交通省
- 7) 胴川清流保全委員会, 国土交通省, 大洲市ほか
- 8) 胴川水系流域委員会, 国土交通省
- 9) 早明浦ダム濁水検討委員会, 国土交通省

5. 2 学協会委員等

環境動態解析部門

武岡 英隆

- 1) 評議員, 日本海洋学会
- 2) 委員, 日本海洋学会沿岸海洋研究部会
- 3) 理事,瀬戸内海研究会議

郭 新宇

- 1) 編集委員, 日本海洋学会学会誌「海の研究」
- 2) 編集委員, 日本海洋学会学会誌「Journal of Oceanography」

磯辺 篤彦

- 1) 評議員, 日本海洋学会
- 2) 委員, 日本海洋学会沿岸海洋研究部会

吉江 直樹

- 1) 運営委員, 北太平洋海洋科学機構/国際海洋探査委員会 若手研究者総会

化学汚染・毒性解析部門

田辺 信介

- 1) 理事, 内分泌搅乱化学物質学会
- 2) 評議員, 日本環境化学会
- 3) 評議員, 日本環境科学会
- 4) 副編集委員長, 日本環境毒性学会
- 5) 生態学琵琶湖賞選考委員, 日本生態学会
- 6) Editorial Board Member, Marine Environmental Research (Elsevier)
- 7) Editorial Board Member, Marine Pollution Bulletin (Pergamon)
- 8) Editorial Board Member, Australasian Journal of Ecotoxicology (Australasian Society for Ecotoxicology)
- 9) Editorial Board Member, Environmental Geochemistry and Health (Kluwer Academic Publishers)
- 10) Editorial Board Member, Environmental Sciences (MY Research)
- 11) Editorial Board Member, Archives of Environmental Contamination and Toxicology (Springer)
- 12) Editorial Board Member, International Journal of Applied Environmental Sciences (Research India Publications)
- 13) Editorial Board Member, Journal of Environmental Monitoring (RSC Publishing)
- 14) Editorial Advisory Board Member, Environmental Chemistry (CSIRO Publishing)

岩田 久人

- 1) Editorial Board Member, The Scientific World (The Scientific World)
- 2) Editorial Board Member, Journal of Toxicology, Hindawi Publishing Corporation
- 3) Editorial Board Member, Journal of Marine Biology, Hindawi Publishing Corporation

5. 学会及び社会における活動

高菅 卓三

- 評議員及び幹事, 日本環境化学会

磯部 友彦

- 水環境と洗剤研究委員会委員長, 日本水環境学会

生態系解析分野

鈴木 聰

- 評議員, マリンバイオテクノロジー学会
- 評議員, 日本微生物生態学会
- 編集委員, Microbes and Environments, 日本微生物生態学会

北村 真一

- 編集委員, Journal of Fish Pathology, 韓国魚病学会

大森 浩二

- 愛媛県県幹事, 日本生態学会
- 和文誌編集委員, 応用生態工学会

5. 3 学会, 講演会などの開催 (センター主催または共催)

- 愛媛大学沿岸環境科学研究センター設立10周年記念行事

期日：平成21年8月21日(金) 13:00～19:30

会場：松山全日空ホテル ダイヤモンドボールルーム

記念シンポジウム

— 環境問題の現状と展望 —

挨拶

沿岸環境科学研究センター (CMES) センター長 武岡 英隆

第1部 環境問題の現状と展望

限界にきた地球の海—悪化する環境と資源

東京農業大学・北京大学教授, 元ザンビア大使 石 弘之

Studies on Chemical Pollution in Developing Countries—Contribution by CMES, Ehime University (途上国の化学汚染研究と沿岸環境科学研究センターの貢献)

CMES 特命教授 Annamalai Subramanian

瀬戸内海の環境と生態系—その変遷と再生方策をめぐる新たな動き

瀬戸内海研究会議会長, 広島大学名誉教授 松田 治

第2部 沿岸環境科学研究センターの現状と展望

環境動態解析部門

CMES 教授 磯辺 篤彦

化学汚染・毒性解析部門

CMES 教授 岩田 久人

生態系解析部門

CMES 教授 鈴木 聰

沿岸環境科学研究センターの将来構想

CMES 教授 鈴木 聰

記念式典

学長挨拶

愛媛大学長 柳沢 康信

来賓祝辞

愛媛県知事 加戸 守行 様

文部科学省研究振興局長 磯田 文雄 様

環境省地球環境局長 寺田 達志 様
松山市長 中村 時広 様

沿岸環境科学研究センター10年の歩み 一瀬戸内海から世界へ—

CMES センター長 武岡 英隆

沿岸環境科学研究センター教員紹介

2) 第7回 グローバル COE 若手の会特別セミナー

期日：平成21年4月24日(金) 17:00～18:00

会場：愛媛大学 総合研究棟 増築棟4階会議室

「核内レセプターによる肝臓毒性発現の分子機序」

東京医科歯科大学難治疾患研究所メディカル・トップトラック (MTT) プログラム,

MTTフェロー (特任講師) 獣医学博士 山本 幸男

3) 第8回 グローバル COE 若手の会特別セミナー

期日：平成21年5月29日(金) 16:30～18:00

会場：愛媛大学 理学部講義棟 201号室

「Environmental levels and associated biological effects of some endocrine disrupting compounds : a case study on organotin compounds and imposex along the Portuguese Coast.」

Aveiro University (Portugal) Ms. Ana Catarina Almeida Sousa

「Cost-Effective Methods for Monitoring Environmental Contamination in Transitional Waters.」

Aveiro University (Portugal) Dr. Manuel Ramiro Dias Pastorinho

4) 第13回 グローバル COE 特別セミナー

期日：平成21年6月4日(木) 14:30～16:30

会場：愛媛大学 総合研究棟1 6階会議室

「有害物質によるワニの内分泌搅乱」

「アメリカ合衆国フロリダ州の水圏生態汚染」

フロリダ大学生物学科 ハワードヒューズ医学研究所 教授 Louis J. Guillette Jr.

5) 第9回 グローバル COE 若手の会特別セミナー

期日：平成21年6月26日(金) 16:00～18:00

会場：愛媛大学 総合研究棟1 増築棟 4階会議室

「機能性食品成分の生体応答の分子機構」

九州大学先端融合医療レドックスナビ研究拠点・学術研究員
農学博士 藤村 由紀

6) 第14回 グローバル COE 特別セミナー

期日：平成21年6月29日(月) 11:00～12:00

会場：愛媛大学 総合研究棟1 6階会議室

「DNA 付加体の網羅的解析：特異的な DNA 付加体の検出と DNA 損傷のマッピングについて」

横浜市立大学 国際総合科学部環境生命コース 生命ナノシステム科学研究所
准教授 Robert A. Kanaly

7) 第10回 グローバル COE 若手の会特別セミナー

期日：平成21年7月9日(木) 16:00～18:00

会場：愛媛大学 総合研究棟1 増築棟 4階会議室

「海洋細菌群集の時空間動態と炭素循環：数理モデルによる解析」

國立台灣大學海洋研究所 助理教授 三木 健

8) 第15回 グローバル COE 特別セミナー

期日：平成21年7月15日(水) 10:00～12:00

会場：愛媛大学 理学部構内 総合研究棟1 6階会議室

「バクテリアの抗生素質耐性：可動遺伝子の獲得と伝達」

アベイロ大学生物学科 海洋環境研究所 (CESAM), Professor Auxiliar Dr. Sonia Mendo

「ポルトガルにおける TBT 汚染の空間的時間的变化」

アベイロ大学生物学科 海洋環境研究所 (CESAM), Professor Auxiliau

Dr. Calros Miguel Miguez Barroso

9) グローバル COE プログラム国際シンポジウム

Interdisciplinary Symposium

"BIOLOGICAL RESPONSES TO CHEMICAL CONTAMINANTS : from molecular to community level"

期日：平成21年9月2日(木)～4日(金)

会場：ポルトガル アヴェイロ大学

Wednesday, September 2

Welcome Address : Sónia Mendo, University of Aveiro, Portugal

Introduction : Shinsuke Tanabe, Ehime University, Japan

Introduction of Gcoe Program

Introduction : Amadeu Soares, University of Aveiro, Portugal

The Biology of Chemical Contaminants Post-Graduate Research Program in Aveiro

[**Chair : Sónia Mendo**]

Opening Lecture : Satoru Suzuki, Ehime University, Japan

Drug-Resistant Bacteria in Asian Aquatic Environments

Lecture : Isabel Henriques, University of Aveiro, Portugal

The Environmental Antibiotic Residue ; New Insights from Culture-Independent and Culture-Dependent Approaches

[**Chair : Isabel Henriques**]

Lecture : Kornelia Smalla, Julius Kühn Institute, Germany

Effect of Veterinary Medicines Introduced via Manure into Soil on Microbial Communities

Phan Hoa Thi Phuong, Ehime University, Japan

Abundance of Sulfonamide-Resistant Bacteria and their Resistance Genes in Integrated Aquaculture-Agriculture Ponds, North Vietnam

Rafael S Custódio, University of Aveiro, Portugal

Antibiotic Resistance Patterns and Virulence Factors of AEROMONAS spp. from Aquacultures and Drinking Waters Pathmaral Manage, University of Sri Jayewardenepura, Sri Lanka

Isolation and Identification of Novel Microcystin Degrading Actinobacteria from Surface Waters

[**Chair : Mei-Fang Chien**]

Lecture : Ji-Dong Gu, University of Hong Kong , Hong Kong

Enantioselective Degradation and Unidirectional Chiral Inversion of 2-Phenylbutyric Acid, an Intermediate form Linear Alkylbenzene, by *XANTHOBACTER FLAVUS PA1*

Isabelle Vitte, Université De Pau et des Pays Del' Adour, France

Bacterial Community Succession and Hydrocarbon Degradation in an Industrial Sludge during Redox Oscillations

Naoko Yoshida, Kyoto University, Japan

Reductive Dechlorination of Chlorinated Aromatic Compounds

Francisco Coelho, University of Aveiro, Portugal

Pah Degrading Bacterial Community in an Estuarine System

Thursday, September 3

[Chair : Tetsuro Agusa]

Lecture : Corina Ciocan, University of Sussex, UK

Endocrine Disruption, Reproduction Cycle and Pollutants in Blue Mussel, *MYTILUS EDULIS*

Patrícia Nogueira, University of Aveiro, Portugal

Anchoring Novel Molecular Biomarker Responses to Traditional Responses in Fish Exposed to Environmental Contaminants

Ana Sousa, University of Aviero, Portugal & Ehime University, Japan

Historical Perspective of Imposex and Organotin Contamination along the Portuguese Coast

Lecture : José M Ruiz, University of Coruña, Spain

Insidious Maritime Pollution : Beyond Black Tides

[Chair : Susana Loureiro]

Lecture : Hisato Iwata, Ehime University, Japan

Disruption of Aryl Hydrocarbon Receptor-Cytochrome P450 1A Signaling Pathway by Dioxin-Like Chemicals in Wildlife

Joana Lourenço, University of Aveiro, Portugal

New Genotoxic Endpoints for the Earthworm Reproduction Assay

Friday, September 4

[Chair : Carlos Barroso]

Lecture : Ruth Pereira, University of Aveiro, Portugal

From Bacteria to Vertebrates : Integrating Different Trophic Levels in the Risk Assessment of Contaminated Sites

Tetsuro Agusa, Shimane University, Japan

Interindividual Variation in Arsenic Metabolism in a Vietnamese Population : Association with Single Nucleotide Polymorphisms in *AS3MT*

Susana Il Gomes, University of Aveiro, Portugal

Effects of Cu-Nanoparticles Versus Cu²⁺ in *ENchytraeus ALBIDUS* (Oligochaeta) : Differential Gene Expression Through Microarray Analysis

Susana Loureiro, University of Aveiro, Portugal

Interpretation and Predictability of Effects Caused by a Combination of Natural and Non-Natural Stressors to *DAPHNIA MAGNA*

[Chair : Ji-Dong Gu]

Lecture : Chieh-Chen Huang, National Chung University, Taiwan

Bacterial Mercury Resistance and its' Application in Bioremediation

Mei-Fang Chien, Ehime University, Japan

Distribution of Mercury Resistance Determinants in highly Mercury Polluted Area of Taiwan

Natsuko Hamamura, Ehime University, Japan

Geomicrobiology of Arsenic

Andreia Cruz, University of Aveiro, Portugal&Ehime University, Japan

AEROMONAS MOLLUSCORUM AV27 : A Potential Natural Tool for TBT Decontamination

[Chair : Natsuko Hamamura]

Lecture : Marko Virta, University of Helsinki, Finland

Measuring Bioavailability of Metals and Xenobiotics with Biosensors and Bioreporters

Pensri Plangklang, Chulalongkorn University, Thailand

Biodegradation of Carbofuran in Sequencing Batch Reactor Augmented with the Immobilized *BURKHOLDERIA* SP. PCL3 on Corn cob

Lecture : Newton Gomes, University of Aveiro, Portugal

Rhizosphere Microbial Communities in Oil Polluted Urban Mangroves : Insights Gained by Massively Parallel Pyrosequencing

Poster Session

Even Number : September 2, 16 : 40-17 : 40

Odd Number : September 2, 17 : 40-18 : 40

- P-01 Raquel Silva, Pereira F, Carneiro J, Sobral O, Ribeiro R, Amorim A, Soares A, Lopesl : Genetic diversity in *Daphnia longispina* lineages isolated from a metalcontaminated site
- P-02 Teresa Santos, Maria Pereira, Terdalkar S, Morgado F, CostaF : Histopathologicmatal alterations due to lead accumulation in *Dicentrarchus labrax* tissues
- P-03 Patrícia Pereira, Pablo H, Vale C, Pacheco M : Assessment of a coastal system contamination (Obidos Lagoon, Portugal) by metals accumulation and oxidative stress in *Ulva* sp. - An integrated biomarker approach
- P-04 Ramiro Pastorinho, Takahashi S, Itai T, Omori K, Nogueira A, Tanabe SO : Characterization of trace metals biomagnification in a coastal lagoon (Ria de Aveiro) food web using stable isotopes
- P-05 Sónia Pascoal, Carbalho G, Hughes R, Hall N, Cossins A, Miguez C, Mendo S, Creers : Environmental genomics of the marine gastropod *Nucella lapillus* in response to organotin pollution
- P-06 Vanessa Oliveira, Quinta D, Loureiro S, Duque P, Soares A : Role of *Arabidopsis thaliana* stress - response genes in heavy metal tolerance
- P-07 Rhaul Oliveira, Domingues I, Grisória K, Soares A: Effects of triclosan on zebrafish early - life stages and adults
- P-08 Sonia Manzo, Picione F, Rocco A, Carotenuto R: Soil toxicity evaluation by different ecotoxicological approaches
- P-09 António Louvado, Santos A, Coelho F, Sousa S, Moreira A, Comes F, Almeida A, Comes N, Cunha A : Isolation of surfactant - resistant bacteria from the surface microlayer
- P-10 Isabel Lopes, Ribeiro R, Antunes F, Santos T, Soares A, Gonçalves F, Pereira R : Ecoand genotoxicity to bacteria of aqueous media contaminated with eight nanomaterials
- P-11 Nuno Ferreira, Rosário F, Domingues I, Calhôa C, Soares A, Loureiro S : Basal levels of biomarkers and energetic reserves in *Porcellionides pruinosus*
- P-12 Nuno Ferreira, Rosário F, Domingues I, Calhôa C, Soares A, Loureiro S : Biomarkers and energetic reserves in isopods : tools to assess stress exposure
- P-13 Maria Pavlaki, Rerreira N, Soares A, Loureiro S: The use of biomarkers to assess effects of binary combinations of chemical and natural stressors to *Daphnia magna*
- P-14 Inês Domingues, Oliceira R, Lourenço J, Grisolia C, Mendo S, Soares A : Toxicity of chromium VI to zebrafish early - life stages and adults
- P-15 Chui Wei Bong Malfatti F, Azam F, Obayashi Y, Suzuki S : Effect of zinc on bacteria production and proteolytic activity in seawater
- P-16 Cátia Arrojado, Santos A, Pereira C, Carvalho C, TÔMÉ J, Faustino M, Neves M, Tomé A, Cavaleiro J, Cunha A, Comes N, Almeida A : The influence of different moisture levels in soil organisms
- P-17 Maria Lima, Loureiro S, Soares A : The use of biomarkers to assess effects of binary combinations of chemical and natural stressors to *Daphnia magna*
- P-18 Maria Lima, Brito D, Loureiro S, Soares A : The influence of temperature in the toxicity of carbaryl to *Eisenia andrei* (Annelida : Oligochaeta)
- P-19 Maria Lima, Loureiro S, Soares A : Combined effect of natural stressor (soil moisture) and chemical stressor (pesticide carbaryl) on edaphic organisms and plants
- P-20 Alexandra Moura, Henrique I, Correia A, Smalla K : Insights into the mobile gene pool of wastewater bacterial communities
- P-21 Sérgio Marques, Antunes S, Gonçalves F, Pereira R : Biomarkers in Iberian green frog (*Rana perezi* Seoane) inhabiting an abandoned uranium mine
- P-22 Filipe Laranjeiro, Barroso C : Integrative approach for the assessment of TBT pollution in estuarine areas
- P-23 Sofia Guilherme, Pereira M, Santos M, Pacheco M : Mercury distribution in key tissues of caged fish (*Liza aurata*) along an environmental mercury contamination gradient

- P-24 Juliana Gadelha, Soares A, Abreu S, Morgado F : Mercury bioaccumulation and post exposition depuration in *Anemonia sulcata* (Pennant, 1777) from Iberian coast
- P-25 Guo-Chun Ding, Heuer H, Smalla K: Diversity and abundance of PAH - ring hydroxylating dioxygenase (*pah* □*rhda*) genes in two phenanthrene contaminated arable soils
- P-26 Maria Amaral, Carretero M, Guarino F, Bicho R, Soares A, Mann R : A comprehensive approach to reptile ecotoxicology in Europe using lacertids as sentinel organisms : population dynamics and demography
- P-27 Joanne Peréz, Loureiro S, Soares A : Binary mixture toxicity to algae and insect larvae : transposing to the lab the case study of the Alqueva reservoir
- P-28 Sizenando Abreu, Rodrigues A, Gadelha J, Morgado F, Soares A : Mercury depuration in *Pomatoschistus microps* during acclimatation
- P-29 Sónia Ventura, Gonçalves A, Gonçalves F, Coutinho J : Toxicity evaluation of immiscible aromatic and non - aromatic ionic liquids on non - target aquatic organisms
- P-30 Miguel Santos, Ferreira N, Soares A, Loureiro S : Use of biomarkers to assess toxic effects of exposure of molluscicide baits to the terrestrial isopod *Porcellionides pruiniosus*
- P-31 Fabianne Ribeiro, Loureiro S, Soares A: Effects of binary combinations of cadmium, carbendazim and ultraviolet radiation on *Daphnia magna*
- P-32 Carlos Pinheiro, Oliceira V, Loureiro S, Amorim M, Chambers P, Furtula V, Wrona F, Soares A: Ecotoxicity assessment of veterinary pharmaceuticals used as food additives in the poultry industry
- P-33 Helena Oliveira, Santos C, Pereira M : Adverse effects of cadmium chloride exposure on male mice fertility
- P-34 Sara Novais, Gomes S, Gravato C, Amorim M, Guilhermino L, Soares A, Coen W: Responses in *Enchytraeus albidus* (Oligochaeta) exposed to heavy - metals : effects at different levels of biological organization
- P-35 Rikke Monberg, Rasmussen J : Impact of pesticides on hyphomycetes leaf processing and macroinvertebrate shredding activity
- P-36 Karina Banci, Pinheiro M, Oliceira M: The influence of heavy metals on the genetic diversity of *Ucides cordatus* (Linnaeus, 1763) (Brachyura, Ocipodidae) in mangroves from Sao Paulo's Coastline
- P-37 Susana Galante-Oliceira, Oliceira I, Ferreira N, Pacheco M, Barroso C: Imposex levels and tributyltin (TBT) pollution along the Portuguese coast between 2000 and 2008 : evaluation of legislation effectiveness
- P-38 Shin Takahashi, Ramu K, Isobe T, Toyoshima S, Oshiohi T, Ohmori K, Kubodera T, Nishida S, Tanabe S : Persistent toxic substances in deep - sea ecosystems around Japan : Its status of contamination, distribution and bioaccumulation

10) 第2回 グローバル COE ワークショップ

期日：平成21年9月11日(金)～12日(土)

会場：愛媛大学 総合研究棟1 6階会議室／es-BANK 棟

【講 演】

9月11日(金) 13:00～16:00

「海棲哺乳類の健康に及ぼすバイオトキシンの影響」

米国 カルフォルニア州ソーサリート海棲哺乳類センター獣医学局長

Dr. Frances Gulland

「米国海洋生態系における化学汚染の実態：海棲哺乳類の健康影響」

米国 海洋環境研究所 (MERI) 所長 Dr. Susan D. Shaw

【解 剖】

9月12日(土) 9:00～17:00

「シワハイルカおよびスナメリの解剖」

5. 学会及び社会における活動

11) 第16回 グローバル COE 特別セミナー

期日：平成21年9月18日(金) 13:00～15:00

会場：愛媛大学 理学部構内 総合研究棟1 増築棟 4階会議室

「微生物によるマンガン酸化物形成と希少元素類の相互作用」

「堆積物中の光合成色素を指標とした湖沼環境変遷の解析」

静岡県立大学環境科学研究所 大学院生活健康科学研究科 准教授 谷 幸則

12) 第11回グローバル COE 若手の会特別セミナー

期日：平成21年10月2日(金) 15:30～17:30

会場：愛媛大学 総合研究棟1 増築棟 4階会議室

「哺乳類大脳皮質層構造の進化的起源と神経幹細胞ダイナミクスの変更」

国立遺伝学研究所 遺伝情報分析研究室 博士課程学生 鈴木 郁夫

13) 第12回グローバル COE 若手の会特別セミナー

期日：平成21年10月19日(木) 12:30～13:30

会場：愛媛大学 総合研究棟2 2階演習室

「海洋微生物ループで誰が何をしているのか？－細胞外酵素活性の研究から」

横浜国立大学 工学部 物質工学科 研究教員 大林由美子

14) 第17回 グローバル COE 特別セミナー

期日：平成21年10月22日(木) 10:00～11:00

会場：愛媛大学 理学部構内 総合研究棟1 6階会議室

「窒素循環における硝化細菌の役割：

アンモニア酸化細菌の代替基質特異性を利用した環境浄化」

Dean of the University Honors College, Department of Botany and Plant Pathology

Distinguished Professor, Oregon State University Dr. Dan Arp

15) 第18回 グローバル COE 特別セミナー

期日：平成21年10月26日(木) 10:00～11:00

会場：愛媛大学 総合研究棟1 増築棟 4階会議室

「From Diversity to Genomics of Marine and Extreme Microorganisms」

Principal Research Scientist, KORDI (Korean Ocean Research and Development Institute)

and Professor of the Department of Marine Biotechnology, University of Science

and Technology, Ansan, Korea, Dr. Sang-Jin Kim

16) 第19回 グローバル COE 特別セミナー

期日：平成21年11月4日(水) 10:00～12:00

会場：愛媛大学 総合研究棟1 理学部 6階会議室

「DIVERSITY AND EVOLUTION OF CYTOCHROME P450 GENES IN ANIMALS」

Biology Department, Woods Hole Oceanographic Institution Dr. John Stegeman

17) 第13回 グローバル COE 若手の会特別セミナー

期日：平成21年11月27日(金) 16:00～18:00

会場：愛媛大学 総合研究棟1 6階会議室

「サプリメント(栄養補助食品)の安全性評価～トリプトファン事故を振り返って～」

川崎医科大学 自然科学教室 助教 岡本 威明

「マウスをモデルとした実験室内進化実験の試み」

大阪大学大学院生命機能研究科 特任研究員 内村 有邦

18) International Symposium on Environmental Specimen Bank (ESB Symp. 2009)

-Exploring Possibility of Setting-up ESBs in Developing Countries-

期日：平成21年12月3日(木)～5日(土)

会場：愛媛大学城北キャンパス（メディアセンター）

[Chairperson] Prof. Yasunobu Yanagisawa (President, Ehime University)

[Organizing Committee]

The symposium hosted by the Ministry of Education, Culture, Sports, Science and Technology of Japan (MEXT) and Japan Society for the Promotion of Science (JSPS) is organized by the committee of the Global Center of Excellence (COE) Program for Interdisciplinary Studies on Environmental Chemistry, Ehime University, Japan. Center for Marine Environmental Studies (CMES), Ehime University contributes substantially to this symposium.

[Organizing Committee in Ehime University]

Prof. Shinsuke Tanabe (Project Leader of Global COE Program, Ehime University)

Prof. Hidetaka Takeoka (Director, CMES, Ehime University)

Prof. Annamalai Subramanian (Secretariat, Ehime University)

Dr. Shin Takahashi (Associate Prof., Ehime University)

Dr. Tomohiko Isobe (Senior Research Fellow, Ehime University)

Dr. Kei Nomiyama (Assistant Prof., Ehime University)

Dr. Takaaki Itai (Assistant Prof., Ehime University)

Dr. Kwang-Hyeon Chang (G-COE Associate Prof., Ehime University)

Dr. Sawako Horai Hirata (G-COE Assistant Prof., Ehime University)

Mr. Masayuki Someya (Doctoral Student, CMES, Ehime University)

[International Academic Steering Committee]

Dr. Paul Becker (National Institute of Standards and Technology, USA)

Prof. Andreas Gies (Federal Environment Agency (UBA), Germany)

Prof. Kurunthachalam Kannan (New York State University, USA)

Dr. Yasuyuki Shibata (National Institute for Environmental Studies, Japan)

Thursday, December 3

<Session 1>

Chairs : Tomohiko Isobe and Kwadwo Ansong Asante

K-1 Paul Becker Thirty Years of Progress in Environmental Specimen Banking

O-1 John Kucklick Specimen Banking for Marine Animal Health Assessment

O-2 Kurunthachalam Utility of Archived Samples from Environmental Specimen Bank in Kannan Understanding Spatial and Temporal Trends of Perfluorinated Compounds

O-3 Birgit Braune Environment Canada's Wildlife Specimen Bank : Research Opportunities and a Window to the Past
Continued Chairs : Sawako Horai Hirata and Natsuko

O-4 Rebecca S. Pugh The Marine Environmental Specimen Bank (Marine ESB), a Research and Environmental Monitoring Resource

O-5 Tatsuya Kunisue Analysis of Thyroid Hormones in Thyroid Glands of Perchlorate-administered Rats by Liquid Chromatography-Tandem Mass Spectrometry : Potential Application to Samples Stored in es-Bank of Ehime University

O-6 Gilberto Fillmann Specimen Banking of Marine Organisms in the Southern Brazil : Status and Outcomes
Continued Chairs : Takaaki Itai and Govindan Malarvannan

O-7 Haruhiko Nakata Benzotriazole UV Stabilizers (BUVSs) in Wastewater Treatment Plants in Japan- Source Identification of BUVSSs in the Environment

O-8 Tomohiko Isobe Spatial and Temporal Trend Study on Environmental Pollution by Brominated Flame Retardants

Using Archived Samples

- O-9 Kei Nomiyama Comprehensive Study on Hydroxylated Polychlorinated Biphenyls in the Blood of Cetaceans, Including Toothed Whales and Baleen Whales Stranded at the Japanese Coast
- O-10 Sawako H. Hirata Environmental Monitoring of Trace Elements Using Marine Mammals As Bioindicators -Species Specific Accumulation and Temporal Trend Analysis-
- O-11 Thuruthippallil Risk Assessment of Dioxins in the North Pacific Black-Footed Albatross
Leena Mol Based on CYP1A Transactivation Potencies of the Aryl Hydrocarbon Receptor 1 and 2 (AhR1 and AhR2)

<Session 2>

Chairs : Shin Takahashi and Masayuki Someya

- K-2 Andreas Gies Environmental Specimen Bank within the Context of Environmental Policy in Germany
- O-12 Heinz Ruedel Retrospective Monitoring of Perfluorinated Compounds in Archived Marine Bird Eggs from German Coastal Waters
- O-13 Paul Bartels Biological Resource Bank - Wildlife Tissue Specimens for Environmental Chemical Monitoring & Discovery in Southern Africa
- O-14 Olivier F. X. The ORQUE and OPE Projects : A Joint French Effort in Specimen Donard Banking Progresses and Objectives
- O-15 David Point Using Mercury Stable Isotopes Fractionation in Archived Arctic Specimens to Unravel the Effect of Climate Change on Mercury Ecological and Global Geochemical Cycle
- O-16 runo Cozzi Conservation of Cetacean Specimens : A Tool to Monitor the Health of the Mediterranean Sea
Continued Chairs : Kei Nomiyama and Agus Sudaryanto
- O-17 Marike Providing Integrative Tools from Human and Environmental Monitoring Kolossa-Gehring for Today's Chemical Risk Assessment
- O-18 Jan Koschorreck An EU Perspective on the Harmonisation of Environmental SpecimenBanking
- O-19 José Vítor Marine Vertebrates Tissue and Specimen Bank of Portugal and Galicia : Vingada Current Status and Long-Term Perspectives
- O-20 Martin Paulus Climate Impact Research - Contributions and Options of the German ESB

<Session 3>

Chairs : Hiroshi Ishibashi and Tatsuya Kunisue

- O-21 Won Joon Shim Introduction of Library for Marine Samples in KORDI and Case Studies Using Archived Marine Samples in Korea
- O-22 Paul Kwan Sing Status and Trends of Persistent Organic Pollutants in the South China Sea Region with Special Reference to Marine Cetaceans and Waterbird Eggs
- O-23 Natesan Status of Trace Metal Contamination in the Biota of Ecologically Sensitive Munuswamy Areas of Chennai - An Overview for the Scope of Marine Environmental Specimen Bank in India
- O-24 Pham Hung Viet Towards Possibility to Establish Environmental Specimen Banking for Environmental Pollution Research in Vietnam : Challenges, Future Perspectives, and the Present Results in Spatial and Temporal Trends of Contamination Using Sample Specimens from Vietnamese
- O-25 Ridwan Specimen Banking in Indonesia : Current Status and Possible Development Djamiluddin
- O-26 Annamalai Pollution Trends in India - Evidence for Need of an Environmental Subramanian Specimen Bank

Saturday, December 5

<Session 3>

Chairs : Takumi Takasuga and Kwang-Hyeon Chang

- K-3 Yasuyuki Shibata Environmental Monitoring of POPs / New POPs Chemicals in the Time Capsule Program - Bio-monitoring and Specimen Banking at the National Institute for Environmental Studies, Japan -
- O-27 Jochen Mueller Age and Temporal Trends of Organic Pollutants in the Australian Population

O-28 Myungjin Kim The National Environmental Specimen Bank : Establishment and Operation

General Discussion

Closing Ceremony

Workshop

Poster Sessions

- P-01 Nguyen Ngoc Ha : Soil Contamination by Trace Elements at E-waste Recycling Sites in Vietnam and India
- P-02 Daisuke Hayase : Distribution and Biomagnification of Arsenic Species in the Deep-sea Food Web of Sagami Bay, Japan
- P-03 Takaaki Itai : Variations in the Redox State of As and Fe Measured by X-ray Absorption Spectroscopy in Aquifers of Bangladesh and Their Effect on As Adsorption
- P-04 Tetsuro Agusa : Association of Inorganic Arsenic Metabolism with Genetic Polymorphisms of GST Isoforms in North Vietnamese Populations : Utilization of Stored Samples in the Environmental Specimen Bank of Ehime University
- P-05 Akinori Takeuchi : Red Stingray (*Dasyatis akajei*) Livers from Tokyo Bay, Japan as NIES Environmental Specimen Banking Samples : Aspects of Their Trace Elemental Concentrations
- P-06 Izumi Watanabe : Biomagnification of Mercury Through the Ecosystem of Yambaru Area, Northern Part of Okinawa Island, Japan
- P-07 Hidenori Matsukami : Short Chain Chlorinated Paraffins in Blubber of Striped Dolphins from Japan High Sensitivity and Precise Quantification Method by Gas Chromatography -High Resolution Mass Spectrometry
- P-08 Joon-Woo Kim: Multi-residue Analytical Method for Ultraviolet Absorber and Organophosphorous Flame Retardant by UPLC-MS/MS
- P-09 Gerhard A. Wiesmüller : The Perinatal Archive of the German Environmental Specimen Bank : Body Burden of the Newborn
- P-10 Gerhard A. Wiesmüller : The Perinatal Archive of the German Environmental Specimen Bank : Internal Exposure of the Newborn with Phthalate Metabolites
- P-11 Yongju Cho : The National Environmental Specimen Bank : Development of Standard Operating Procedures
- P-12 Mitsuha Yoshikane : Characteristics of the Accumulation of Fluorosurfactants in Dragonflies, A Candidate Bio-indicator Organism for Monitoring Terrestrial Environment
- P-13 Kwang-Hyeon Chang : Pollution in Marine Coastal Area of Bungo Channel in Japan : Long-term Monitoring on Aquaculture Impacts on Coastal Ecosystems
- P-14 Natsuko Hamamura : Diversity and Functional Analysis of Bacterial Communities Associated with Soda Lake in Northwestern Mongolia
- P-15 Mei-Fang Chien : The Occurrence of Oxytetracycline Resistant Bacteria from Aquatic Environment with Mercury Pollution
- P-16 Hiromichi Sakai : Mutation in the *Escherichia coli* *pqqI* Gene Results in Abnormal Colonization
- P-17 Shigeki Wada : Inhibition of DOM Decomposition in Coastal Environments by Zinc Input
- P-18 Hiroyuki Takasu : Fluoroquinolone Antibiotics (FQs) -Resistant Bacteria in Aquatic Environments in Thailand and Vietnam
- P-19 Masaki Akizuki : Dual Stressor of Nodavirus Infection and Tributyltin Exposure Leads to High Mortality in Medaka *Oryzias latipes* Larvae
- P-20 Nguyen Minh Tue : Toxic Identification and Evaluation Approach on House Dust from New York, USA using DR-CALUX and Chemical Analysis of Dioxin-like Compounds
- P-21 Masayuki Someya : Mussel Watch Program : Monitoring of Dioxin Related Compounds in Asian Coastal Waters Using DR-CALUX Assay and Chemical Analysis
- P-22 Keisuke Yamaguchi : Functional Characterization of In vitro - Expressed Cytochrome P450 1A1, 1A2 and 1B1 from Baikal Seal (*Pusa sibirica*)
- P-23 Ken-ichi Suzuki : Identification and Characterization of Cytochrome P450 and Xenobiotics Receptor Genes in

Amphibians, *Xenopus laevis* and *Xenopus tropicalis*

- P-24 Pham Thi Dau : A Preliminary Study on Chemical Ligand Screening of the Constitutive Androstane Receptor (CAR) Using A Surface Plasmon Resonance Array System
- P-25 Hisato Iwata : Quantitative Assessment of the AHR-CYP1A Signaling Cascade in TCDD-treated Avian Embryos
- P-26 Midori Iida : Effects of 2,3,7,8-Tetrachlorodibenzo-p-Dioxin on Peripheral Nervous System in Developing Red Seabream (*Pagrus major*) Embryos
- P-27 Masashi Hirano : Molecular Cloning of the Ecdysone Receptor from a Mysid Crustacea (*Americamysis bahia*) and Development of an *In vitro* Reporter Gene Assay to Detect the Receptor-Mediated Responses by Chemicals
- P-28 Michio X. Watanabe : Effects of Dioxin-like and Perfluorinated Compounds on Hepatic Cytochrome P450 and Plasma Hormones in Pigs from an Indian Open Waste Dumping Site
- P-29 Koji Nomaru : Intracellular Localization of the AHR2 Isoform from Avian Species
- P-30 Hiroshi Ishibashi : Molecular Characterization of Peroxisome Proliferator-activated Receptor Isoforms from the Baikal Seal (*Pusa sibirica*)
- P-31 Kei Nakayama : New Features of the Database of Archived Environmental Specimens at es-BANK, Ehime University
- P-32 Akira Shiozaki : Dioxin Concentrations in Finless Porpoise (*Neophocaena phocaenoides*) from Seto Inland Sea
- P-33 Kenta Nakahiro : Contamination Status of Organohalogen Compounds in Human Breast Milk from Ghana Residents
- P-34 Hazuki Mizukawa : Accumulation Features of Hydroxylated-PCBs (OH-PCBs) in the Blood of Pigs Collected from a Dumping Site for Municipal Wastes in India
- P-35 Akifumi Eguchi : Organohalogen and Metabolite Contaminants in Human Serum Samples from Indian Waste Recycling Workers
- P-36 Muhammad Ilyas : Characterization of Polychlorinated Biphenyls (PCBs) and Polybrominated Diphenyl Ethers (PBDEs) in Sediments from Dumpsite Areas and its Leachate Treatment Plants (LTPs) of Benowo Dumpsite, Surabaya City
- P-37 Gnanasekaran Devanathan : Polychlorinated Biphenyls and Brominated Flame Retardants in Human Breast Milk Collected from Different Regions in India
- P-38 Kwadwo Ansong Asante : Polychlorinated Biphenyls and Brominated Flame Retardants in Human Breast Milk Collected from Different Regions in India
- P-39 Govindan Malarvannan : Organohalogen Compounds in Fishes from Nansei Islands, Japan : Levels, Distribution and Profiles
- P-40 Agus Sudaryanto : Utilization of es-BANK of Ehime University for Monitoring Environmental Pollutants in Indonesia : A Case for Brominated Flame Retardants in Biota, Human and Environmental Samples
- P-41 Tomoko Oshihori : Specific Accumulation of BFRs in Finless Porpoises from Japan
- P-42 Shohei Ogawa : Spatial Distribution and Accumulation of BFRs in Mussel from Coastal Waters of Asian Countries

19) 第1回 グローバル COE 分析機器ワークショップ

期日：平成21年12月16日(水) 9:30～16:30

会場：愛媛大学 総合研究棟1 増築棟 4階会議室

「表面プラズモン共鳴 (Surface Plasmon Resonance, SPR) を用いた分子間相互作用」

バイオラッドラボラトリーズ株式会社 熊谷 剛史

20) 第9回 地球環境フォーラム／第20回グローバル COE 特別セミナー

期日：平成22年1月14日(木) 15:00～16:30

会場：愛媛大学 総合情報メディアセンター1階 メディアホール

「循環型社会と科学技術」

環境省廃棄物・リサイクル対策部長 谷津 龍太郎

21) 第21回 グローバル COE 特別セミナー

期日：平成22年1月22日(金) 10:00～12:00

会場：愛媛大学 総合研究棟1 理学部 6階会議室

「化学兵器剤概論～化学剤関連物質の分析化学と環境化学～」

内閣府 大臣官房 遺棄化学兵器処理担当室 事業参与 花岡 成行

22) 若手合同シンポジウム

期日：平成22年1月28日9時～18時、29日9時～12時半

会場：愛媛大学 総合研究棟1 理学部 6階会議室

「生態リスク評価に関する若手研究者の先端研究」

23) 第2回 グローバル COE キャリアパス講座

期日：平成22年2月8日(月) 14:00～16:00

会場：愛媛大学 総合研究棟1 4階会議室

「環境問題に関する若手研究者のキャリアパス」

千葉大学 環境健康フィールド科学センター 助教 医学博士 戸高 恵美子

24) 第22回 グローバル COE 特別セミナー

期日：平成22年3月9日(火) 10:30～12:00

会場：愛媛大学 総合研究棟1 4階会議室

「黒潮のモデリング」

台灣師範大学地球学科学科 教授 Chau—Ron Wu

25) 平成21年度 グローバル COE プログラム研究成果報告会/平成21年度若手・独創的研究費課題報告会

期日：平成22年3月15日(月)～16日(火)

会場：愛媛大学 総合情報メディアセンター メディアホール

プログラム

3月15日(月) 9:00～17:45

プロジェクト1：複合汚染環境の生態系における微生物応答

—環境維持機能および浄化機能のポテンシャル—

プロジェクト2：高等生物を対象とした化学物質による影響のバイオアッセイ系の開発と種特異性の評価

プロジェクト3：PAHs およびアルキル化 PAHs の魚類に対する毒性影響評価

プロジェクト4：海洋における残留性有機汚染物質 (POPs) の動態モデルと食物連鎖モデルの開発

[座長：郭 新宇]

グローバル COE プログラム リーダー挨拶

[座長：鈴木 聰]

複合汚染環境における微生物応答 (09年度概要)

CMES 教授プロジェクトリーダー 鈴木 聰

台湾の水銀汚染地域における微生物群集と水銀還元酵素の多様性に関する研究

GCOE 研究員 *簡 梅芳

汚染環境における微生物群集機能の網羅的解析

GCOE 准教授 濱村奈津子

沿岸域 での有機物分解過程に及ぼす亜鉛の影響

GCOE 研究員 和田 茂樹

Effect of Zinc on bacterial proteolytic process in seawater

博士課程 * Bong Chui Wei

5. 学会及び社会における活動

「座長：岩田 久人」

「環境化学物質の高次生物影響を検知するバイオアッセイ系の開発と種特異性の評価」：概要と成果

CMES 教授プロジェクトリーダー 岩田 久人
表面プラズモン共鳴バイオセンサーを用いたバイカルアザラシ PPAR リガンドのスクリーニング法の開発

GCOE 准教授 石橋 弘志

CYP1A TRANSACTIVATION POTENCIES OF THE BLACK-FOOTED ALBATROSS AHR1 AND AHR2 BY DIOXINS : TOWARDS THE RISK ASSESSMENT IN THE NORTH PACIFIC POPULATION

博士課程 Thuruthippsllil Leena Mol

無尾両生類における異物核内受容体による CYP 遺伝子の転写制御に関する研究

GCOE 助教 鈴木 賢一

甲殻類エクジソン受容体に着目した *in vitro* 化学物質スクリーニング法の開発

GCOE 研究員 * 平野 将司

POPs 候補物質のアレルギー誘発作用について

農学部 准教授 菅原 卓也

重油水溶性画分の生体に及ぼす影響とリスク評価

GCOE 研究員 * 西本 壮吾

脂質代謝に於ける脂溶性難分解毒性物質の動態

総合科学研究支援センター 准教授 藤野 貴広

「座長：北村 真一」

多環芳香族炭化水素 (PAHs) およびアルキル化 PAHs の魚類に対する毒性影響評価

CMES 准教授プロジェクトリーダー 北村 真一

トランスクリプトームデータを用いた複合的環境ストレスに対する生体影響の評価

CMES 助教 仲山 慶

水族感染症における転換点の数理解析

CMES 助教 半藤 逸樹

Effects of heavy oil pollution on outbreaks of viral disease in fish

博士課程 宋 準榮

発生期の硬骨魚類の神経系における重油の毒性について

理学部 准教授 村上 安則

重油が硬骨魚類の神経系と行動に及ぼす影響の解析

GCOE 研究員 * 川口 将史

免疫機能および骨格筋の分化と機能に及ぼす化学物質の影響

GCOE 研究員 * 岡部 正明

「座長：郭 新宇」

Influences of riverine nutrients on the lower trophic ecosystem in the East China Sea

CMES 准教授プロジェクトリーダー 郭 新宇

東シナ海における残留性有機汚染物質の動態モデリング

GCOE 研究員 小野 純

全球多媒体モデル FATE を用いた残留性有機汚染物質の時空間変動予測

GCOE 研究員 河合 徹

POPs 動態予測の陰に “不確実な真実”：FATE 専用ベイズ・エミュレーターによる解析事例

CMES 助教 半藤 逸樹

高次消費者の個体レベルエネルギー取支モデル

CMES 准教授 大森 浩二

瀬戸内海における低次栄養段階生物の安定同位体比分布と栄養構造

GCOE 研究員 柴田 淳也

3月16日(火) 9:00～16:35

プロジェクト5：生物環境試料バンク (es-BANK) を活用した化学汚染の時空間分布と生物濃縮・代謝動態の解明

「座長：高橋 真」

生物環境試料バンクを活用した化学汚染の時空間分布と生物濃縮・代謝動態の解明

CMES 准教授 高橋 真

臭素系難燃剤汚染の時空間分布解析

上級研究員 磯部 友彦

スジイルカを指標生物とした微量元素の広域汚染実態の解明と経年変動解析

GCOE 助教 平田 佐和子

人為的・自然的要因による微量元素の動態変化と潜在的生態影響の評価

CMES 助教 板井 啓明

es-BANK を活用した陸棲および海棲哺乳類中に残留する有機ハロゲン代謝物の分析

CMES 助教 野見山 桂

LC-MS/MS による紫外線吸収剤および有機リン系難燃剤の一斉分析法の開発および水生生物への影響

GCOE 研究員 金 俊佑

新規 es-BANK データベースの構築

GCOE 研究員 仲山 慶

東シナ海における生物試料採集の進行状況：安定同位体を用いた食物網解析と化学汚染解明への活用

GCOE 准教授 張 光眩

養殖漁場の環境保全に向けた取り組み-環境修復と魚類免疫力賦活

GCOE 研究員 伊藤 克敏

Oxidative stress, oxidative stress markers and the antioxidant system in fish

GCOE 研究員 Fritzie Tuble Celino

海ゴミプロジェクトの成果と今後

CMES 教授 磯辺 篤彦

ポスター発表

- P-1 田辺信介：生物環境試料バンクを活用した微量元素汚染の実態と歴史トレンドの解明-カズハゴンドウを指標生物として
- P-2 福島江：T B T 耐性緑膿菌の新規耐性遺伝子に関する研究
- P-3 嶽弘道：Mutation of Escherichia coli pqq gene results in abnormal colonization and biofilm formation
- P-4 Pham Thi Dau : Development of Constitutive Androstane Receptor (CAR) Ligand Screening Assay with A Surface Plasmon Resonance (SPR) Biosensor
- P-5 村上安則：カメ体幹部における神経系の発生
- P-6 柿沼喜己：化学物質による細胞機能攪乱の分子機構に関する研究
- P-7 三浦猛：Molecular defense mechanisms against chemical-induced oxidative stress in spermatogonia
- P-8 高菅卓三：海棲哺乳類中の塩素化パラフィンの検出とトレンド解析
- P-9 Godinvan Malarvannan : Environmental Contamination by Organohalogen Compounds in the Philippines : Levels and Exposure Pathways
- P-10 Devathan Ganesekaran : Contamination Status of Persistent Organohalogen Compounds in Human Breast Milk and Fish Samples from India
- P-11 Kwadwo Ansong Asante : Human Exposure to Persistent Environmental Chemicals Using Mothers' Milk from Ghana
- P-12 Muhammad Ilyas : Environmental Occurrence of Polychlorinated Biphenyls and Brominated Flame Retardants in Highly Industrialized City of Surabaya, Indonesia
- P-13 染矢雅之：イガイを用いたアジア沿岸域におけるダイオキシン類汚染の実態解明
- P-14 Nguyen Minh Tue : Toxic evaluation and identification of dioxin-related compounds in house dust from Vietnamese e-waste recycling sites

5. 学会及び社会における活動

- P-15 Nguyen Ngoc Ha : Risk assessment of human health at e-waste recycling sites based on the concentration of trace elements in soil
- P-16 Annamalai Subramanian : Contamination Associated with E-waste Recycling in India
- P-17 Todd William Miller : Factors Related to the Trophic Structure of Marine Pelagic
- P-18 石睿 : Decadal variations in coastal winds at Bungo Channel from 1991 to 2006
- P-19 李慶吉 : Seasonal and interannual variations of nutrients in Bungo Channel, Japan
- P-20 吉江直樹 : 濱戸内海における低次生態系モデルの開発と現場観測
- P-21 今井洋幸 : *Microcystis* 種の増殖及び形態的特長に関する生理・生態学的研究
- P-22 中島悦子 : 長崎県五島列島における漂着ゴミと化学汚染
- P-23 Nguyen Tai Tue : Historical profiles of heavy metal concentrations in mangrove sediments of the Ba Lat Estuary, Red River, Vietnam
- P-24 樋口理人 : ストレスが魚類生殖に及ぼす影響
- P-25 嶋原佳子 : 重金属の複合暴露がメダカの細菌感染症に対する感受性に与える影響
- P-26 劉明哲 : Manifestation of Fraser syndrome-like phenotype by defect of GRIP1b

第23回グローバル COE セミナー (次頁参照)

武岡センター長挨拶

* : 若手・独創的研究費課題採択者

26) 第23回 グローバル COE 特別セミナー

期日 : 平成22年3月16日(火) 15:00~16:30

会場 : 愛媛大学 メディアホール

「環境ガバナンスと市民参加」

大阪大学大学院 法学研究科 教授 大久保 規子

5. 4 学会、講演会などの開催（個人）

環境動態解析部門

磯辺 篤彦

- 1) 日本海洋学会・沿岸海洋研究部会シンポジウム 「沿岸の数値モデリングー海洋関連各分野での取り組み」, 平成21年4月9日, 東京大学, コンビーナー

化学汚染・毒性解析部門

磯部 友彦

- 1) 平成21年9月15日, シンポジウム開催: 「生活関連化学物質による環境汚染研究～若手研究者による研究のトレンド～」, 第12回日本水環境学会シンポジウム, 東京, お茶の水女子大学

5. 5 学会賞等

環境動態解析部門

- 1) 武岡 英隆 : 平成21年度原子力安全功労者表彰, 経済産業大臣, 平成21年10月
2) 吉江 直樹 : 2009年度日本海洋学会日高論文賞 (連名受賞), 平成21年4月

化学汚染・毒性解析部門

- 1) 田辺 信介 : 日本学術振興会科学研究費補助金第一段審査貢献表彰
2) 野見山 桂 : 第15回日本環境毒性学会・バイオアッセイ研究会合同研究発表会奨励賞
3) 染矢 雅之 : Best Poster Award, International Symposium on Environmental Specimen Bank, Global COE Program,

Ehime University

- 4) Thuruthippalil Leena Mol : Best Poster Award, 15th International Symposium on Pollutant Responses in Marine Organisms, Bordeaux France
- 5) 山口 恵佑 : Best Poster Award, International Symposium on Environmental Specimen Bank, Global COE Program, Ehime University
- 6) 野口 貴子 : 優秀賞, SSC 課題研究発表会 (平成21年8月)
- 7) 野口 貴子 : 優秀賞, SSC 課題研究発表会 (平成22年2月)
- 8) 武藤 衛 : 優秀賞, SSC 課題研究発表会 (平成22年2月)

生態系解析部門

- 1) 簡 梅芳 : Interdisciplinary Symposium for Young Investigator, Biological responses to chemical contaminants : from molecular to community level, Aveiro, Portugal, The best oral presentation award. 平成21年9月3日.
- 2) 宋 準榮 : 第15回日本環境毒性学会・バイオアッセイ研究会合同研究発表会 奨励賞 “重油暴露が魚類ウイルス性疾患の発生に与える影響” 平成21年10月4日.
- 3) 國弘 忠生 : 2008年度日本水産学会論文賞 (連名受賞), 平成21年3月

6. 國際的活動



(平成21年度)

6. 1 國際研究プロジェクト

環境動態解析部門

郭 新宇

- 1) 平成19年4月～平成21年3月, 東シナ海における栄養塩挙動に関する研究, 華東師範大学
- 2) 平成19年9月～平成21年3月, 琉球海流の流動構造と季節変化に関する研究, 国家海洋局第二海洋研究所
- 3) 平成19年9月～平成21年3月, 南シナ海の熱塩フロントによる栄養塩輸送に関する研究, 中国海洋大学
- 4) 平成20年1月～平成22年12月, 渤海における黄河水の年齢に関する研究, 中国海洋大学

半藤 逸樹

- 1) 平成19年10月～シベリアの炭素収支に関する研究; 連合王国シェフィールド大学

化学汚染・毒性解析部門

田辺 信介

- 1) 平成15年～, 有害物質によるメコン川流域の汚染と影響に関する研究, カンボジア・カンボジア水産局, ベトナム・ハノイ大学, ノンラム大学等
- 2) 平成16年～, 途上国の廃棄物投棄場におけるダイオキシン類等 POPs の汚染と毒性影響に関する研究, カンボジア・カンボジア水産局, インド・アンナマライ大学海洋生物学研究所等
- 3) 平成16年～, 日本学術振興会拠点大学交流事業 (Environmental Science and Technology) (大阪大学大学院工学研究科), ベトナム・ハノイ大学等
- 4) 平成14年～, 21世紀COE国際共同研究—オランダ沿岸におけるアザラシの大量へい死と有害物質の汚染および影響に関する環境毒性学的研究, オランダ・エラスムス大学
- 5) 平成15年～, 内分泌搅乱物質による野生生物およびヒトの汚染と毒性影響に関する研究, 中国・香港城市大学
- 6) 平成15年～, 内分泌搅乱物質によるバイカルアザラシの汚染とその蓄積特性および影響評価に関する研究, ロシア・バイカル自然保護研究所
- 7) 平成15年～, 微量元素によるガーナの環境汚染, ガーナ水圏研究所
- 8) 平成16年～, POPs, PBDEs 等による母乳汚染の実態解明, 中国・南京大学
- 9) 平成17年～, POPs および POPs 候補物質によるポルトガルの海洋汚染に関する研究, ポルトガル・アベイロ大学
- 10) 平成17年～, POPs および POPs 候補物質によるアジアの広域大気汚染とその動態に関する研究, 中国・広州地球化学研究所および英国・ランカスター大学
- 11) 平成18年～, アジア地域の有機フッ素化合物汚染, 米国・ニューヨーク州立大学アルバニー校
- 12) 平成18年～, 電子・電気機器リサイクル施設および廃棄物処理施設における POPs 候補物質の汚染と影響, インド・アンナマライ大学
- 13) 平成19年～, POPs および POPs 候補物質によるインドネシアの環境汚染に関する研究, Center Technology for Marine Survey, Agency for the Assessment and Application of Technology (BPPT), インドネシア
- 14) 平成19年～, 電子・電気機器リサイクル施設および廃棄物処理施設における POPs 候補物質の汚染と影響, ベトナム・ハノイ大学
- 15) 平成20年～, 有害物質によるワニの内分泌搅乱, 米国・フロリダ大学

岩田 久人

- 1) 平成17年～，野生鳥類のシトクローム P450の進化と機能に関する研究，米国・ウッズホール海洋研究所
- 2) 平成16年～，野生生物の有機フッ素化合物汚染とその影響に関する研究，米国・ニューヨーク州立大学
- 3) 平成17年～，バイカルアザラシにおける化学物質の汚染および影響に関する研究，ロシア・The Eastern-Siberian Scientific and Production Fisheries Center
- 4) 平成19年～，ヒ素代謝酵素の遺伝的多型に関する研究，ベトナム・ハノイ大学
- 5) 平成15年～，野生生物のアリールハイドロカーボンレセプターの進化と機能に関する研究，韓国・Kyung Hee 大学

金 恩英

- 1) 平成15年～，野生鳥類のアリールハイドロカーボンレセプターの進化と機能に関する研究，米国・ウッズホール海洋研究所

生態系解析部門

鈴木 聰

- 1) 平成13年4月～平成22年度，日本学術振興会拠点大学交流事業（北海道大学大学院水産科学研究院），韓国・釜慶大学，全南大学等
- 2) 平成14年4月～，有機スズ分解細菌に関する研究，インド・ゴア大学およびポルトガル・アヴェイロ大学
- 3) 平成15年7月～，有機スズおよび薬剤耐性菌のメコン流域における分布調査，ベトナム・ハノイ国立大学，ノンラム大学およびタイ・コンケン大学
- 4) 平成20年8月～，養殖場の薬剤耐性菌研究，フィンランド・ヘルシンキ大学
- 5) 平成21年4月～，複合汚染環境での薬剤耐性菌発生に関する研究，台湾・国立成功大学

北村 真一

- 1) 平成18年9月～，魚類感染症の発症メカニズムに関する研究，韓国・国立全南大学校水産生命医学科

濱村奈津子

- 1) 平成21年4月～，イエローストーン温泉群のメタゲノム解析，米国・モンタナ州立大学およびポートランド州立大学

金本 自由生

- 1) 平成21年度～，日本産コアマモ類の研究，オーストラリア・ウェスタンオーストラリア大学電顕センター

6. 2 在外研究等

6. 3 海外調査・国際学会等

環境動態解析部門

武岡 英隆

- 1) 平成21年7月27日～30日，The 2nd Joint Forum of Envriornmetal Sciences 2009参加，麗水市，韓国
- 2) 平成21年9月6日～9日，特別講演，中国海洋大学，中国

郭 新宇

- 1) 平成21年4月30日～5月9日，黄河デルタの現地調査結果に関する研究打ち合わせ，中国青島市
- 2) 平成21年7月19日～7月24日，MOCA-09, Montréal, Canada で発表
- 3) 平成21年8月10日～20日，東シナ海生態系モデルに関する研究打ち合わせ，中国青島市
- 4) 平成21年9月3日～10日，国家海洋局第二研究所と中国海洋大学を訪問し，東シナ海の栄養塩挙動と琉球海流

6. 國際的活動

に関する研究打ち合わせ，中国杭州市と青島市

- 5) 平成21年9月19日～24日，黄河デルタの現地調査結果に関する研究打ち合わせ，中国青島市
- 6) 平成22年1月6日～12日，華東師範大学を訪問し，東シナ海の栄養塩挙動に関する研究打ち合わせ，中国上海市
- 7) 平成22年1月22日～27日，国家海洋局第二研究所を訪問し，黒潮による栄養塩輸送に関する研究打ち合わせ，中国杭州市
- 8) 平成22年1月29日～2月2日，中国科学院地球科学研究所を訪問し，東シナ海における POPs 汚染状況に関する研究打ち合わせ，中国広州市
- 9) 平成22年2月27日～3月6日，中国海洋大学を訪問し，東シナ海における POPs モデリングに関する研究打ち合わせ，中国青島市

吉江 直樹

- 1) 平成21年10月22-30日，PICES 2009 annual Meeting で発表，韓国済州島
- 2) 平成21年6月21-29日，3rd GLOBEC Ocean Science Meeting，Victoria で発表，カナダ，ビクトリア

齋藤 光代

- 1) 2009年3月15日～21日，インドネシア・ジャカルタにおける地下水，沿岸海域調査
- 2) 2009年11月15日～21日，総合地球環境学研究所研究プロジェクト「都市の地下環境に残る人間活動の影響」の国際シンポジウムでの発表，台湾中央研究院

佐川 拓也

- 1) 平成22年1月11日～12日，Western Pacific Paleoceanography Workshop I : Future Challenge に参加，台北市，台湾

石 睿

- 1) 平成21年10月8日～19日，黄河デルタにおける気象データの収集，中国青島市

化学汚染・毒性解析部門

田辺 信介

- 1) 平成21年5月17日～平成21年5月20日，大学院理工学研究科アジア環境学特別コース入学試験，Research Centre for Environmental Technology and Sustainable Development (CETASD)，Hanoi University of Science，Vietnam National University，Hanoi，Vietnam.
- 2) 平成21年7月12日～平成21年7月14日，大学院理工学研究科アジア環境学特別コース入学試験，Research Centre for Environmental Technology and Sustainable Development (CETASD)，Hanoi University of Science，Vietnam National University，Hanoi，Vietnam.
- 3) 平成21年7月27日～平成21年7月30日，The 2nd Joint Forum of Environmental Science 2009，Chonnam National University，Yeosu，Korea.
- 4) 平成21年8月23日～平成21年8月27日，第29回国際シンポジウム「DIOXIN2009」で発表，Beijing，China.
- 5) 平成21年8月30日～平成21年9月6日，国際シンポジウム「Biological Responses to Chemical Contaminants」で発表，Aveiro University，Aveiro，Portugal.
- 6) 平成21年10月26日～平成21年10月30日，農薬及び POPs の土壤残留と食の安全性に関する国際セミナーで基調講演，台湾農業薬物毒物試験所 (TACTRI)，台北市，台湾。
- 7) 平成22年1月7日～平成22年1月12日，ベトナム・ハノイ周辺の環境汚染調査及び研究試料の採取，Research Centre for Environmental Technology and Sustainable Development (CETASD)，Hanoi University of Science，Vietnam National University，Hanoi，Vietnam

岩田 久人

- 1) 平成21年5月16日～22日，15th International Symposium on Pollutant Responses in Marine Organisms 参加・発表，Bordeaux，France
- 2) 平成21年8月31日～9月7日，BIOLOGICAL RESPONSES TO CHEMICAL CONTAMINANTS : From Molecular to Community Level. Interdisciplinary Symposium for Young Investigators 参加・講演，Aveiro，Portugal

- 3) 平成21年9月16日～9月18日, International Symposium on the Biomonitoring and Biomarker of Endocrine Disrupting Chemicals (EDCs) in Coastal and Marine Environment 参加・講演, Busan, Korea

Annamalai Subramanian

- 1) 平成21年8月23日～平成21年8月29日, 第29回国際シンポジウム「DIOXIN2009」で発表, Beijing, China
- 2) 平成21年12月22日～平成22年1月28日, インド・バンガロール, トリッキーおよびチェンナイ周辺の環境汚染調査および研究試料の採取, Bharathidasan University, India

高菅 卓三

- 1) 平成21年4月6日～平成21年4月8日, Inception Workshop of the First Worldwide UNEP Intercalibration Study on Persistent Organic Pollutants from the Asian Region, で発表, Beijing, China.
- 2) 平成21年8月23日～平成21年8月27日, 第29回国際シンポジウム「DIOXIN2009」で発表, Beijig, China.
- 3) 平成21年9月28日～平成21年9月30日, 7th Workshop on Environmental Monitoring of Persistent Organic Pollutants (POPs) in East Asian Countries で発表, Tokyo, Japan
- 4) 平成21年11月5日, 韓国化学試験研究院 (KTR), 2009 “環境規制物質分析の国内・外研究動向および対応” シンポジウムで招待講演, Seoul, Korea.
- 5) 平成22年2月26日～平成22年2月28日, Final Workshop of First Worldwide UNEP Intercalibration Study on POPs - Asia Region で発表, Hong Kong, China.

高橋 真

- 1) 平成21年8月23日～平成21年8月28日, 第29回国際シンポジウム「DIOXIN2009」で発表, Beijig, China
- 2) 平成21年8月30日～平成21年9月6日, 國際シンポジウム「Biological Responses to Chemical Contaminants」で発表, Aveiro University, Aveiro, Portugal
- 3) 平成22年1月7日～平成22年1月16日, ベトナム・ハノイ周辺の環境汚染調査及び研究試料の採取, Research Centre for Environmental Technology and Sustainable Development (CETASD), Hanoi University of Science, Vietnam National University, Hanoi, Vietnam

磯部 友彦

- 1) 平成21年5月9日～平成21年5月22日, 国際学会「World Ocean Conference 2009」で発表, インドネシア・マナド, ビトン湾, ラタトト湾周辺において研究試料の採取, Agency for the Assessment and Application of Technology (BPPT), Indonesia
- 2) 平成21年7月27日～平成21年7月30日, The 2nd Joint Forum of Environmental Science 2009で発表, Chonnam National University, Yeosu, Korea
- 3) 平成21年8月23日～平成21年8月29日, 第29回国際シンポジウム「DIOXIN2009」で発表, Beijig, Chin
- 4) 平成21年10月12日～平成21年10月21日, フィリピン・マニラ周辺の環境汚染調査および研究試料の採取, De La Salle University, Manila, Philippines

野見山 桂

- 1) 平成21年5月9日～平成21年5月22日, 国際学会「World Ocean Conference 2009」で発表, インドネシア・マナド, ビトン湾, ラタトト湾周辺において研究試料の採取, Agency for the Assessment and Application of Technology (BPPT), Indonesia
- 2) 平成21年8月23日～平成21年8月29日, 第29回国際シンポジウム「DIOXIN2009」で発表, Beijig, China

板井 啓明

- 1) 平成21年5月9日～平成21年5月22日, 国際学会「Goldschmidt Conference 2009」で発表, Davos, Switzerland
- 2) 平成22年1月7日～平成22年1月16日, ベトナム・ハノイ周辺の環境汚染調査及び研究試料の採取, Research Centre for Environmental Technology and Sustainable Development (CETASD), Hanoi University of Science, Vietnam National University, Hanoi, Vietnam

6. 國際的活動

張 光弦

- 1) 平成21年4月22日～平成21年4月26日, 「The 15th PAMS Meeting」で発表, 釜山, 韓国

平田佐和子

- 1) 平成22年1月7日～平成22年1月16日, ベトナム・ハノイ周辺の環境汚染調査及び研究試料の採取, Research Centre for Environmental Technology and Sustainable Development (CETASD), Hanoi University of Science, Vietnam National University, Hanoi, Vietnam

Agus Sudaryanto

- 1) 平成21年5月9日～平成21年5月22日, 国際学会「World Ocean Conference 2009」で発表, インドネシア・マナド, ビトン湾, ラタトト湾周辺において研究試料の採取, Agency for the Assessment and Application of Technology (BPPT), Indonesia
- 2) 平成21年8月23日～平成21年8月29日, 第29回国際シンポジウム「DIOXIN2009」で発表, Beijig, China
- 3) 平成21年10月12日～平成21年10月21日, フィリピン・マニラ周辺の環境汚染調査および研究試料の採取, De La Salle University, Manila, Philippines

Lee Jin Seon

- 1) 平成21年5月16日～22日, 15th International Symposium on Pollutant Responses in Marine Organisms 参加・発表, Bordeaux, France

鈴木 剛

- 1) 平成21年9月24日～平成21年9月25日, 国際ワークショップ「BioDetectors Workshop 2009」で発表, Amsterdam, the Netherlands

染矢 雅之

- 1) 平成21年8月23日～平成21年8月29日, 第29回国際シンポジウム「DIOXIN2009」で発表, Beijig, China

Nguyen Minh Tue

- 1) 平成21年8月23日～平成21年8月29日, 第29回国際シンポジウム「DIOXIN2009」で発表, Beijig, China
- 2) 平成22年1月7日～平成22年1月16日, ベトナム・ハノイ周辺の環境汚染調査及び研究試料の採取, Research Centre for Environmental Technology and Sustainable Development (CETASD), Hanoi University of Science, Vietnam National University, Hanoi, Vietnam

Govindan Malarvannan

- 1) 平成21年8月23日～平成21年8月29日, 第29回国際シンポジウム「DIOXIN2009」で発表, Beijig, China
- 2) 平成21年10月12日～平成21年10月21日, フィリピン・マニラ周辺の環境汚染調査および研究試料の採取, De La Salle University, Manila, Philippines

Gnanasekaran Devanathan

- 1) 平成21年8月23日～平成21年8月29日, 第29回国際シンポジウム「DIOXIN2009」で発表, Beijig, China

Muhammad Ilyas

- 1) 平成21年4月25日～平成21年5月22日, 国際学会「World Ocean Conference 2009」で発表, インドネシア・ジャワ海域, マナド, ビトン湾, ラタトト湾周辺において研究試料の採取, Agency for the Assessment and Application of Technology (BPPT), Indonesia
- 2) 平成21年8月23日～平成21年8月29日, 第29回国際シンポジウム「DIOXIN2009」で発表, Beijig, China

Nguyen Ngoc Ha

- 1) 平成21年2月26日～平成21年3月6日, 「The first International Conference on Environmental Pollution, Restoration,

and Management」で発表, Ho Chi Minh City, Vietnam

Thuruttippallil, Leena Mol

- 1) 平成21年5月16日～22日, 15th International Symposium on Pollutant Responses in Marine Organisms 参加・発表, Bordeaux, France

水川 葉月

- 1) 平成21年8月23日～平成21年8月29日, 第29回国際シンポジウム「DIOXIN2009」で発表, Beijig, China
- 2) 平成21年10月12日～平成21年10月21日, フィリピン・マニラ周辺の環境汚染調査および研究試料の採取, De La Salle University, Manila, Philippines

江口 哲史

- 1) 平成21年8月23日～平成21年8月29日, 第29回国際シンポジウム「DIOXIN2009」で発表, Beijig, China

野口 貴子

- 1) 平成22年1月7日～平成22年1月16日, ベトナム・ハノイ周辺の環境汚染調査及び研究試料の採取, Research Centre for Environmental Technology and Sustainable Development (CETASD), Hanoi University of Science, Vietnam National University, Hanoi, Vietnam

武藤 衛

- 1) 平成22年1月7日～平成22年1月16日, ベトナム・ハノイ周辺の環境汚染調査及び研究試料の採取, Research Centre for Environmental Technology and Sustainable Development (CETASD), Hanoi University of Science, Vietnam National University, Hanoi, Vietnam

生態系解析部門

鈴木 聰

- 1) 平成21月4月, 汚染環境調査, 台南周辺, 台湾
- 2) 平成21年5~6月, 環境および動物における薬剤耐性菌に関する国際シンポジウム発表, ツール, フランス
- 3) 平成21年7月, The 2nd Joint Forum of Envriornmental Sciences 2009参加, 麗水市, 韓国
- 4) 平成21年8~9月, GCOE 国際シンポジウム主催発表, アヴェイロ, ポルトガル
- 5) 平成21年11月, 洪水後の水環境調査, マニラ周辺, フィリピン
- 6) 平成22年2月, 水銀汚染環境調査, 台南周辺, 台湾

北村 真一

- 1) 平成21年7月, The 2nd Joint Forum of Envriornmental Sciences 2009参加, 麗水市, 韓国

濱村奈津子

- 1) 平成21月7~8月, イエローストーンメタゲノム解析共同研究, ポートランド州立大学, 米国
- 2) 平成22月2月, 水銀汚染環境調査, 台南, 台湾

6. 4 外国人客員研究員等

化学汚染・毒性解析部門

- 1) Ana Catarina Almeida Sousa, Aveiro University, Portugal, 平成21年4月21日～平成21年7月2日
- 2) Manuel Ramiro Dias Pastorinho, Aveiro University, Portugal, 平成21年4月21日～平成21年7月13日

6. 國際的活動

生態系解析部門

鈴木 聰

- 1) Andreia Cruz : 平成21年5月4日～平成21年8月1日, 新規有機スズ耐性遺伝子の発現に関する研究

6. 5 海外からの訪問者

環境動態解析部門

- 1) Wang Yucheng (大学院生), 中国海洋大学, 平成21年7月31日～平成22年8月9日, 黃河デルタと萊州湾における観測結果に関する研究打ち合わせおよび情報交換
- 2) Yao Xiao (大学院生), 中国海洋大学, 平成21年7月31日～平成22年8月9日, 黃河デルタと萊州湾における観測結果に関する研究打ち合わせおよび情報交換
- 3) Zou Li 准教授, 中国海洋大学, 平成21年11月13日～平成21年11月25日, 黃河デルタ干潟における栄養塩環境に関する研究打ち合わせおよび情報交換
- 4) 高会旺教授, 中国海洋大学, 平成22年1月3日～平成22年1月8日, 黃河デルタと萊州湾における低次生態系に関する研究打ち合わせおよび情報交換
- 5) Wu Chauron 教授, 台湾師範大学, 平成22年3月8日～平成22年3月10日, 黒潮モデリングに関する研究打ち合わせおよび情報交換

化学汚染・毒性解析部門

- 1) Sang Hee Hong, 韓国海洋研究所, 平成21年4月5日～平成21年4月7日
- 2) Le Ke Son, Vietnam Environmental Administration, Hanoi, Vietnam 平成21年5月27日～5月31日
- 3) Nguyen Hung Minh, Vietnam Environmental Administration, Hanoi, Vietnam, 平成21年5月27日～平成21年5月31日
- 4) Do Quyет, Millitary Medical Academy, Vietnam, 平成21年5月27日～平成21年5月31日
- 5) Hoang Thanh, Millitary Medical Academy, Vietnam, 平成21年5月27日～平成21年5月31日
- 6) Nguyen Lien, Millitary Medical Academy, Vietnam, 平成21年5月27日～平成21年5月31日
- 7) Nguyen Tung Linh, Millitary Medical Academy, Vietnam, 平成21年5月27日～平成21年5月31日
- 8) Shin Jinwook, University of British Columbia, Canada, 平成21年12月2日～平成21年12月5日
- 9) Vo Thuong Lan, Trinh Hong Thai, 実験法に関する研修, Vietnam, 平成21年9月7日～14日
- 10) John J. Stegeman, 研究打ち合わせ・講演, U. S. A. 平成21年10月31日～11月5日

生態系解析部門

- 1) Sonia Mendo : ポルトガル・アヴェイロ大学教授, 平成21年7月12～18日
- 2) Amadeu Soares : ポルトガル・アヴェイロ大学 CESAM センター長, 平成21年7月15～19日
- 3) Dan Arp : 米国・オレゴン州立大学教授, 平成21年10月19～23日
- 4) Sang-Jin Kim : 韓国・CORDI 部長, 平成21年10月25～26日

6. 6 指導研究員

化学汚染・毒性解析部門

- 1) Louis J. Guillette Jr., University of Florida, USA, 平成21年6月2日～平成21年6月8日
- 2) Frances Gulland, The Marine Mammal Center in Sausalito, USA, 平成21年9月9日～平成21年9月16日
- 3) Susan D. Shaw, Marine Environmental Research Institute (MERI), USA, 平成21年9月9日～平成21年9月14日
- 4) Natesan Munuswamy, University of Madras, India 平成21年12月2日～平成21年12月6日

6. 7 留学生

環境動態解析部門

- 1) 李慶吉, 大学院理工学研究科博士後期課程, 私費,瀬戸内海における栄養塩の長期変動に関する研究, 中国
- 2) 石 睿, 大学院理工学研究科博士後期課程, 私費,瀬戸内海の海上風に関する研究, 中国
- 3) Soeyanto Endro, 大学院理工学研究科博士前期課程, 私費, JCOPE2の再解析データからみた黒潮の経年変動に関する研究, インドネシア

化学汚染・毒性解析部門

- 1) Pham Thi Dau, 大学院理工学研究科アジア環境学特別コース博士後期課程, 哺乳類 PXR・CAR と化学物質の相互作用の定量的解析, ベトナム
- 2) Thuruttippallil, Leena Mol, 大学院理工学研究科アジア環境学特別コース博士前期課程, ダイオキシン類による野生鳥類へのリスク評価に関する研究, インド
- 3) Dao Van Anh, 大学院理工学研究科アジア環境学特別コース博士前期課程, 鳥類のシトクロム P450による化学物質代謝能の解析, ベトナム
- 4) Yoo Jean, 大学院理工学研究科アジア環境学特別コース博士前期課程, アザラシのシトクロム P450による化学物質代謝能の解析, 韓国
- 5) Pham Thi Thanh Loan, 大学院理工学研究科アジア環境学特別コース博士前期課程, 哺乳類 PXR のリガンドスクリーニング法の開発, ベトナム
- 6) Agus Sudaryanto, 上級研究員センター研究員, Accumulation of Brominated Flame Retardants in Aquatic Ecosystem and Related Human Exposure in Asia (アジアの水圏生態系における臭素系難燃剤の蓄積特性とヒトへの暴露評価), インドネシア (平成22年9月まで)
- 7) Karri Ramu, グローバルCOE研究員, Environmental Contamination from Electronic Waste Dumping and Recycling Sites in Asia (アジアにおける電子・電気機器廃棄物投棄場およびリサイクル処理場由来の環境汚染), インド (平成21年9月まで)
- 8) Govindan Malarvannan, 大学院連合農学研究科博士課程, 国費, POPs in Human Breast Milk from Philippines (残留性有機汚染物質および臭素系難燃剤によるフィリピンの母乳汚染), インド (平成23年3月まで)
- 9) Nguyen Minh Tue, 大学院理工学研究科博士後期課程, 大学支援経費, Occupational Exposure to POPs and BFRs in Recycle Plant in Vietnam (ベトナムのリサイクル作業従事者の POPs・BFRs 暴露評価), ベトナム (平成22年9月まで)
- 10) Gnanasekaran Devanathan, 大学院連合農学研究科博士課程, 国費, Organohalogen Compounds in Human Breast Milk from India (有機ハロゲン化合物によるインドの母乳汚染), インド (平成23年9月まで)
- 11) Nguyen Ngoc Ha, 大学院理工学研究科博士後期課程, 私費, Contamination Status and Human Exposure to Trace Elements in E-waste Recycling and Waste Dumping Sites in India and Vietnam (アジア途上国の廃棄物処理・循環過程における微量元素汚染), ベトナム (平成23年9月まで)
- 12) Muhammad Ilyas, 大学院理工学研究科博士後期課程, 大学支援経費, Levels, Distribution and Profiles of POPs and BFRs in Environmental and Human Matrices Collected from Surabaya, Indonesia (インドネシア・スラバヤの POPs および BFRs 汚染の実態解明), インドネシア (平成23年9月まで)
- 13) Kuwadwo Ansong Asante, 大学院理工学研究科博士後期課程, 私費, Contamination by POPs and BFRs in e-waste recycling sites in Ghana (ガーナ e-waste リサイクル処理地域における POPs・BFRs 汚染の実態解明), ガーナ (平成24年3月まで)
- 14) Pham Thanh Hien, 大学院理工学研究科博士前期課程, 大学支援経費, Monitoring studies on contamination status of POPs and BFRs in coastal fish from Vietnam and in the marine food-web of Japan Sea (ベトナム沿岸性魚類および日本海の海洋生態系食物網における POPs・BFRs 汚染の実態解明) (平成23年9月まで)

生態系解析部門

- 1) Phan Hoa Thi Phuong, 連合農学研究科博士課程, 私費, ベトナム養殖場における薬剤耐性菌の分布と伝播, ベトナム
- 2) Chui Wei Bong, 理工学研究科, マレーシア国費, 海水中のプロテアーゼの研究, マレーシア

6. 國際的活動

- 3) Jun-Young Song, 理工学研究科博士課程, 私費, 重油が魚類免疫系に与える影響, 韓国
- 4) Ngyen Tai Tue, 大学院理工学研究科博士後期課程アジア環境学特別コース, 大学経費, ベトナム共和国ホーン川河口における堆積物の動態と重金属汚染, ベトナム共和国

7. 教育活動



7. 1 卒業論文・修士論文・博士論文 題目（平成21年度）

環境動態解析部門

卒業論文

- 1) 鈴木 正也：急潮によるミズクラゲ集群の変動に関する研究
- 2) 松本 洋輔：別府湾堆積物を用いた過去2100年間における魚類資源変動に関する研究
- 3) 池田 創：豊後水道における急潮進入速度の空間分布に関する研究
- 4) 笠毛 健生：東シナ海黒潮前線が励起する冬季降雨帯の検出
- 5) 田村 優佳：潮目周辺に集積する漂流プラスチックゴミによる海洋汚染に関する研究
- 6) 出来 紀子：海岸ゴミ漂着量の空撮による定量化と組成分析

化学汚染・毒性解析部門

卒業論文

- 1) 神原 千佳：日本近海の鰆脚類に残留する水酸化 PCBs の蓄積特性
- 2) 濱田 宏基：臭素系難燃剤による瀬戸内海産魚介類の汚染実態と地域比較
- 3) 安田 悠佑：スジイルカ (*Stenella coeruleoalba*) における微量元素の蓄積特性と経年変動
- 4) 小松 幸恵：臭素系難燃剤による高知県沿岸および沖合の魚介類汚染
- 5) 野口 貴子：鉛バッテリーリサイクル施設における微量元素のヒト暴露実態—ベトナム北部地域の現状—

修士論文

- 1) 飯田 緑：TCDD曝露したマダイ胚の形態および抹消神経系への影響
- 2) 岩渕 康平：鳥類 AHR1アイソフォーム (2nd AHR1) の機能解析
- 3) 山口 恵佑：バイカルアザラシ (*Pusa sibirica*) シトクロム P4501A1/1B1の機能解析
- 4) 能丸 幸治：鳥類のダイオキシン受容体 AHR2の機能解析：トランスジェニックマウスの作製と細胞内動態
- 5) 江口 哲史：Contamination by Brominated Flame Retardants in Soil Samples from Asian Developing Countries
- 6) 今井 智子：瀬戸内海沿岸に漂着したスナメリの臭素系難燃剤汚染
- 7) 早瀬 太佑：北太平洋生態系における微量元素の生物濃縮特性
- 8) 塩崎 彰：日本沿岸に漂着したスナメリにおけるダイオキシン類および PCB 汚染
- 9) 水川 葉月：Accumulation Features of Hydroxylated-PCBs (OH-PCBs) in the Blood of Pigs Collected from a 10) Dumping Site for Municipal Wastes in India

博士論文

- 1) 染谷 雅之：イガイを用いたアジア沿岸域におけるダイオキシン類汚染の実態解明
- 2) 今井 洋幸：*Microcystis* 属の増殖・コロニー発達に及ぼす生態学的要因の解明

生態系解析部門

卒業論文

- 1) 中村 由貴：台湾の水圏における水銀およびオキシテトラサイクリン汚染と耐性菌の調査
- 2) 須賀 秀樹：海水中ペプチド性物質の濃縮法の検討
- 3) 岩切 翔吾：Time course study of gene expression changes in Japanese flounder *Paralichthys olivaceus* with lymphocystis cells formation by a microarray experiment
- 4) 横崎 幸恵：Characterization of extracellular proteases from *Miamiensis avidus* causing scuticociliatosis in marine fish

7. 教育活動

- 5) 岡田 雄太：伊予灘・長浜沖海砂採取地点における底生生物相の経年変化
- 6) 鴨川 翔吾：宇和海産マアジの生態学的研究
- 7) 高橋 遼介：伊予灘カサゴの個体群動態に関する研究
- 8) 佐伯 知波：伊予灘及び斎灘におけるナメクジウオの生態学的研究
- 9) 柴田 未央：来園者が与える給餌用モナカがベニガオザルの及ぼす影響
- 10) 関谷 卓磨：僧都川河口におけるハマボウの個体群解析
- 11) 北原美沙紀：ハマボウ幼木の成長実験解析
- 12) 磯中 竜一：瀬戸内海海域生態系の解析：安定同位体比解析による低次生態系解析
- 13) 南口 哲也：アジの食性解析

修士論文

- 1) 高巣 裕之：タイの水圏におけるキノロン系薬剤汚染と耐性菌の分布
- 2) 太田 翔：ヒラメ *Paralichthys olivaceus* における重油暴露による免疫抑制からの回復
- 3) 本川 祥吾：血清型の異なる3株のスクーチカ症の原因虫 *Miamiensis avidus* の纖毛タンパク質およびその遺伝子解析

博士論文

- 1) Phan Thi Phuong Hoa : Occurrence of sulfonamide-resistant bacteria and resistance genes in aquatic environments of north Vietnam.

7. 2 講義・集中講義（平成20年度）

環境動態解析部門

武岡 英隆

- 1) 平成21年度前期、環境科学セミナー I, 愛媛大学スーパーサイエンス特別コース
- 2) 平成21年度前期、コース英語 I, 愛媛大学スーパーサイエンス特別コース
- 3) 平成21年度前期、海洋学通論, 愛媛大学スーパーサイエンス特別コース・理学部
- 4) 平成21年度前期、環境建設工学特別演習 I, 愛媛大学工学部
- 5) 平成21年度前期、地球科学, 愛媛大学工学部
- 6) 平成21年度前期、人類と環境、海と地球環境, 愛媛大学共通教育
- 7) 平成21年度前期、自然の法則, 愛媛大学共通教育
- 8) 平成21年度後期、環境科学セミナーIV, 愛媛大学スーパーサイエンス特別コース
- 9) 平成21年度後期、環境学通論, 愛媛大学スーパーサイエンス特別コース・理学部
- 10) 平成21年度後期、自然の法則, 愛媛大学共通教育
- 11) 平成21年度後期、海洋環境学, 愛媛大学工学部
- 12) 平成21年度後期、環境建設工学特別演習 II, 愛媛大学工学部
- 13) 平成21年度前期、沿岸海洋学特論, 愛媛大学大学院理工学研究科博士前期課程
- 14) 平成21年度前後期、環境建設工学ゼミナール, 愛媛大学大学院理工学研究科博士前期課程
- 15) 平成21年度前後期、環境建設工学特別実験, 愛媛大学大学院理工学研究科博士前期課程
- 16) 平成21年度後期、海洋環境工学特論III, 愛媛大学大学院理工学研究科博士後期課程

郭 新宇

- 1) 平成21年度前期、地球科学野外研究, 愛媛大学理学部
- 2) 平成21年度後期、地球科学特別演習 I, 愛媛大学理学部
- 3) 平成21年度前期、沿岸海洋学, 愛媛大学理学部・愛媛大学スーパーサイエンス特別コース
- 4) 平成21年度後期、地球科学課題研究, 愛媛大学理学部
- 5) 平成21年度後期、海洋物理学実験, 愛媛大学理学部
- 6) 平成21年度後期、地球科学特別演習 II, 愛媛大学理学部

- 7) 平成21年度後期, 海洋物理学Ⅱ, 愛媛大学理学部・愛媛大学スーパーサイエンス特別コース
- 8) 平成21年度前期, 大気海洋科学特論, 愛媛大学大学院理工学研究科博士前期課程
- 9) 平成21年度前期, 地球科学高等実験Ⅰ, 愛媛大学大学院理工学研究科博士前期課程
- 10) 平成21年度前期, 地球科学高等実験Ⅴ, 愛媛大学大学院理工学研究科博士前期課程
- 11) 平成21年度前期, 地球科学フィールド高等実習Ⅰ, 愛媛大学大学院理工学研究科博士前期課程
- 12) 平成21年度前期, 地球科学フィールド高等実習Ⅴ, 愛媛大学大学院理工学研究科博士前期課程
- 13) 平成21年度後期, 地球科学高等実験Ⅲ, 愛媛大学大学院理工学研究科博士前期課程
- 14) 平成21年度後期, 地球科学フィールド高等実習Ⅲ, 愛媛大学大学院理工学研究科博士前期課程
- 15) 平成21年度前期, 大気海洋力学, 愛媛大学大学院理工学研究科博士後期課程
- 16) 平成21年度前後期, 地球進化学特論Ⅷ, 愛媛大学大学院理工学研究科博士後期課程

磯辺 篤彦

- 1) 平成21年度前期, 地球科学野外研究, 愛媛大学理学部
- 2) 平成21年度前期, 地球環境学序論, 愛媛大学理学部
- 3) 平成21年度前期, 自然の法則, 愛媛大学共通教育
- 4) 平成21年度前期, 海洋物理学Ⅰ, 愛媛大学理学部
- 5) 平成21年度前期, 地球科学Ⅱ, 愛媛大学共通教育
- 6) 平成21年度後期, 地球科学特別演習Ⅰ, 愛媛大学理学部
- 7) 平成21年度後期, 地球科学課題研究, 愛媛大学理学部
- 8) 平成21年度後期, 海洋物理学実験, 愛媛大学理学部
- 9) 平成21年度後期, 地球科学特別演習Ⅱ, 愛媛大学理学部
- 10) 平成21年度前期, 地球科学高等実験Ⅰ, 愛媛大学大学院理工学研究科博士前期課程
- 11) 平成21年度前期, 地球科学高等実験Ⅴ, 愛媛大学大学院理工学研究科博士前期課程
- 12) 平成21年度前期, 地球科学フィールド高等実習Ⅰ, 愛媛大学大学院理工学研究科博士前期課程
- 13) 平成21年度前期, 地球科学フィールド高等実習Ⅴ, 愛媛大学大学院理工学研究科博士前期課程
- 14) 平成21年度後期, 地球科学高等実験Ⅲ, 愛媛大学大学院理工学研究科博士前期課程
- 15) 平成21年度後期, 地球科学フィールド高等実習Ⅲ, 愛媛大学大学院理工学研究科博士前期課程

半藤 逸樹

- 1) 平成21年度前期, 物理学実験, 愛媛大学工学部 環境建設工学科
- 2) 平成21年度前期, 環境建設工学特別演習Ⅰ, 愛媛大学工学部 環境建設工学科
- 3) 平成21年度後期, 海洋物理学, 愛媛大学工学部 環境建設工学科
- 4) 平成21年度後期, 環境建設工学特別演習Ⅱ, 愛媛大学工学部 環境建設工学科
- 5) 平成21年度後期, 環境ESD指導者養成講座Ⅰ, 愛媛大学共通教育

化学汚染・毒性解析部門**講 義****田辺 信介**

- 1) 平成21年度前期, 人類と環境, 愛媛大学共通教育
- 2) 平成21年度前期, 自然の法則, 愛媛大学共通教育
- 3) 平成21年度後期, 自然の法則, 愛媛大学共通教育
- 4) 平成21年度前後期, 環境保全セミナー, 愛媛大学農学部
- 5) 平成21年度前期, 海洋環境学, 愛媛大学農学部
- 6) 平成21年度後期, 環境化学, 愛媛大学農学部
- 7) 平成21年度前期・後期, 卒業論文, 愛媛大学農学部
- 8) 平成21年度前期, 環境科学セミナーⅠ, 愛媛大学スーパーサイエンス特別コース
- 9) 平成21年度前期, 環境科学セミナーⅢ, 愛媛大学スーパーサイエンス特別コース
- 10) 平成21年度前期, Environmental Toxicology and Chemistry, 愛媛大学大学院農学研究科アジア・アフリカ環太平洋生物資源学特別コース

7. 教育活動

- 11) 平成21年度前期, Advanced Lab Work IV, 愛媛大学大学院農学研究科アジア・アフリカ環太平洋生物資源学特別コース
- 12) 平成21年度前期, Advanced Practicum IV, 愛媛大学大学院農学研究科アジア・アフリカ環太平洋生物資源学特別コース
- 13) 平成21年度前期, Advanced Seminar IV, 愛媛大学大学院農学研究科アジア・アフリカ環太平洋生物資源学特別コース
- 14) 平成21年度前期, 有害物質動態論, 愛媛大学大学院農学研究科
- 15) 平成21年度前期, 生物環境保全学研究, 愛媛大学大学院農学研究科
- 16) 平成21年度前後期, 生物環境保全学演習 I, 愛媛大学大学院農学研究科
- 17) 平成21年度前後期, 生物環境保全学演習 II, 愛媛大学大学院農学研究科
- 18) 平成21年度前後期, 生物環境保全学実験 I, 愛媛大学大学院農学研究科
- 19) 平成21年度前後期, 生物環境保全学実験 II, 愛媛大学大学院農学研究科
- 20) 平成21年度前期, 環境汚染論, 愛媛大学大学院理工学研究科博士前期課程
- 21) 平成21年度前期, 生物学課題実験 I, 愛媛大学大学院理工学研究科博士前期課程
- 22) 平成21年度後期, 生物学課題実験 II, 愉媛大学大学院理工学研究科博士前期課程
- 23) 平成21年度前期, 生態環境科学特論 II, 愉媛大学大学院理工学研究科博士後期課程
- 24) 平成21年度前期・後期, 環境機能科学特別研究, 愉媛大学大学院理工学研究科博士後期課程
- 25) 平成21年度前期・後期, 環境機能科学特別演習, 愉媛大学大学院理工学研究科博士後期課程

岩田 久人

- 1) 平成21年度前後期, 自然の法則, 愉媛大学共通教育
- 2) 平成21年度後期, 環境学通論, 愉媛大学理学部
- 3) 平成21年度後期, 環境学通論, 愉媛大学スーパーサイエンス特別コース
- 4) 平成21年度前後期, 生態化学実験, 愉媛大学農学部
- 5) 平成21年度後期, 環境化学実験, 愉媛大学農学部
- 6) 平成21年度前期, 環境毒性学, 愉媛大学農学部
- 7) 平成21年度前後期, 環境保全セミナー, 愉媛大学農学部
- 8) 平成21年度前期・後期, 卒業論文, 愉媛大学農学部
- 9) 平成21年度後期, 環境科学コース英語 II, 愉媛大学スーパーサイエンス特別コース
- 10) 平成21年度前期, 環境科学コースセミナー III, 愉媛大学スーパーサイエンス特別コース
- 11) 平成21年度後期, 環境科学コースセミナー IV, 愉媛大学スーパーサイエンス特別コース
- 12) 平成21年度前期, 基礎専門科目 N 毒性学, 愉媛大学大学院農学研究科
- 13) 平成21年度後期, 環境分子毒性学, 愉媛大学大学院農学研究科
- 14) 平成21年度後期, 生物環境保全学研究, 愉媛大学大学院農学研究科
- 15) 平成21年度前後期, 生物環境保全学演習 I, 愉媛大学大学院農学研究科
- 16) 平成21年度前後期, 生物環境保全学演習 II, 愉媛大学大学院農学研究科
- 17) 平成21年度前後期, 生物環境保全学実験 I, 愉媛大学大学院農学研究科
- 18) 平成21年度前後期, 生物環境保全学実験 II, 愉媛大学大学院農学研究科
- 19) 平成21年度後期, 環境分子毒性学, 愉媛大学大学院理工学研究科博士前期課程
- 20) 平成21年度前期, 特別セミナー講義 Wildlife Toxicology of Dioxins, 愉媛大学大学院連合農学研究科

高橋 真

- 1) 平成21年度前期, 環境科学セミナー II, 愉媛大学スーパーサイエンス特別コース
- 2) 平成21年度後期, 環境学概論, 愉媛大学スーパーサイエンス特別コース
- 3) 平成21年度前期, 生態環境化学, 愉媛大学大学院理工学研究科博士前期課程
- 4) 平成21年度前期, 生物学課題実験 I, 愉媛大学大学院理工学研究科博士前期課程
- 5) 平成21年度後期, 生物学課題実験 II, 愉媛大学大学院理工学研究科博士前期課程
- 6) 平成21年度前期, 生態環境科学特論 V, 愉媛大学大学院理工学研究科博士後期課程
- 7) 平成21年度前期・後期, 環境機能科学特別研究, 愉媛大学大学院理工学研究科博士後期課程

8) 平成21年度前期・後期, 環境機能科学特別演習, 愛媛大学大学院理工学研究科博士後期課程

仲山 慶

1) 平成21年度後期, 環境化学実験, 愛媛大学農学部

集中講義

田辺 信介

1) 平成21年度後期, 生物濃縮論, 熊本県立大学環境共生学部

岩田 久人

1) 平成21年度, 化学物質による野生動物への影響とリスク評価, 東京大学大学院医学系研究科

板井 啓明

1) 平成21年度後期, 地質学特別講義IV, 筑波大学生命環境学群

生態系解析部門

講 義

鈴木 聰

- 1) 平成21年度後期, 地球と環境, 愛媛大学共通教育
- 2) 平成21年度前期, 海洋分子生態学, 愛媛大学理学部
- 3) 平成21年度前期, 環境生化学, 愛媛大学農学部
- 4) 平成21年度前期, 環境学概論, 愛媛大学スーパーサイエンスコース
- 5) 平成21年度後期, コース英語, 愛媛大学スーパーサイエンスコース
- 6) 平成21年度前期, 環境科学コースセミナー, 愛媛大学スーパーサイエンスコース
- 7) 平成21年度前期, 分子生態学実験, 愛媛大学農学部
- 8) 平成21年度前後期, 分子生態学実習, 愛媛大学農学部
- 9) 平成21年度後期, 環境分子生物学, 愛媛大学大学院農学研究科
- 10) 平成21年度後期, 水圏微生物学, 愛媛大学大学院理工学研究科博士前期課程
- 11) 平成21年度前後期, 生物地球圏科学ゼミナール I, 愛媛大学大学院理工学研究科博士前期課程
- 12) 平成21年度前後期, 生物地球圏科学ゼミナール II, 愛媛大学大学院理工学研究科博士前期課程
- 13) 平成21年度前後期, 生物環境保全学研究, 愛媛大学大学院農学研究科
- 14) 平成21年度前後期, 生物環境保全学演習 I, 愛媛大学大学院農学研究科
- 15) 平成21年度前後期, 生物環境保全学演習 II, 愛媛大学大学院農学研究科
- 16) 平成21年度前後期, 生物環境保全学実験 I, 愛媛大学大学院農学研究科
- 17) 平成21年度前後期, 生物環境保全学実験 II, 愛媛大学大学院農学研究科
- 18) 平成21年度後期, 生態環境科学特論 III, 愛媛大学大学院理工学研究科博士後期課程

北村 真一

- 1) 平成21年度前期, 海洋生物学, 愛媛大学理学部
- 2) 平成21年度前期, 海洋生物学実習, 愛媛大学理学部
- 3) 平成21年度後期, 生物学課題研究, 愛媛大学理学部
- 4) 平成21年度前期, 生物学ゼミナール I, 愛媛大学理学部
- 5) 平成21年度後期, 生物学ゼミナール II, 愛媛大学理学部
- 6) 平成21年度後期, 生物学展望, 愛媛大学理学部
- 7) 平成21年度後期, 新入生セミナー, 愛媛大学スーパーサイエンスコース
- 8) 平成21年度後期, 課題研究 I, 愛媛大学スーパーサイエンスコース
- 9) 平成21年度前期, 課題研究 II, 愛媛大学スーパーサイエンスコース
- 10) 平成21年度後期, 課題研究 III, 愛媛大学スーパーサイエンスコース
- 11) 平成21年度後期, 水圏微生物学, 愛媛大学大学院理工学研究科博士前期課程

7. 教育活動

- 12) 平成21年度前期, 生物学課題実験Ⅰ 愛媛大学大学院理工学研究科博士前期課程
- 13) 平成21年度後期, 生物学課題実験Ⅲ 愛媛大学大学院理工学研究科博士前期課程
- 14) 平成21年度前期, 生物学課題実験Ⅲ 愛媛大学大学院理工学研究科博士前期課程

金本自由生

- 1) 平成21年前期, 海洋生物学実習, 愛媛大学理学部
- 2) 平成21年前期, 基礎生物学演習, 愛媛大学理学部
- 3) 平成21年現代GP, 濱戸内環境ESD海洋生物担当, 愛媛大学

大森 浩二

- 1) 平成21年度前期, 博物館実習(事前指導)
- 2) 平成21年度前期, 基礎英語, 愛媛大学理学部
- 3) 平成21年度後期, 野外実習, 愛媛大学理学部
- 4) 平成21年度後期, 博物館実習(事後指導)
- 5) 平成21年度後期, 環境生物学, 愛媛大学理学部
- 6) 平成21年度後期, 環境科学セミナーⅡ, SSC
- 7) 平成21年度後期, 環境科学セミナーⅢ, SSC

集中講義

北村 真一

- 1) 平成21年度前期, 環境生物学特別講義Ⅲ, 東京農工大学大学院博士前期課程
- 2) 平成21年度後期, 細胞培養工学, 福井県立大学大学院博士前期課程

8. 設 備



(平成21年度導入)

化学汚染・毒性解析部門

- 1) 高速加熱流下抽出装置：環境および生物試料中有害物質の抽出装置



- 2) 高速液体クロマトグラフ・タンデム質量分析計（LC-MS/MS）：環境試料および生物試料中の微量有機汚染物質およびその代謝産物（とくに極性を持つ化合物）の定量分析



- 3) ミキサーミル：廃プラスチック等を液体窒素で冷却・粉碎することで均一に粉碎する機器



8. 設 備

- 4) 不攪乱柱状堆積物採取装置：内湾等の底泥（柱状堆積物）試料の採取



- 5) HPLC：分取用 LC カラムあるいは GPC カラムを接続して試料を前処理・分画する機器



- 6) 超純水製造装置：水道水から超純水を精製し、実験器具の洗浄と分解試料の希釈等に利用



9. 広 報



(平成21年度)

9. 1 CMES ニュース・グローバル COE ニュース

CMES ニュース No. 20

目 次

CMES が新体制で再出発

【新任職員紹介】

「地球化学から環境化学へ」

化学汚染・毒性解析部門 助 教 板井 啓明

「沿岸域の環境修復とは？」

環境動態解析部門 研究員 小森田智大

「近過去」生態学

環境動態解析部門 研究員 櫻木 玲美

【活動報告】

沿岸海洋学研究室の活動報告

2009年度日本海洋学春季大会参加報告

第18回環境化学討論会参加報告1

第18回環境化学討論会参加報告2

科学研究費等によるプロジェクト

学会賞受賞報告

編集後記

CMES ニュース No. 21

目 次

CMES 設立10周年 記念シンポジウムと記念式典を開催!!

【受賞報告】

平成21年度科学研究費補助金第一段審査貢献表彰

第15回日本環境毒性学会・バイオアッセイ研究会合同研究発表会で奨励賞を受賞

【研究活動報告】

「“微分可能”な世界貿易とサステナビリティ」

環境動態解析部門 助 教 半藤 逸樹

「間接型汚染の環境化学」

化学汚染・毒性解析部門 助 教 板井 啓明

「バクテリアコミュニティーの形成メカニズムの解明」

生態系解析部門 助 教 堀 弘道

【学会参加報告】

PICES 2009 Annual Meeting 参加報告

2009年度日本海洋学会秋季大会 参加報告

大学博物館開館

編集後記

グローバルCOEニュース No. 4

目 次

グローバルCOE国際シンポジウム開催報告

平成20年度グローバルCOEプログラム研究成果報告会

[全体報告・サブテーマ1・サブテーマ2・サブテーマ3]

近畿大学・愛媛大学・グローバルCOEジョイントフォーラム2008開催報告

9. 広 報

第1回『グローバルCOEキャリアパス講座』開催報告
COE研究員の自己紹介 [柴田淳也・川口将史・簡 梅芳]
第13回『グローバルCOE特別セミナー』開催報告
第5回『グローバルCOE若手の会特別セミナー』開催報告
第6回『グローバルCOE若手の会特別セミナー』開催報告
第7回『グローバルCOE若手の会特別セミナー』開催報告
第8回『グローバルCOE若手の会特別セミナー』開催報告
海外研究報告
編集後記

グローバルCOEニュース No. 5

目 次

中間評価結果報告
グローバルCOE国際シンポジウム開催・参加報告
第2回グローバルCOEワークショップ
「環境化学物質の蓄積と海棲哺乳類の健康リスク」開催報告
THE 2nd Joint Forum of Environmental Sciences 開催報告
表彰報告
COE研究員の自己紹介 [小野 純・平野将司・金 俊佑]
第14回『グローバルCOE特別セミナー』開催報告
第15回『グローバルCOE特別セミナー』開催報告
第16回『グローバルCOE特別セミナー』開催報告
第17回『グローバルCOE特別セミナー』開催報告
第18回『グローバルCOE特別セミナー』開催報告
第19回『グローバルCOE特別セミナー』開催報告
若手会活動報告
編集後記

9. 2 報道関係

環境動態解析分野

武岡 英隆

- 1) 平成21年7月6日, ミズクラゲ越冬, 通年被害の恐れ—宇和海で大発生の可能性, 愛媛新聞

磯辺 篤彦

- 1) 平成21年4月14日, 漂着ゴミプロジェクト, フジテレビ・スーパーNEWS
- 2) 平成21年6月24日, 漂着ゴミプロジェクト, 韓国KBS放送・環境特別番組

化学汚染・毒性解析部門

田辺 信介

- 1) 平成21年10月21日, 寄りクジラを追えSNHの挑戦, 情報の宝庫 海洋と人をつなぐ 海洋汚染に警鐘, 北海道新聞
- 2) 平成21年12月18日, 科研費審査で模範的意見, 「第1段」委員20氏を表彰 日本国学術振興会, 科学新聞
- 3) 平成21年12月1日, 科学技術削減に反発 事業仕分け後半戦県内反応, 研究者水準低下憂う, ビジョン示さず無責, 愛媛新聞
- 4) 平成21年12月4日, 愛媛大 国内外研究者がシンポ, アジアの環境科学展望は, 愛媛新聞
- 5) 平成21年12月5日, 世界一受けたい授業#160・3時限目「理科」, 「人間によって汚染された動物たち」「身近にひそむ有害な化学物質の恐怖」, 日本テレビ

- 6) 平成22年1月1日, 国際生物多様性年に寄せて 保全に取り組む県人たち, 生態系脅かす化学物質, 愛媛新聞
- 7) 平成22年1月9日, 学究の先へ, 探る化学物質汚染禍 生物や水の異変に警鐘, 愛媛大学沿岸環境科学研究中心 田辺信介教授, 愛媛新聞
- 8) 平成22年2月15日, 「グローバル COE」予算大幅削減, 愛媛大の波紋広がる, 愛媛新聞

岩田 久人

- 1) 平成21年10月10日, 17日 愛媛大学 研究室からこにちは出演, 南海放送ラジオ

高橋 真

- 1) 平成21年5月, バイオ・インジケータによる環境モニタリング, 株式会社レッヂュエ広報誌「the sample」

生態系解析部門

- 1) 鈴木 聰: 平成21年6月26日, エフエム愛媛, フレッシュライフ (環境月間特集)

9. 3 講座, 講演会等

環境動態解析分野

- 1) 武岡 英隆: 世界レベルの先端研究に触れる, ステップアップ中学校理科研修講座 (愛媛県教育委員会), 愛媛大学, 5月19日.
- 2) 武岡 英隆: 環境教育学, 生態系II—海 (命を育む潮の流れ), 愛媛大学附属高校, 11月6, 13, 20日.
- 3) 武岡 英隆: ミズクラゲパッチの形成機構と大量発生原因, 平成21年度日本水産学会中国・四国支部シンポジウム「どうしてクラゲはこんなに大量にやって来るの?」, 広島市西区民文化センター, 11月28日
- 4) 武岡 英隆: 研究センターを中心とする研究者養成プログラム—愛媛大学スーパーサイエンス特別コースの取り組み—, 高大連携による工学系フロンティアリーダー育成プログラム, 平成21年度シンポジウム, 群馬大学工学部, 3月8日.
- 5) 半藤 逸樹: 異常気象の原因は恋愛? 世界を騒がすエル・ニーニョ現象, 高大連携, 愛媛県立南宇和高等学校
- 6) 半藤 逸樹: 世界貿易の鼓動は愛!, 総合地球環境学研究所循環プログラム講演会, 京都市, 7月.

化学汚染・毒性解析部門

- 1) 田辺 信介: 環境ホルモンについて, 愛媛県立松山南高等学校スーパーサイエンスハイスクール高大連携授業, 松山市, 2月.
- 2) 田辺 信介: 環境ホルモンを考える, 石けんを広める愛媛県連絡会, 松山市, 7月.
- 3) 田辺 信介: 有害物質の地球汚染を考える, 平成21年度えひめ環境大学, 松山市, 7月.
- 4) 田辺 信介: PCB (ポリ塩化ビフェニール) の環境問題—何故廃棄物の処理が必要なのか—, オオノ開発株式会社環境問題に関する講演会, 松山市, 9月.
- 5) 田辺 信介: 低濃度PCB廃棄物について, 低濃度PCB処理計画説明会, 新居浜市, 10月. 資料集, 1-4.
- 6) 岩田 久人: 平成21年度, 環境汚染物質による野生生物への毒性影響, 三重中学校修学旅行生講義
- 7) 岩田 久人: 平成21年度, 沿岸環境科学研究中心の現状と展望, 愛媛大学開学60周年記念 沿岸環境科学研究中心設立10周年記念シンポジウム
- 8) 石橋 弘志: 平成21年度, 線虫をモデルとした食品成分の安全性評価, 生物化学的測定研究会第14回 (2009年) 学術年会, 大阪市, 6月5日

生態系解析分野

- 1) 鈴木 聰: 宝くじは買わないとあたらない, 科学研究費説明会, 松山市, 平成21年9月30日
- 2) 鈴木 聰: 特別講演, 水圏環境の薬剤耐性菌～東南アジアの抗生物質汚染と薬剤耐性菌分布の現状, 腸炎ビブリオシンポジウム, 岡山市, 平成21年11月26日

9. 広 報

- 3) 鈴木 聰：地球を創り地球を守る微生物，日立ITユーザーの会，高松市，平成22年1月26日

10. 調査実習船「いさな」運航状況 ●●●●●●●●●●●●

(平成20年度)

船長：大西秀次郎

日付	運行海域	目的
H21.4.16	別府湾	別府湾調査
H21.4.23～24	伊予灘, 豊後水道	海洋観測
H21.5.11	安芸灘	瀬戸内海の各灘における食物網構造の解明に関する調査
H21.5.12	中島	ナメクジウオ調査
H21.5.13	別府湾	別府湾調査
H21.5.15	北条沖	学生実習(環境建設特別演習)
H21.5.18	豊後水道	瀬戸内海の各灘における食物網構造の解明に関する調査
H21.5.19	北条沖	ナメクジウオ調査
H21.5.20	周防灘	瀬戸内海の各灘における食物網構造の解明に関する調査
H21.5.24	瀬戸内海	瀬戸内海の各灘における食物網構造の解明に関する調査
H21.5.25～27	播磨灘, 大阪湾, 紀伊水道	瀬戸内海の各灘における食物網構造の解明に関する調査
H21.6.2	由利島	魚類調査
H21.6.3	伊予灘	観測・クラゲ調査
H21.6.5	伊予灘, 豊後水道	観測
H21.6.6	北条沖	生物調査
H21.6.16	長浜沖	海砂調査
H21.6.25～26	伊予灘, 豊後水道	観測
H21.7.3	北条沖	環境特別演習
H21.7.6	安芸灘	瀬戸内海の各灘における食物網構造の解明に関する調査
H21.7.7	中島	魚類調査
H21.7.8	周防灘	瀬戸内海の各灘における食物網構造の解明に関する調査
H21.7.14	長浜沖	海砂調査
H21.7.16	別府湾	水柱の古最近分布などの解析のための採水及び採泥
H21.7.22	伊予灘, 豊後水道	海洋観測
H21.7.23	伊予灘, 豊後水道	海洋観測
H21.7.28	伊予灘	ナメクジウオ幼生調査
H21.7.30	伊予灘, 豊後水道	瀬戸内海の各灘における食物網構造の解明に関する調査
H21.7.31～8.1	伊予灘・宇和海	SSC 実習
H21.8.12	別府湾	別府湾調査
H21.8.17～18	伊予灘	ナメクジウオ幼生調査

10. 調査実習船「いさな」運航状況

H21.8.19	小豆島	瀬戸内海の各灘における食物網構造の解明に関する調査
H21.8.20	播磨灘, 大阪湾	瀬戸内海の各灘における食物網構造の解明に関する調査
H21.8.21	小豆島	瀬戸内海の各灘における食物網構造の解明に関する調査
H21.8.23～24	伊予灘, 豊後水道	海洋観測
H21.8.26	伊予灘	魚類調査
H21.8.27	燧灘	海洋観測
H21.8.29	伊予灘, 燐灘	海洋観測
H21.9.3	伊予灘	ナメクジウオ幼生調査
H21.9.6	伊予灘	ナメクジウオ幼生調査
H21.9.11	燧灘	海洋観測
H21.9.15	伊予灘	ナメクジウオ幼生調査
H21.9.17	伊予灘	海洋観測
H21.9.28	伊予灘	ナメクジウオ幼生調査
H21.9.29	伊予灘	魚類調査
H21.10.1	伊予灘	海洋観測
H21.10.3	別府湾	水柱の古最近分布などの解析のための採水及び採泥
H21.10.4	伊予灘	水柱の古最近分布などの解析のための採水及び採泥
H21.10.6	伊予灘	魚類調査
H21.10.13	伊予灘	海砂調査
H21.10.14	伊予灘	海洋観測
H21.10.15	伊予灘, 豊後水道	海洋観測
H21.10.21	伊予灘	魚類調査
H21.10.28	北条沖	県立松山南校研究室体験(ナメクジウオ調査)
H21.10.29	別府湾	水柱の古最近分布などの解析のための採水及び採泥
H21.11.4	伊予灘	魚類調査
H21.11.10	伊予灘	海砂調査
H21.11.20	伊予灘, 豊後水道	海洋観測
H21.11.25	北条沖	海砂調査
H21.12.8～9	伊予灘, 別府湾	水柱の古最近分布などの解析のための採水及び採泥
H21.12.15～16	伊予灘, 別府湾	水柱の古最近分布などの解析のための採水及び採泥
H21.12.21～22	伊予灘, 別府湾	水柱の古最近分布などの解析のための採水及び採泥
H22.1.18～19	伊予灘, 別府湾	水柱の古最近分布などの解析のための採水及び採泥
H21.2.17	中島	魚類調査
H22.2.22～23	伊予灘, 別府湾	水柱の古最近分布などの解析のための採水及び採泥
H22.3.2	中島	魚類調査
H22.3.17	松山沖	魚類調査
H22.3.18～19	伊予灘, 別府湾	水柱の古最近分布などの解析のための採水及び採泥

11. 研究員名簿

(研究員：沿岸環境科学研究センター規則（14章参照）に基づき任命された学内の協力研究者)

(平成21年度)

氏名	所属	職	研究課題	主として連携する研究分野
佐野 栄	教育学部理科教育	教 授	瀬戸内海の底質環境に関する総合研究	生態系解析部門
佐藤 成一	理工学研究科 環境機能科学専攻	教 授	淡水性藻類の細胞および細胞器官の形態形成	生態系解析部門
小南 哲也	理工学研究科 環境機能科学専攻	教 授	海産動物である棘皮動物(特にウニ)を用いた発生学的研究	生態系解析部門
中島 敏幸	理工学研究科 環境機能科学専攻	准教授	水界微生物群集の種間相互作用の解析	生態系解析部門
佐藤 康	理工学研究科 環境機能科学専攻	准教授	水生植物のリグニン合成・蓄積機構の研究	生態系解析部門
金田 剛史	理工学研究科 環境機能科学専攻	講 師	藻類の形態形成に関する研究	生態系解析部門
井上 幹生	理工学研究科 環境機能科学専攻	准教授	河川性魚類の生息環境の解析	生態系解析部門
堀 利栄	理工学研究科 数理物質科学専攻	准教授	瀬戸内海の底質環境に関する総合研究	環境動態解析部門
山口 正隆	理工学研究科 生産環境工学専攻	教 授	沿岸波浪に関する研究	環境動態解析部門
伊福 誠	理工学研究科 生産環境工学専攻	教 授	エスチャリーにおける混合と循環に関する研究	環境動態解析部門
畠田 佳男	理工学研究科 生産環境工学専攻	講 師	沿岸波浪に関する研究	環境動態解析部門
鈴木 幸一	理工学研究科 生産環境工学専攻	教 授	河川・河口域の環境に関する研究	環境動態解析部門
渡邊 政広	理工学研究科 生産環境工学専攻	教 授	都市域から沿岸海域への汚濁流出に関する研究	環境動態解析部門
中村 孝幸	理工学研究科 生産環境工学専攻	准教授	沿岸構造物に関する研究	環境動態解析部門
三宅 洋	理工学研究科 生産環境工学専攻	講 師	海岸地下水に関する研究	環境動態解析部門
井内 國光	理工学研究科 生産環境工学専攻	准教授	環境化学物質の生体リスク評価、特に免疫系に及ぼす化学物質の影響の解析	環境動態解析部門
森脇 亮	理工学研究科 生産環境工学専攻	准教授	大気環境に関する研究	環境動態解析部門

11. 研究員名簿

氏 名	所 属	職	研 究 課 題	主として連携する研究分野
三浦 猛	南予水産研究センター	教 授	環境汚染物質が魚類の生殖に与える影響の機構解明	化学汚染・毒性解析部門
高瀬 恵次	農学部生物資源学科	教 授	瀬戸内海流域の水収支	環境動態解析部門
四宮 博人	医学系研究科医学専攻	准教授	GISによる瀬戸内海沿岸域の土地利用解析	環境動態解析部門
堤 純	法文学部人文学科	准教授	GISによる瀬戸内海沿岸域の土地利用解析	環境動態解析部門
川瀬久美子	教育学部社会科教育	准教授	珪藻分析に基づく瀬戸内海の古環境変遷の解明	環境動態解析部門
菅原 卓也	農学部	准教授	環境化学物質の生体リスク評価、特に免疫系に及ぼす化学物質の影響の解析成	化学汚染・毒性解析部門
柿沼 喜己	農学部	教 授	イオンホメオスタシスへの化学物質の影響	化学汚染・毒性解析部門
村上 安則	理工学研究科 環境機能科学専攻	准教授	環境毒物が脊椎動物の神経系ならびにその発生過程に及ぼす影響の解析	化学汚染・毒性解析部門
藤野 貴広	総合科学研究支援センター	准教授	脂質代謝に於ける脂溶性難分解毒物質の動態	化学汚染・毒性解析部門

12. 客員研究員名簿



(客員研究員：沿岸環境科学研究センター規則（14章参照）に基づき委嘱された学外の協力研究者)

(平成21年度)

氏 名	所 属	職	研 究 課 題	主として連携する研究分野
磯田 豊	北海道大学大学院水産科学研究院	准教授	沿岸域の流動とモニタリングに関する研究	環境動態解析部門
原島 省	独立行政法人国立環境研究所水土圧圈環境研究領域	室 長	瀬戸内海のモニタリングに関する研究	環境動態解析部門
門谷 茂	北海道大学大学院水産科学研究院海洋環境科学分野	教 授	瀬戸内海の栄養塩動態に関する研究	環境動態解析部門
塚本 秀史	弓削商船高等専門学校情報工学科	教 授	燧灘の海洋構造に関する研究	環境動態解析部門
橋本 俊也	広島大学大学院生物圏科学研究科	准教授	生態系モデルに関する研究	環境動態解析部門
高橋 晓	独立行政法人産業技術総合研究所中国センター地質情報研究部門沿岸海洋研究グループ	主任研究員	瀬戸内海の流動の数値シミュレーションに関する研究	環境動態解析部門
森本 昭彦	名古屋大学地球水循環研究センター	准教授	豊後水道の水温予報に関する研究	環境動態解析部門
柳 哲雄	九州大学応用力学研究所東アジア海洋大気環境研究センター	教 授	沿岸海域の物質循環に関する研究	環境動態解析部門
松野 健	九州大学応用力学研究所海洋大気力学部門	教 授	東シナ海の流動と物質循環に関する研究	環境動態解析部門
市川 香	九州大学応用力学研究所	准教授	黒潮の沿岸海域への影響に関する研究	環境動態解析部門
清水 学	独立行政法人水産総合研究センター中央水産研究所	主任研究員	東シナ海の海洋構造に関する研究	環境動態解析部門
才野 敏郎	独立行政法人海洋研究開発機構 地球環境観測研究センター	プログラムディレクター	沿岸海域における基礎生産の変動とその制御要因に関する研究	環境動態解析部門
速水 祐一	佐賀大学有明海総合研究プロジェクト	准教授	沿岸海域における物質輸送、物理生物相互作用に関する研究	環境動態解析部門
木村 伸吾	東京大学大学院新領域創成科学研究科環境学研究系	教 授	海洋生物資源解析に関する研究	環境動態解析部門
杉本 隆成	東海大学海洋学部環境情報工学科	特任教授	沿岸海域の長期環境変動に関する研究	環境動態解析部門
井内 美郎	早稲田大学人間科学学術院	教 授	瀬戸内海の堆積物に関する研究	環境動態解析部門

12. 客員研究員名簿

氏 名	所 属	職	研 究 課 題	主として連携する研究分野
兼田 淳史	福井県立大学生物資源学部	講 師	豊後水道の物理環境に関する研究	環境動態解析部門
奈良 正和	高知大学理学部理学科	准教授	瀬戸内海の海底堆積物と底生動物に関する研究	環境動態解析部門
原口 強	大阪市立大学大学院理学研究科	准教授	内湾浅海域および湖沼の堆積プロセスの高分解能に関する研究	環境動態解析部門
山口 一岩	岡山理科大学工学部生体医工学科	講 師	人間活動が沿岸環境に及ぼす影響に関する研究	環境動態解析部門
柴田 康行	独立行政法人国立環境研究所化学環境研究領域	領域長	多環芳香族炭化水素、有機スズ化合物、重金属類およびPOPs関連化学物質の環境モニタリングおよび環境動態の解明	化学汚染・毒性解析部門
功刀 正行	東京理工大学環境保全室	嘱 記技術員	有害化学物質による海洋汚染の動態解明	化学汚染・毒性解析部門
堀口 敏宏	独立行政法人国立環境研究所環境リスク研究センター	主 席研究員	巻貝類の内分泌搅乱の実態及び機構の解明	化学汚染・毒性解析部門
森 千里	千葉大学大学院医学研究院環境生命医学	教 授	内分泌搅乱物質の人体汚染における生殖機能や次世代に対する影響	化学汚染・毒性解析部門
小宮山政敏	千葉大学大学院医学研究院環境生命医学	准教授	GFPマウスを用いた精子形成障害評価法の開発と生殖障害のメカニズムの解析	化学汚染・毒性解析部門
藤瀬 良弘	財団法人日本鯨類研究所	理 事	鯨類と海洋生態系における環境化学物質の蓄積特性と鯨類生態の解明に関する研究	化学汚染・毒性解析部門
高田 秀重	東京農工大学農学部環境資源科学科	教 授	東南アジア地域における微量有機汚染物質の分布・発生源・動態の解明	化学汚染・毒性解析部門
井口 泰泉	自然科学研究機構岡崎統合バイオサイエンスセンター	教 授	内分泌搅乱物質	化学汚染・毒性解析部門
大嶋 雄治	九州大学大学院農学研究院生物機能科学部門	准教授	水生生物における化学物質の影響	化学汚染・毒性解析部門
有菌 幸司	熊本県立大学環境共生学部食健康科学科	教 授	環境化学物質の生態毒性に関する研究	化学汚染・毒性解析部門
國頭 恒	信州大学理学部物質循環学科	准教授	微量元素の環境モニタリングおよび環境動態の解明	化学汚染・毒性解析部門
渡邊 泉	東京農工大学大学院共生科学技術研究院	准教授	野生生物の微量元素汚染および毒性影響の解明	化学汚染・毒性解析部門
山田 格	国立科学博物館動物研究部	室 長	海棲哺乳動物の生態に関する研究	化学汚染・毒性解析部門
野馬 幸生	国立環境研究所循環型社会・廃棄物研究センター	室 長	有害化学物質の適正処理及び分析法開発に関する研究	化学汚染・毒性解析部門
滝上 英孝	国立環境研究所循環型社会・廃棄物研究センター	主 任研究員	バイオアッセイ／化学分析を用いた残留性化学物質の包括評価と管理手法の開発	化学汚染・毒性解析部門
篠原 亮太	熊本県立大学大学院環境共生学研究科	教 授	PCBs代謝物の分析法開発と環境動態解析および生態リスク評価	化学汚染・毒性解析部門

氏名	所属	職	研究課題	主として連携する研究分野
堤 裕昭	熊本県立大学環境共生学部	教 授	有明海の生物生産と海洋環境保全	化学汚染・毒性解析部門
吉水 守	北海道大学大学院水産科学研究院	教 授	海洋生物のウイルス性疾病の制御に関する研究	生態系解析部門
小池 真夫	琉球大学	監 事	海洋中の生元素動態に関する研究	生態系解析部門
木暮 一啓	東京大学海洋研究所海洋生態系動態部門	教 授	海洋微生物の生理生態学的研究	生態系解析部門
永田 俊	東京大学海洋研究所海洋化学部門	教 授	水圏における溶存態有機物の動態に関する微生物群集の多様性と機能に関する研究	生態系解析部門
川端善一郎	総合地球環境学研究所	教 授	水圏微生物の実験生態学的研究	生態系解析部門
上 真一	広島大学(大学院生物圏科学研究科)	理事・副学長(教授)	海洋動物プランクトンの生産生態学的研究	生態系解析部門
深見 公雄	高知大学	理 事	海洋物質循環における微生物の役割と相互作用に関する研究	生態系解析部門
木下 泉	高知大学教育研究部総合科学系	教 授	仔稚魚の形態と生態に関する研究	生態系解析部門
伊谷 行	高知大学教育研究部人文社会科学系	准教授	海洋生物の共生に関する研究	生態系解析部門
野中 里佐	獨協医科大学微生物学講座	助 教	薬剤耐性菌の環境中動態に関する研究	生態系解析部門
中野 伸一	京都大学生態学研究センター	教 授	海洋食物網の動態解明	生態系解析部門
松岡 篤	新潟大学理学部地質科学科	教 授	瀬戸内海の底質環境に関する総合研究—プランクトンに関する研究—	生態系解析部門
三島 康史	独立行政法人産業技術総合研究所中国センターバイオマス研究センター	主任研究員	瀬戸内海の底質環境に関する総合研究—化学的側面に関する研究—	生態系解析部門
松岡 敦充	長崎大学(環東シナ海海洋環境資源研究センター)	理 事 教 授	瀬戸内海の底質環境に関する総合研究—プランクトンに関する研究—	生態系解析部門
上田 拓史	高知大学教育研究部総合科学系	教 授	海洋生物に関する研究	生態系解析部門
松田 博貴	熊本大学大学院自然科学研究科	教 授	浅海域の海底地形解析に関する研究	生態系解析部門

13. 運営委員会



(平成21年度)

委員長	武岡 英隆	沿岸環境科学研究センター教授
委 員	關口 和徳	法文学部講師
委 員	家山 博史	教育学部教授
委 員	村上 安則	大学院理工学研究科（理）准教授
委 員	谷川 武	大学院医学系研究科教授
委 員	伊福 誠	大学院理工学研究科（工）教授
委 員	若松 伸司	農学部教授
委 員	田辺 信介	沿岸環境科学研究センター教授
委 員	鈴木 聰	沿岸環境科学研究センター教授
委 員	岩田 久人	沿岸環境科学研究センター教授
委 員	磯辺 篤彦	沿岸環境科学研究センター教授
委 員	大森 浩二	沿岸環境科学研究センター准教授
委 員	郭 新宇	沿岸環境科学研究センター准教授
委 員	高橋 真	沿岸環境科学研究センター准教授
委 員	北村 真一	沿岸環境科学研究センター准教授
委 員	松本 正	研究支援部長（役職指定）

14. センター規則および運営委員会規程 ● ● ● ● ● ● ● ● ●

愛媛大学沿岸環境科学研究センター規則

平成16年4月1日
規則第197号

(趣旨)

第1条 この規則は、国立大学法人愛媛大学基本規則第30条第2項の規定に基づき、愛媛大学沿岸環境科学研究センター（以下「センター」という。）の組織及び運営に関し、必要な事項を定めるものとする。

(目的)

第2条 センターは、学内共同施設として、沿岸域の環境科学に関する研究及び教育を行うことにより、沿岸環境科学研究の総合的推進を図り、併せて地域社会の発展に貢献することを目的とする。

(研究部門)

第3条 前条の目的を達成するため、センターに次の研究部門を置く。

- (1) 環境動態解析部門
- (2) 化学汚染・毒性解析部門
- (3) 生態系解析部門
- (4) 國際・社会連携部門

(組織)

第4条 センターに、次の各号に掲げる職員を置く。

- (1) センター長
- (2) 専任教員
- (3) その他必要な職員（以下「センター職員」という。）

(先端研究推進会議)

第5条 センターの業務に関する重要な事項は、愛媛大学先端研究推進支援機構先端研究推進会議（以下「先端研究推進会議」という。）において審議する。

(運営委員会)

第6条 センターの運営に関する事項を審議するため、センター運営委員会（以下「運営委員会」という。）を置く。

2 運営委員会に関する規程は、別に定める。

(センター長)

第7条 センター長候補者は、愛媛大学（以下「本学」という。）の専任教員のうちから先端研究推進会議が推薦し、学長が選考する。

2 センター長の任期は、2年とし、再任を妨げない。ただし、補欠により任命されたセンター長の任期は、前任者の残任期間とする。

(専任教員)

第8条 センターの専任教員は、先端研究推進会議が推薦し、学長が選考する。

(職務)

第9条 センター長は、センターの業務を掌理する。

2 センターの専任教員は、センター長の職務を助け、センターの業務を処理する。

3 センター職員は、センターの業務に従事する。

(研究員)

第10条 センターに、研究員を置くことができる。

2 研究員は、センターの研究計画に基づき、研究に従事するものとする。

3 研究員は、本学の専任教員のうちから運営委員会の推薦により、学長が任命する。

4 研究員の任期は2年以内とし、再任を妨げない。

(客員研究員)

第11条 学長は、他の大学又は公設試験研究機関の研究者のうちから運営委員会の推薦により、センターの研究計画に基づき研究に従事する者を客員研究員として委嘱することができる。

2 客員研究員の任期は2年以内とし、再任を妨げない。
(利用)

第12条 センターの利用に関する規程は、別に定める。
(生物環境試料バンク)

第13条 センターに、生物・環境試料を収集管理し、学内外の研究に供する生物環境試料バンク（以下「バンク」という。）を置く。

2 バンクに関する規程は、別に定める。
(研究生)

第14条 センターは、研究生を受け入れることができる。
2 研究生の入学選考は、運営委員会で行う。

(事務)

第15条 センターに関する事務は、研究支援部研究拠点事務課において処理する。

(雑則)

第16条 この規則に定めるもののほか、センターに関し必要な事項は、別に定める。

附 則

この規則は、平成16年4月1日から施行する。

附 則

この規則は、平成16年6月9日から施行する。

附 則

この規則は、平成16年11月16日から施行する。

附 則

この規則は、平成18年4月1日から施行する。

附 則

この規則は、平成20年4月1日から施行する。

附 則

この規則は、平成20年10月1日から施行する。

附 則

この規則は、平成21年4月1日から施行する。

附 則

この規則は、平成22年4月1日から施行する。

附 則

この規則は、平成22年4月14日から施行し、平成22年4月1日から適用する。

附 則

この規則は、平成22年9月7日から施行し、平成22年7月7日から適用する。

愛媛大学沿岸環境科学研究センター運営委員会規程

平成16年4月1日
規則第26号

(趣旨)

第1条 この規程は、愛媛大学沿岸環境科学研究センター規則第6条第2項の規定に基づき、愛媛大学沿岸環境科学研究センター運営委員会（以下「運営委員会」という。）の組織及び運営に関し、必要な事項を定めるものとする。

(審議事項)

第2条 運営委員会は、次の各号に掲げる事項を審議する。

- (1) 愛媛大学沿岸環境科学研究センター（以下「センター」という。）の運営に係る基本事項に関すること。
- (2) センターの予算及び決算に関すること。
- (3) その他センターの運営に関すること。

(組織)

第3条 運営委員会は、次の各号に掲げる委員をもって組織する。

- (1) センター長
- (2) センターの講師以上の専任教員

(3) 各学部の専任教員 各1人

(4) 研究支援部長

(5) その他委員長が必要と認めた者

2 前項第3号の委員は、各学部長が推薦し、学長が任命する。

3 第1項第5号の委員は、運営委員会の議を経て委員長が推薦し、学長が任命する。

4 第1項第3号の委員の任期は、2年とし、再任を妨げない。ただし、委員に欠員が生じたときはこれを補充し、その任期は、前任者の残任期間とする。

(委員長)

第4条 運営委員会に委員長を置き、センター長をもって充てる。

2 委員長は、運営委員会を招集し、その議長となる。

3 委員長に事故があるときは、委員長があらかじめ指名する委員がその職務を代行する。

(議事)

第5条 運営委員会は、委員（代理者を含む。以下同じ。）の過半数が出席しなければ議事を開くことができない。

2 議事は、出席した委員の過半数をもって決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

(委員以外の者の出席)

第6条 委員長が必要と認めるときは、委員以外の者を出席させ、説明又は意見を聞くことができる。

(専門委員会)

第7条 運営委員会は、専門的事項を調査検討するため、専門委員会を置くことができる。

2 専門委員会に関する事項は、運営委員会が定める。

(事務)

第8条 運営委員会に関する事務は、研究支援部研究拠点事務課において処理する。

(雑則)

第9条 この規程に定めるもののほか、運営委員会の運営に関し必要な事項は、運営委員会が定める。

附 則

この規程は、平成16年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成16年11月16日から施行する。

附 則

この規程は、平成18年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成20年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成20年10月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成22年4月1日から施行する。

愛媛大学沿岸環境科学研究センター生物環境試料バンク内規

平成16年4月1日
制 定

(趣旨)

第1条 この内規は、愛媛大学沿岸環境科学研究センター（以下「センター」という。）規則第14条第2項の規定に基づき、愛媛大学沿岸環境科学研究センター生物環境試料バンク（以下「試料バンク」という。）の組織及び運営に関し、必要な事項を定めるものとする。

(業務)

第2条 試料バンクは、生物及び環境の試料を収集管理するとともに、学内外の研究に供し、沿岸環境科学の推進に資する業務を処理する。

(組織)

第3条 試料バンクに、次の各号に掲げる職員を置く。

(1) 試料バンク長

(2) その他必要な職員

第4条 試料バンク長は、センター教員のうちからセンター運営委員会が推薦し、センター長が任命する。

- 2 試料バンク長の任期は2年とし、再任を妨げない。
 - 3 試料バンク長はセンター長の指示に従い、試料バンクの業務を掌理する。
- (専門委員会)
- 第5条 試料バンクに、試料バンクに関する重要事項を審議するため試料バンク専門委員会を置く。
- 2 試料バンク専門委員会に関し必要な事項は、別に定める。
- (事務)
- 第6条 試料バンクの事務は、研究支援部研究拠点事務課で処理する。
- (雑則)
- 第7条 この内規に定めるもののほか、試料バンクの運営に関し必要な事項は、別に定める。

附 則

- 1 この内規は、平成16年4月1日から施行する。
- 2 この内規の施行後、最初に任命される試料バンク長の任期は、第4条第2項の規定にかかわらず、平成17年3月31日までとする。

附 則

この内規は、平成16年11月16日から施行する。

附 則

この内規は、平成18年4月1日から施行する。

附 則

この内規は、平成20年4月1日から施行する。

附 則

この内規は、平成20年10月1日から施行する。

附 則

この内規は、平成22年4月1日から施行する。

愛媛大学沿岸環境科学研究センター生物環境試料バンク専門委員会に関する内規

平成16年4月1日
制 定

(趣旨)

- 第1条 この内規は、愛媛大学沿岸環境科学研究センター生物環境試料バンク内規第5条第2項の規定に基づき、愛媛大学沿岸環境科学研究センター生物環境試料バンク専門委員会（以下「委員会」という。）の組織及び運営に関し、必要な事項を定めるものとする。

(審議事項)

- 第2条 委員会は、次の各号に掲げる事項を審議する。

- (1) 生物及び環境の試料（以下「試料」という。）の受入れに関する事項
- (2) 試料の管理に関する事項
- (3) 試料の提供に関する事項
- (4) 試料を用いた共同研究に関する事項
- (5) その他試料に関し必要な事項

(組織)

- 第3条 委員会は、次の各号に掲げる委員をもって組織する。

- (1) 試料バンク長
 - (2) その他試料バンク長が指名する者
- 2 前項第2号の委員は、試料バンク長が推薦し、センター長が任命する。
- 3 第1項第2号の委員の任期は2年とし、再任を妨げない。ただし、委員に欠員が生じた場合の後任者の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

(委員長)

- 第4条 委員会に、委員長を置き、試料バンク長をもって充てる。

- 2 委員長は、委員会を招集し、その議長となる。

(議事)

- 第5条 委員会は、委員の過半数が出席しなければ議事を開くことができない。

(委員以外の者の出席)

第6条 委員長が必要と認めるときは、委員以外の者を委員会に出席させ、説明または意見を聞くことができる。

(事務)

第7条 委員会の事務は、研究支援部研究拠点事務課で処理する。

(雑則)

第8条 この内規に定めるもののほか、専門委員会の運営に関し必要な事項は、専門委員会が定める。

附 則

1 この内規は、平成16年4月1日から施行する。

2 この内規の施行後、最初に任命される第3条第1項第2号の委員の任期は、同条第3項の規定にかかわらず、平成17年3月31日までとする。

附 則

この内規は、平成16年11月16日から施行する。

附 則

この内規は、平成18年4月1日から施行する。

附 則

この内規は、平成20年4月1日から施行する。

附 則

この内規は、平成20年10月1日から施行する。

附 則

この内規は、平成22年4月1日から施行する。

発 行 2010年7月
発行者 愛媛大学沿岸環境科学研究センター
〒790-8577 松山市文京町2番5号
TEL (089) 927-8164
FAX (089) 927-8167
印 刷 創風社出版

この年報は、再生紙・大豆インキを使用しています。

